

社 会 運 動
<p>2・5 政友会、閩族打破・憲政擁護を旗印に相楽郡木津町で演説会開催。 日出 2・6</p> <p>2・6 政友会・国民党、乙訓郡向日町で両党連合演説会開催。2・7には綴喜郡八幡町で開催。京都地方労働運動史</p> <p>2・17 京都立憲青年会、京都市政界の閩族打破、青年への政治思想鼓吹を目的として、三条青年会館にて発会式。 日出 2・18</p> <p>2・17~19 京都立憲青年会発会式に集まった群衆、散会后、日出新聞社・報知新聞社支局・中央倶楽部代議士宅・新京極派出所等を襲い、投石をもって警官と対抗(護憲運動)。17日92名、18日約100名、19日101名逮捕。<sup>(1)</sup> 日出 2・19、20</p> <p>3・2 政友会京都支部、政友会本部の政治姿勢をめぐり脱会派と残留派に分裂。 日出 3・4</p> <p>3・15 鐘紡上京工場鉄工部の職工22名、一職工に対する譴責処分を不当として事務所に乱入。京都地方労働運動史</p> <p>3・17 政友会脱会者を中心として、京都政友倶楽部発会演説会開催。犬養毅・尾崎行雄・竹越与三郎等演説。 日出 3・18</p> <p>3・27 天田郡曾我井村会の小学校経費節減の決議に反対して、村民200名、村長を殴打し役場の備品を破壊。 日出 3・28</p> <p>3・一 伏見町長・宇治町長・宇治村長等、陸軍火薬庫の爆発を機として、宇治火薬庫移転の請願を決議。 日出 3・14</p> <p>5・11 京都政友倶楽部、伏見町で政談演説会開催。7、8百名参加。尾崎行雄「憲政の本義」について講演。 日出 5・12</p> <p>6・14 国民党主催の閩族打破・憲政擁護の演説会、犬養毅を迎えて相楽郡木津町泉座で開催。 日出 6・17</p> <p>7・12 京都帝大総長沢柳政太郎、7教授に対し辞表提出を要求(8・5依願免官発令「京大沢柳事件」の発端)。京大70年史</p> <p>10・3~4 京都市扇面画工21名、扇子貿易商に対し、前借金相殺の廃止、工賃値上げを要求してスト。 日出 10・10</p> <p>12・10 6府会議員、政友会脱会。 日出 12・11</p>
社 会 福 祉
<p>1・10 大谷派婦人法話会、諏訪町で施米。七条・川端・松原・中立・堀川署内計1,400枚。 中外日報 1・9</p> <p>2・15 日赤支部結核予防撲滅施設計画およびその規定を制定(10・14本社の承認を得る)。同支部沿革誌</p>

<p>2・18 市、不就学児童の実態を調査、その数6,500余名。市は特別夜学校設置を提案したが否決され、各学区有志者の事業としてその設置を計画。一方、校長会・学務委員会の代表が夜学校設立の請願書を市に提出。 日出 2・13、18</p> <p>2・一 私立癲狂院、浄土寺馬場町に移る(大3川越病院と改称)。 府誌</p> <p>3・一 東亜慈恵会、下京区東七条上之町に東亜慈恵会塩小路病院を設立。 社会事業便覧</p> <p>3・一 日吉・聚楽両病院にかわる市立伝染病院の設立を市会に提案。 市政史</p> <p>3・一 京都の野口典獄、全国監獄当局者と図り保護事業の安全と統一を期して中央保護会を設立。その支部として葛野・南桑田・船井・天田・中の各郡に保護会を設立。囚人と家庭との調節・相互意思の疏通・囚人の将来などを図る。 日出 3・24</p> <p>3・一 小河滋次郎、『中外日報』に「現代の救済事業」を4回にわたり執筆。 中外日報 3・1~7</p> <p>4・1 府立感化院淇陽学校を船井郡園部村に設立。 告示118号</p> <p>4・2 市立盲啞院聾啞部新築校舍落成式(上京区釜座通樫木町上ル、旧校舍は改善して盲部に、ようやく盲聾教育を分離)。 ろう学校90年史</p> <p>4・一 知恩院、華頂婦人会を創設。奨学・慈善事業の補助、出征兵士の慰問、天災地変における救恤が目的。 知恩院史</p> <p>4・一 地方改善事業団体共立自治会、伏見竹田狩賀町に発会。 市学区大観</p> <p>5・一 大沢善助、富小路三条下ルにキリスト教主義にもとづく少年出獄人の感化保護施設大式義塾を設立。昼は労働に従事させ、夜間は簡易な学科を授ける。また7月にキリスト教牧師を会員として同友会を組織、幼年囚および起訴猶予者の精神面教化を図る。 大沢善助翁、府誌、中外日報</p> <p>7・一 西陣織物組合、6~7月、7~8月のそれぞれ2カ月にわたり徒弟職工を対象に西陣夜学校を開設、総数1,074名。 日出 9・13</p> <p>9・8 市盲啞院盲部鍼按科、生徒実習のため鍼按実習所を置く(外来患者に無料で施術)。 府誌 上</p> <p>10・3 明治天皇没後一周忌を機会に府下社会事業関係施設へ2千円下賜。 府庁文書 大2</p> <p>11・25 留岡幸助、淇陽学校へ来校。 淇陽学校50年史</p> <p>12・30 救世軍京都小隊、貧民救済の目的で寺裏・天部・大仏前などの貧民窟に入り慰問。 日出 12・31</p> <p>12・一 府下の各免囚保護会の連絡機関として府免囚保護連合会を結成。(大12府連合保護会と改称)。 社会時報 10:5</p>
---

参 考
<p>(1) 午後四時に至るや聴衆無慮三千に及び満場立錐の余地なく定刻六時万歳声裡に開会。(略)演説に移らんとする時満場漸く活気立ちて満員の為入場し得ざる場外の大群は会場正門をメリメリと打破りドッと許りに場内に侵入したれば茲に演説会場は大混乱大喧囂を来して総立ちとなり果は演壇を覆して全然演説を不可能ならしめたり。青年会館に押寄せて入場し能はざる群集は口々に円山々々と叫びて東を指して流れ出でたり。(略)円山公園に入りたる群集は枝垂桜を取囲み「実行せよ、断行せよ」と絶叫し又浜岡宅に押寄すべしと叫ぶ者あり八時四十五分其数二万に達せり。弁士は「我々は最早古き官僚宗に耐ふ可からず、京都には浜岡寺や中安寺あり是等の賽銭は瓦礫に限る」と言ふや歓呼の声大に起り「言行一致」の叫びと共に二万の大衆円山を下りて祇園町を西に走る此勢ひに電車は進行を停止するに至れり群集は万歳を唱へつゝ通行禁止の新四条橋を渡り浜岡宅を襲撃すべしと絶叫して一条通り烏丸を走りつゝあり。(略)再び浜岡代議士宅に向ひたる数万の群集は益々猛烈なる勢ひを以て警官の防止を突破し溝板看板を獲物として門の破壊に掛り全部駒寄せを引破りて大道に曳出し屋根を砕き瓦を取って二階に投付け歓声を挙げ勢ひに乗じて邸内に乱入せんとする時群集続々増加して下立売、室町及び衣棚数町の間は人を以て埋められ同邸を警備せる数十名の巡査は群集の勢ひに辟易してか一時姿を見せざりしが纏て警察本部に潜伏し居たる一隊の警官は急報に接して時を移さず駆け付け佩剣を振って鞘の儘遮り無二追ひ立て群集は「ソレ抜剣」と叫びつゝ雪崩を打って下長者町を東へ走り京都日報社に向はんとせしが警官に堰かれて再び日の出新聞社に引返したり〔十時三十五分電話〕 朝日 大2・2・18</p> <p>この年  ▷ 免囚保護団体、天田郡仏教団、熊野郡仏教同盟会、竹野郡崇徳会、綴喜郡仏教和敬会、乙訓郡慈濟会、中郡済済会、相楽郡彰善会、久世郡慈恵会、紀伊郡至道会設立。 府誌 下、府社会事業便覧</p>

日 本
<p>1・4 大杉栄ら近代思想第1回小集会開く。</p> <p>1・12 東京で18団体連合憲政擁護大会、大阪で憲政擁護大会。</p> <p>1・13 大阪で各派連合憲政擁護演説会。</p> <p>1・21 議会15日間停会。</p> <p>1・24 東京新富座に憲政擁護連合会第2回大演説会。</p> <p>1・一 東京・名古屋・京都・大阪で護憲運動さかん。</p> <p>1・一 桃山御陵の用材等を社会事業団体に下賜。</p> <p>2・5 政友会、内閣不信任案提出、再度停会。</p> <p>2・7 立憲同志会結成。</p> <p>2・9 憲政擁護第3回大会、聴衆2万人。</p> <p>2・10 日比谷の内閣弾劾国民大会騒擾化、軍隊出動。</p> <p>2・10 議会三たび停会。</p> <p>2・11 桂内閣総辞職(2・20山本内閣成立)。</p> <p>2・11 大阪の有志演説会、騒擾化。</p> <p>2・11 日本結核予防協会設立。</p> <p>2・13 神戸で騒擾、軍隊出動。</p> <p>2・16 広島で憲政擁護演説会騒擾化。</p> <p>2・23 尾崎行雄ら政友会硬派24名脱会して政友倶楽部組織。</p> <p>3・17 軍人傷痍記章条例公布。</p> <p>4・20 文部省、婦人雑誌に多載の「反良妻賢母主義的婦人論」の取締りを決定、『青鞥』2月号、『女学世界』5月号など発禁。</p> <p>6・13 行政整理発表、軍部大臣現役武官制廃止。</p> <p>6・28~7・1 日本蓄音器に争議、友愛会初調停。</p> <p>7・一 大杉栄らサンジカリズム研究会始める。</p> <p>7・一 日本赤十字社、大正元年の万国会議の議決により肺結核の撲滅をはかる。</p> <p>10・25 石原修&lt;女工と結核&gt;紡績女工の悲惨な労働と罹病の関係を明らかにする。</p> <p>10・31 友愛会創立1周年記念大会。</p> <p>12・23 立憲同志会結党式、総理加藤高明。</p> <p>12・24 中正会結成。</p> <p>この年  ▷ 第1回細民部落改善協議会(融和事業)開催。</p> <p>▷ 東北・北海道凶作、官民共に救済にあたる。</p> <p>▷ 同盟罷業47件(参加5,242人)。</p> <p>▷ ペスト流行。</p> <p>▷ 中央保護会結成(のち輔成会と改称)。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・14 京都帝大法科大学教授・助教授、沢柳事件で辞表提出。24日、文相奥田義人、教授会の人事権を承認。 日出 1・15、京大70年史</p> <p>2・1 三悪税廃止演説会、三条青年会館で開催。約1,500名参加。弁士尾崎行雄ら。営業税、織物税、通行税の全廃、海軍の風紀問題(シーメンス事件)を決議。<sup>(1)</sup> 日出 2・2</p> <p>2・6～7 京都染呉服尚商組合・下京元28組修道会・京都縮緬商組合、営業税全廃決議。 日出 2・8</p> <p>2・10 営業税全廃府下実業家連合大会、三条青年会館で開催。50名の決議実行委員選出し、大多数の委員東上して府下選出代議士に依頼。 日出 2・8、12、16</p> <p>2・13 山城8郡々民大会、伏見大手座で開催。約1千名の商工業者・農民参加。海軍問題についての調査・営業税全廃・地租軽減を決議。その他、下京区第三組、同区公同組合幹事会、綾部実業協会等、営業税全廃決議。 日出 2・14、15、16</p> <p>2・23 内閣弾劾大演説会、五条倶楽部で開催。約2千名参加。海軍収賄問題・悪税廃止問題を取りあげ内閣を糾弾。 日出 2・24</p> <p>3・1 内閣弾劾第2回市民大会、三条千本国技館で開催。約5千名参加。 日出 3・2</p> <p>5・一 福知山町民、北丹電気(株)に対し電灯料金値下げ要求の手段として同盟休灯を断行する模様。 日出 5・17</p> <p>6・上 同志社大学経済部1年生約50名、専任教授の増員・経済部図書室設置等の要求を経済部委員長徳富猪一郎に建議。6・18学校側、要求運動が政治科・英文科にも波及したため、校門を閉鎖し休校を掲示。 日出 6・7、10、23</p> <p>8・13 相楽郡の大地主数十名、同郡会議事堂に会合し租税軽減の請願をすることを決議。 日出 8・15</p> <p>8・一 大戦による生糸暴落と輸出途絶のため西陣機業界不況。<sup>(2)</sup> 西陣織物館記、日出 8・14～</p> <p>8・一 京都府農会長川崎安之助等、地租軽減運動を開始。 日出 8・2、3</p> <p>9・1 南桑田郡篠村西部の村民、知事・郡長に対して区会復旧の請願書提出。第1回区民大会の決議により栗山村長に辞職勧告。9・27第3回区民大会を開き、区会条例復活不可能の場合は分村を期す、区有財産の死守を決議。 日出 9・1、27、29</p> <p>9・14 中郡峯山町の住民、両丹電気会社に対して電灯料値下げを要求して需要者大会開催。交渉決裂の際には電灯休止を決定。11・10電灯料値下げの協定実現。 日出 9・18、11・16</p>	<p>1・10 東本願寺法話会、上京下京両区内貧民1,500名に施米。上長者町250枚、七条署200枚のほかは100枚ずつ。 日出 1・7、中外日報 1・10</p> <p>1・18 京阪神滋賀各県慈善事業懇話会を平安養育院で開催。小河滋次郎を招き、感化救済事業に関して講演。 中外日報 1・15</p> <p>1・一 市盲啞院聾啞部、院友会雑誌『無聴の友』を『院友会誌』と改称し、年4回発行。 府誌 下</p> <p>1・一 日赤京都支部、府立療病院内に結核患者診断所を設置。貧困患者には施薬、重症患者は病院に委託し入院加療させる。 府社会事業便覧ほか</p> <p>2・1 桜島爆発の惨事に対し、死者の追善菩提と遭難生存者救済のため、浄土宗京都布教団一条分隊10名が市内で托鉢を開始。 日出 2・7</p> <p>2・2 東北・西南災害救済資金募集勧誘演説会を市会議事堂で開催。東北農民の食生活、衛生などの現状と救済の必要を説く。出席者、大森知事・井上市長・洪沢栄一など。 日出 2・3</p> <p>2・7 宇治郡内免囚保護を目的に、三宝院で慈教会評議員会を開く。同郡内108カ寺より出金、5カ年据置きとし、その利殖を基金として運用。のち宇治郡慈教会となる。 日出 2・9</p> <p>2・16 市内キリスト教各連合教会では、北海道・東北凶作・薩南震災の罹災民救助のため青年会館で、天災凶作民救済会・慈善活動写真大会を開催し義捐物品をつのる。また、各協会でも救済活動に尽力。 日出 2・16、17</p> <p>4・6 救世軍京都小隊、同軍の出獄人救済所、労働者失業者救済その他の事業資金獲得のため、寄附金募集にあたる。 日出 4・7</p> <p>4・15 京都盲啞慈善会、財団法人盲啞保護院を設立。盲啞院の卒業生および盲聾者の保護教育・就業指導のため、姉小路千本東入ルに授産所、舎宅を設置。府誌、府社会事業便覧、府庁文書 大15</p> <p>6・13 社会廓清講演会を廓清会、婦人矯風会両京都支部の主催により市議事堂で開催。「廓清の新気運」、「現在社会に対する希望」を論じ、廓清の急務を説く。聴衆500余名。 日出 6・14</p> <p>6・一 昭憲皇太后大喪に際し、恩賜金15,000円を慈恵救済基金にする。 府統計書 大7</p> <p>8・21 園部マキ、<sup>(3)</sup>西陣の乳幼児を救済するため、米国宣教師ベック女史と共に信愛保育園を開設(大12上京区丸太町日暮西入)。保育料1日1銭5厘～2銭。(京都市における保育所のはじめ)。 社会時報、社会事業便覧、府庁文書 大15</p> <p>12・3 連合軍傷病兵救済会京都支部発起人会を開催。(知事・市長なども出席)。 日出 12・4</p>

参 考	日 本																													
<p>(1) 大蔵省は京都・桐生・足利その他の機業地の織物消費税課税標準価格を8分引下げ(日出大3・10・2)。また大4・1・1から営業税法改正実施(課税基準引下げ、物品販売業は売上1,000円から課税が2,000円に軽減)。</p> <p style="text-align: center;">営業税納税者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>大正3年度</th> <th>大正4年度</th> <th>差 引</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上 京 区</td> <td>7,410</td> <td>4,397</td> <td>△3,013</td> </tr> <tr> <td>下 京 区</td> <td>10,791</td> <td>4,476</td> <td>△6,315</td> </tr> <tr> <td>愛 宕 郡</td> <td>411</td> <td>175</td> <td>△236</td> </tr> <tr> <td>葛 野 郡</td> <td>976</td> <td>533</td> <td>△443</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 課税基準引下げによる。 日出 大3・10・2、4・1・11、2・2</p> <p>(2) 大戦の影響により貿易杜絶し、生産減退。生糸暴落により養蚕家・西陣・丹後地方の機業家は休機を断行。陶磁器業者は、輸向陶磁器の製造を中止し工賃の値下げ実施を協定。また、扇子団扇の業者は一時休業を決定し、このため約1千名の失業者発生。 日出 3・14～16、10・4</p> <p>・大戦の影響により失業した者等貧民調査結果(上京区内)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>甲種(最も甚しき赤貧者)</td> <td>133戸</td> <td>404名</td> </tr> <tr> <td>乙種(貧民中の中等)</td> <td>778戸</td> <td>1,657名</td> </tr> <tr> <td>丙種(漸く口を糊する者)</td> <td>344戸</td> <td>1,194名</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">上京区役所調査(大3・8～10)</p> <p>(3) 園部マキは同志社出身、米国に留学シフィラデルフィヤの一致教会附属看護学校に入学。帰国後社会事業に身を投じる。はじめ民家で貧困産婦の施療をしていたが、この年産児の保育事業をおこす。当時の全国保育所数は約30であった。</p>	区 分	大正3年度	大正4年度	差 引	上 京 区	7,410	4,397	△3,013	下 京 区	10,791	4,476	△6,315	愛 宕 郡	411	175	△236	葛 野 郡	976	533	△443	甲種(最も甚しき赤貧者)	133戸	404名	乙種(貧民中の中等)	778戸	1,657名	丙種(漸く口を糊する者)	344戸	1,194名	<p>1・14 憲政擁護会、悪税廃止第1回有志大会開催。</p> <p>1・23 シーメンス事件暴露。</p> <p>1・28 堺利彦『へちまの花』創刊(～19号)。</p> <p>2・5 国民・同志・中正の連合成立。</p> <p>2・10 日比谷の政府弾劾国民大会、騒擾化。</p> <p>2・11 日本移民協会設立(会頭大隈重信)。</p> <p>2・14 廃税問題国民大会開催、民衆議事堂を包囲。</p> <p>2・一 東京で発疹チフス発生、各地で流行。</p> <p>3・23 内閣弾劾上奏案上程、議会停会(23日山本内閣総辞職)。</p> <p>3・31 肺結核療養所設置及び国庫補助に関する法律公布。</p> <p>4・16 第2次大隈内閣成立。</p> <p>5・5 福田狂二ら、日本労働党を組織。</p> <p>5・13 全国仏教徒社会事業大会開催。</p> <p>5・一 昭憲皇太后御大喪にあたり慈恵救済資金60万円下賜。</p> <p>6・7 融和事業を目的に帝国公道会結成(会長大江天也、9・15『公道』を創刊)。</p> <p>6・17 日本労働党結成禁止。</p> <p>6・18 原敬政友会総裁就任。</p> <p>6・20 東京モスリン紡績争議(～21日)。</p> <p>7・2 岐阜で電灯料値下げ要求の市民大会、騒擾化。</p> <p>7・28 世界大戦おこる、経済界動揺。</p> <p>8・3 諸株大暴落。</p> <p>8・23 対独宣戦布告。</p> <p>8・一 大戦の影響で米価暴騰。</p> <p>9・1 大杉栄ら『近代思想』廃刊。</p> <p>9・6 名古屋電車賃値下げ要求市民大会開催。電車焼打事件おこる。</p> <p>9・9 片山潜渡米。</p> <p>10・1 友愛会第1回協議会、会則修正、会費値上げ決定。</p> <p>10・15 大杉栄ら『平民新聞』創刊。</p> <p>11・1 『友愛新報』、『労働及産業』と改題。</p> <p>12・15 福岡県方城炭坑でガス爆発、死者687人(日本最大の事故)。</p> <p>12・25 衆議院2箇師団増設案を否決、解散。</p> <p>12・一 日本トラホーム予防協会設立。</p> <p>この年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 日本聾啞協会設立。</li> <li>▷ 同盟罷業50件(参加7,904人)。</li> <li>▷ 戦争景気の波にのり、産業・経済界急激に膨張。</li> </ul>
区 分	大正3年度	大正4年度	差 引																											
上 京 区	7,410	4,397	△3,013																											
下 京 区	10,791	4,476	△6,315																											
愛 宕 郡	411	175	△236																											
葛 野 郡	976	533	△443																											
甲種(最も甚しき赤貧者)	133戸	404名																												
乙種(貧民中の中等)	778戸	1,657名																												
丙種(漸く口を糊する者)	344戸	1,194名																												
<p>12・12 京都市役所処務規程を改正。第2部庶務課で賞恤慈恵を、衛生課で衛生に関する件を一切担当。 市告示274号</p> <p>12・一 京都救世軍小隊、京極に慈善鍋をたて貧民に慰問カゴをおくる計画。 日出 12・18</p> <p>この年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 第1次世界大戦開始にあたり恤兵救恤がさかん。帝国軍人後援会京都支会による生活扶助96戸、救護費(慰問保護、軍人幼児保育所、救護費などを併せて)2,317円。 日出 大4・3・10</li> <li>▷ 市内28小学校において夜間特別教授をはじめ不就学児童の救済を実施。 市政史上</li> <li>▷ 免囚保護団体、愛宕郡四恩会・乙訓郡慈済会・久世郡樹徳会設立。 府社会事業便覧</li> </ul>																														

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・14 久世郡御牧村字森・西一口等の小作人100余名、田畑用の排水ポンプ備付けを要求して村長宅におしかけ、戸、障子を破壊。30余名を逮捕。 日出 1・23</p> <p>1・一 友愛会京都分会、<sup>(1)</sup> 会員43名をもって余部町の舞鶴工廠に結成。 京都地方労働運動史</p> <p>3・上 乙訓郡向日町々会の嵐山電鉄の電灯不買決議により、1カ村を除く1町9カ村全部休灯。約3カ月休灯を実行したが、電灯町営策行詰り会社側勝利。 日出 6・5</p> <p>3・一 伏見中書島遊廓の芸妓、町税軽減の嘆願書を町会議員に提出。 日出 3・29</p> <p>4・20 友愛会京都支部発足（分会会員約300名に達し支部に昇格。会長鈴木文治を迎えて京都（余部）支部発会式挙行。来会社約1,000余名。支部長河辺勝麿、幹事長会津弥三郎選出）。 労働及産業6月号、京都地方労働運動史</p> <p>5・25 山城8郡の住民有志約40名、府税戸数割反対期成同盟会を結成。 日出 5・26</p> <p>5・28 国民同盟会主催の対支外交失敗内閣攻撃大演説会、三条青年会館にて開催。弁士は、財部熊次郎・小川運平・奥繁三郎ら。 日出 5・29</p> <p>5・30 国民同盟会主催の内閣弾劾府民大会、三条青年会館にて開催、参加者約1千名。弁士は、宮崎滔天・佐々木照山等。 日出 5・31</p> <p>7・11 新舞鶴町の車夫53名、若狭自動車と馬車等運行による不景気を理由に、車貸主に対し貸賃値下げを要求してスト。13日、値下げの協定まとまり妥結。 日出 7・16</p> <p>8・8 京都市内の煙管工、問屋に対し賃上げを要求してスト。警察署の調停、交渉の継続により、21日値上げを獲得して解決。 日出 8・24</p> <p>8・23 政友会近畿大会、三条青年会館で開催。代議士、府県議員其の他黨員約600名参加し、憲政擁護・内閣弾劾の宣言書採択。原敬・江原素六・床次竹二郎等演説。 同上</p> <p>10・9 紀伊郡向島村農民、耕地整理と府議員選挙問題で農民の意向に反した高利貸・地主たる伴留三郎の家を襲い建物を破壊。56名起訴。 日出 10・11、大5・4・9</p> <p>11・一 御大典の際に集められた人力車夫、支払額が約束の賃金より低いことを理由にスト。 労働及産業12月号</p> <p>12・16 市内の煙管工数百名、生地師問屋の賃下げ通告に反対し、60余名団交を開始。問屋側の賃下げ通告撤回により即日妥結。 日出 12・18</p>	<p>1・一 京都市立盲啞院生に灸術無試験検定を指定される。 市政史上</p> <p>1・一 日吉病院を葛野郡西院村に移し、聚楽病院と合併、市立京都病院と改称。主として、伝染病患者を収容（落成式2・5）。 府庁文書 大4、市会史</p> <p>3・一 船井郡園部町字大村本福寺婦人会の有志、生活改善講を組織、台所改善に着手。 社会時報 2:2</p> <p>4・1 キリスト教婦人矯風会第23回大会、同志社女学校講堂で開催。出席者小崎チヨ・デントン・矢島楯子・山室軍平など。子女教育における報国・貞操が論じられ、また山室らによって「社会矯風と婦人」などが説かれる（～3日）。 日出 4・2</p> <p>6・一 天田郡細見村に博愛団設立。村内篤志家の寄附により火災見舞・貧困救済・病氣見舞・育児院寄附・行旅病者救助などを実施。細見村史</p> <p>6・一 南桑田郡保津村に保津五苗財団設立。保津五苗の子弟の学芸奨励、貧困救済などに尽力。 府社会事業便覧、公同委員制度</p> <p>11・一 府、大礼恩賜金16,800円を府賑恤基金とする。 府統計書 大7</p> <p>11・一 中央慈善協会主催の第3回全国慈善大会を京都市会議事堂で開催。大隈首相、皇室の慈恵と世人の事業に対する理解を強調。また米田庄太郎「浮浪人の研究」、小河滋次郎「公私の救済事業の関係」を論じる。11・15中央慈善協会京都支部を結成。<sup>(2)</sup> 日出 11・16、社会時報、府庁文書 大15</p> <p>この年 ▷ 相楽郡川西村の有志、彰善会を結成（貧民救済・思想善導・社会教化を目的）。府公報 昭10</p>

参 考	日 本																																													
<p>(1) 友愛会京都分会 友愛会は大元・8鈴木文治ら15人によって東京三田・ユニテリアン教会惟一館で創立された。その綱領は、「一、我等は互いに親睦し、一致協力して、相愛扶助の目的を貫徹せんことを期す。一、我等は公共の理想に従い、識見の開発、徳性の函養、技術の進歩を図らんことを期す。一、我等は協同の力により、着実なる方法を以て、我等の地位の改善を図らんことを期す。」というもので、その名称と同様に多分に共済組合的、修養団体的性格が強かった。しかし明43の大逆事件後の厳しい情勢のなかで近代的労働組合運動の原型として発足していくためには止むを得ない一過程であったかもしれない。その後、労働組合としての性格を強めるに従って、その名称は大日本労働総同盟友愛会（大8）、日本労働総同盟友愛会（大9）、日本労働総同盟（大10）へと変っていった。京都における友愛会支部の創立は、以前東京に住んでいた舞鶴工廠の工手会津弥三郎の活動によるものである。創立時の会員43人は次の通りである。</p> <table border="0" data-bbox="1617 913 2122 1417"> <tr> <td>西田清太郎</td> <td>岡本儀太郎</td> <td>浜本彦太郎</td> </tr> <tr> <td>糸屋直之助</td> <td>大橋庄太郎</td> <td>福永 豊二</td> </tr> <tr> <td>小山 一男</td> <td>千田 喜一</td> <td>清水 金八</td> </tr> <tr> <td>岸田 豊蔵</td> <td>円仏 与市</td> <td>福丸 格郎</td> </tr> <tr> <td>井上忠三郎</td> <td>米谷卯之助</td> <td>大町 助次</td> </tr> <tr> <td>久保繁之助</td> <td>柿本仙太郎</td> <td>岩橋卯三郎</td> </tr> <tr> <td>中山 栄松</td> <td>菅原美之助</td> <td>会津春太郎</td> </tr> <tr> <td>松江 良蔵</td> <td>米田繁太郎</td> <td>横山 福作</td> </tr> <tr> <td>藤田 正義</td> <td>橋 楠太郎</td> <td>八木惣次郎</td> </tr> <tr> <td>黒田虎之助</td> <td>田中 常三</td> <td>服部金二郎</td> </tr> <tr> <td>結城謙太郎</td> <td>宮島治七郎</td> <td>柏分権右衛門</td> </tr> <tr> <td>堀江栄太郎</td> <td>会津弥五郎</td> <td>藤原庄三郎</td> </tr> <tr> <td>島田 肇</td> <td>神山 時蔵</td> <td>安田 四郎</td> </tr> <tr> <td>山中 明敏</td> <td>山本 竹松</td> <td>高山 留蔵</td> </tr> <tr> <td>広浜 茂</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(2) 大正天皇ご大典を記念し京都で開催。このとき中央慈善協会の京都支部が結成されたが、大7・7独立して府慈善協会となり大11・10に府社会事業協会と改称し、大平洋戦争時には府厚生事業協会と改称。会員組織で、府下の社会事業団体や社会事業関係者などの連絡調整、社会事業の奨励、調査研究、講演会などの開催、その他目的達成のための事業を行なった。</p>	西田清太郎	岡本儀太郎	浜本彦太郎	糸屋直之助	大橋庄太郎	福永 豊二	小山 一男	千田 喜一	清水 金八	岸田 豊蔵	円仏 与市	福丸 格郎	井上忠三郎	米谷卯之助	大町 助次	久保繁之助	柿本仙太郎	岩橋卯三郎	中山 栄松	菅原美之助	会津春太郎	松江 良蔵	米田繁太郎	横山 福作	藤田 正義	橋 楠太郎	八木惣次郎	黒田虎之助	田中 常三	服部金二郎	結城謙太郎	宮島治七郎	柏分権右衛門	堀江栄太郎	会津弥五郎	藤原庄三郎	島田 肇	神山 時蔵	安田 四郎	山中 明敏	山本 竹松	高山 留蔵	広浜 茂			<p>1・18 中国に21カ条要求を提出。</p> <p>1・25 米価調節令公布（廃止大7）。</p> <p>1・31 株式相場大高騰。</p> <p>1・一 堺利彦・荒畑寒村・高島素之ら茶話会の後身として、社会講演第1回を開催。</p> <p>2・一 サンジカリズム研究会、平民講演会と改称し第1回開催。</p> <p>2・一 警視庁不正白米商を検挙。</p> <p>3・25 総選挙、大浦内相の大干渉。</p> <p>3・一 月刊『平民新聞』廃刊。</p> <p>5・25 日中新条約調印。</p> <p>6・2 衆議院、師団増設案を可決。</p> <p>6・3 東京歌舞伎座に内閣弾劾全国有志大会を開催。</p> <p>6・21 無尽業法公布（無尽講、頼母子講を免許制とし運用取締強化）。</p> <p>6・27 大浦内相の議員買収判明。</p> <p>6・30 内務省、看護婦規則公布（施行10・1）。</p> <p>7・一 東京、大阪、神戸3市に市立結核療養所の設置を命令（同設置命令のはじめ）。</p> <p>7・一 内務省主催第1回感化救済事業地方講習会をはじめて大阪で開催。</p> <p>8・10 大隈内閣改造。</p> <p>8・14 東京新富座に改造内閣弾劾大演説会を開催。</p> <p>9・23 東京期米相場暴落（前年3月からの米価低落、この後上昇に転ずる）。</p> <p>9・一 堺利彦・高島素之ら『新社会』を創刊。</p> <p>10・1 大杉栄ら『近代思想』を再刊、連続発禁のため4号で廃刊。</p> <p>10・7 米価調節調査会官制公布。</p> <p>10・一 真田増丸、福岡県八幡で大日本仏教救世軍を設立。</p> <p>11・5 堺利彦・高島素之ら売文社の茶話会を社会主義座談会として継続。</p> <p>11・10 御大典に際し、新島襄(故)・留岡幸助・山室軍平・成瀬仁蔵らのキリスト教徒に初の叙位・叙勲・授章。</p> <p>11・一 御大典に際し、賑恤の資として御内帑金100万円下賜。</p> <p>12・4 東京株式市場暴騰（いわゆる大戦景気のはじまり）。</p> <p>12・11 仏教連合会結成。北里研究所開所式。</p> <p>12・15 東京明治座に内閣弾劾大演説会を開催。</p> <p>この年 ▷ 大戦のため外国医薬品の輸入杜絶、ために不良医薬品がはびこる。</p>
西田清太郎	岡本儀太郎	浜本彦太郎																																												
糸屋直之助	大橋庄太郎	福永 豊二																																												
小山 一男	千田 喜一	清水 金八																																												
岸田 豊蔵	円仏 与市	福丸 格郎																																												
井上忠三郎	米谷卯之助	大町 助次																																												
久保繁之助	柿本仙太郎	岩橋卯三郎																																												
中山 栄松	菅原美之助	会津春太郎																																												
松江 良蔵	米田繁太郎	横山 福作																																												
藤田 正義	橋 楠太郎	八木惣次郎																																												
黒田虎之助	田中 常三	服部金二郎																																												
結城謙太郎	宮島治七郎	柏分権右衛門																																												
堀江栄太郎	会津弥五郎	藤原庄三郎																																												
島田 肇	神山 時蔵	安田 四郎																																												
山中 明敏	山本 竹松	高山 留蔵																																												
広浜 茂																																														

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・21 西陣織物同業組合主催全国織物業者大会、同組合事務所で開催。議案の一つとして、工場法施行後において織物等の労働時間を14時間にされたいとの農商務大臣への建議を提出。理由は、労働時間の短縮は生産額の減少、生産費の増大、職工の収入低下をもたらし、また職工自身14時間労働を苦痛と感じていない、というもの。 日出 1・21、22</p> <p>1・一 西陣織物界活気を呈し、機数の増設、賃織業者・職工の争奪激烈。日出 2・3、3・6</p> <p>2・一 府下の農民、地租軽減と農業資金融通の建議書を府庁を経由して内閣総理・農商務・大蔵の3大臣に提出。日出 2・20</p> <p>3・2 友愛会京都支部、鈴木会長を迎えて第1回講演会を加佐郡余部町寿亭で開催、約800人参加し、「米国に於ける排日の原因」について3時間余の長講演を行なった。労働及産業 大5・5</p> <p>4・1 工場法施行にともない、工場監督課を府に新設、監督官は原佐一。日出 3・31</p> <p>9・1 府、工場法施行細則を定める。 府令52号</p> <p>9・一 染物工場の現在の徒弟を工場法上の徒弟として取扱ってほしいとの西陣織物・京都染物組合業者の陳情に対し、原工場監督官拒絶す。理由は、工場法の指定する徒弟は教養を主眼とし一定の教場において教習を受ける者を意味するが、染工場の徒弟はその実質においては職工と異なる業務に服しているからというもの。 日出 9・25</p> <p>11・26 立憲国民党京都支部総会開催。内閣打倒・選挙権の拡張・地方自治の改善に関して決議採択。 日出 11・27</p> <p>この年 ▷ 京都市内の鉄工を組織した親友会結成される。会長杉本元次郎(大8・2、友愛会に合同し、友愛会親友支部となる)。京都地方労働運動史 ▷ 織物業界活況で職工の争奪さかん。<sup>(1)</sup></p>	<p>4・一 府、学校衛生主事を設置。府統計書</p> <p>4・一 上京区南禅寺福地町に会員組織の実践救済会を設立、窮民救助にあたる(大10雑誌『救済』を発行)。府公同委員制度</p> <p>5・19 市立盲啞院聾啞部、市長に市内各区の聾啞幼児の調査を依頼(この年度主に発音教授をするため幼稚科設置)。ろう学校90年史</p> <p>6・26 出水のため府下被害続出。総浸水家屋1,300余、紀伊郡の被害甚大、罹災者を救助。府統計書 大7</p> <p>9・一 市内にコレラ発生。市会史</p> <p>10・一 鉄道保養院、関西分院を京都駅構内に設置。当初は鉄道公傷者を分院に収容。機能障害程度に応じて授産事業をおこす。また機能障害がひどく院内に収容不可能な者は生計の補助を行なう(大6財団法人に改組)。社会時報 10:5</p> <p>12・4 ワクチン製造所(京都市岡崎町)設置認可(医師田中秀三により新設)。大阪朝日 12・6</p> <p>この年ごろ ▷ 京都市の乳幼児死亡率著しい。その死因は、消化器・呼吸器・先天性弱質・畸形・乳児脚気・脳膜炎など多し。<sup>(2)</sup> 社会 4:5</p>

参 考	日 本																																																																												
<p>(1) 過去数年来不振の織物業界も、戦乱の影響を受けて漸次好況となり、大5前半には大活況を呈した(例えば丹後縮緬は平年に比べ約4割増の生産額)。したがって職工の賃金も上がり、また機数の増加等による職工不足から職工の争奪・誘拐がひんびんと起っている。大6・2に何鹿郡綾部町で府下製糸業者大会が開かれ職工誘拐防止が重要な議案として提出されている。 日出 大4・5・23、大5・3・19、大6・2・7</p> <p>(2) 乳幼児の死亡率(生産児100に対して)大5～9の平均。</p> <table border="1"> <tr> <td>大 阪 市</td> <td>24</td> <td>名 古 屋 市</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>京 都 市</td> <td>21</td> <td>東 京 市</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>神 戸 市</td> <td>20</td> <td>シ カ ゴ</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>横 浜 市</td> <td>19</td> <td>ベルリン</td> <td>13</td> </tr> </table> <p>○ 恤救規則による済貧恤救人員および金額(京都)国費のみ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 次</th> <th>人 員</th> <th>金 額</th> </tr> <tr> <td></td> <td>人</td> <td>円</td> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>明28</td><td>276</td><td>2,217</td></tr> <tr><td>29</td><td>255</td><td>2,189</td></tr> <tr><td>30</td><td>276</td><td>2,503</td></tr> <tr><td>31</td><td>308</td><td>3,698</td></tr> <tr><td>32</td><td>337</td><td>2,302</td></tr> <tr><td>33</td><td>210</td><td>2,613</td></tr> <tr><td>34</td><td>207</td><td>2,560</td></tr> <tr><td>35</td><td>183</td><td>—</td></tr> <tr><td>36</td><td>208</td><td>3,062</td></tr> <tr><td>37</td><td>206</td><td>3,063</td></tr> <tr><td>38</td><td>168</td><td>3,360</td></tr> <tr><td>39</td><td>205</td><td>3,112</td></tr> <tr><td>40</td><td>200</td><td>3,228</td></tr> <tr><td>41</td><td>109</td><td>2,550</td></tr> <tr><td>42</td><td>55</td><td>1,026</td></tr> <tr><td>43</td><td>47</td><td>773</td></tr> <tr><td>44</td><td>39</td><td>951</td></tr> <tr><td>大1</td><td>34</td><td>974</td></tr> </tbody> </table> <p>(大8の参考につづく)</p>	大 阪 市	24	名 古 屋 市	18	京 都 市	21	東 京 市	17	神 戸 市	20	シ カ ゴ	13	横 浜 市	19	ベルリン	13	年 次	人 員	金 額		人	円	明28	276	2,217	29	255	2,189	30	276	2,503	31	308	3,698	32	337	2,302	33	210	2,613	34	207	2,560	35	183	—	36	208	3,062	37	206	3,063	38	168	3,360	39	205	3,112	40	200	3,228	41	109	2,550	42	55	1,026	43	47	773	44	39	951	大1	34	974	<p>1・6 名古屋監獄全焼(囚人2,320人を嚴重警戒)。</p> <p>1・一 『婦人公論』創刊。</p> <p>1・一 吉野作造、『中央公論』に論文『憲政の本議を説いて其有終の美を済すの途を論ず』を発表、大正デモクラシーの運動開始。</p> <p>3・14 東京で電車賃値上げ反対市民大会開催。</p> <p>4・2 友愛会磐城連合会設立。</p> <p>4・一 荒畑寒村ら『労働組合』発刊。</p> <p>6・28 保健衛生調査会官制公布。</p> <p>6・一 友愛会、婦人部を新設。</p> <p>7・27 横浜入港の布哇丸乗客にコレラ発生し以後全国各地に流行。</p> <p>8・1 機関紙『友愛婦人』発刊。</p> <p>8・11 横浜船渠解雇反対争議(～16日)。</p> <p>9・1 西尾末広ら大阪に職工組合期成同志会設立。</p> <p>9・1 工場法施行(職工15人以上の工場で、12歳未満者の就業禁止など規定)。</p> <p>9・11 河上肇の「貧乏物語」、『大阪毎日』に連載開始。</p> <p>10・4 大隈内閣総辞職、10・9 寺内内閣成立。</p> <p>10・10 立憲同志会解散憲政会結成、総裁加藤高明。</p> <p>10・12 全国記者大会、閥族官僚政治の排斥を決議。</p> <p>10・21 大阪婦人矯風会、大阪府の飛田遊廓地指定に反対し府庁へ母親デモ。</p> <p>10・31 欧友会解散、欧文印刷工50余名で信友会創立協議会開催。</p> <p>11・5 東京に仏教護国団設立。</p> <p>11・10 大日本医師会創立大会(会長北里柴三郎)。</p> <p>12・12 ドイツ皇帝講和提案、連合国拒否。</p> <p>この年 ▷ 争議件数108件、参加人員8,413人。 ▷ 巨大な戦時景気現出(化学工業・鉄工・機械工業の新設多し)。</p>
大 阪 市	24	名 古 屋 市	18																																																																										
京 都 市	21	東 京 市	17																																																																										
神 戸 市	20	シ カ ゴ	13																																																																										
横 浜 市	19	ベルリン	13																																																																										
年 次	人 員	金 額																																																																											
	人	円																																																																											
明28	276	2,217																																																																											
29	255	2,189																																																																											
30	276	2,503																																																																											
31	308	3,698																																																																											
32	337	2,302																																																																											
33	210	2,613																																																																											
34	207	2,560																																																																											
35	183	—																																																																											
36	208	3,062																																																																											
37	206	3,063																																																																											
38	168	3,360																																																																											
39	205	3,112																																																																											
40	200	3,228																																																																											
41	109	2,550																																																																											
42	55	1,026																																																																											
43	47	773																																																																											
44	39	951																																																																											
大1	34	974																																																																											



社 会 運 動	この年
<p>1・17 同志会京都支部解散・憲政会京都支部発会式、約1千人の党員参加して三条青年会館で開催。憲政擁護・寺内内閣打倒の宣言決議を採択。 日出 1・18</p> <p>1・20 舞鶴町町民大会、舞鶴座で開催。前町長に対する慰労金の支給を不当とし、町会議員の不信任を決議。3・11支給決議案取消により解決。 日出 1・22、3・13</p> <p>2・一 市内奥村電機の労働者152人の加入によって、友愛会京都第一支部結成。幹事長阪井富三郎、通信幹事矢野増次。 京都地方労働運動史、労働及産業5月号</p> <p>3・1 京大学生政談演説事件(京大法科の学生高山義三・田万清臣等5人、綾部で憲政思想の普及を目的とした政談演説会を開き、大学当局より注意を受ける)。(1) 日出 3・8、9</p> <p>3・一 京都日出新聞社の労働者6人によって、友愛会京都支部日出分会結成。 京都地方労働運動史、労働及産業4、6月号</p> <p>5・15 友愛会京都第1支部結成式、鈴木文治会長を迎えて岡崎六盛倶楽部で開催。支部役員選出(支部長高山義三、幹事長布施弥吉、会計検査役松田一登、幹事増田勝男、大和田積三、奥村甚之助ほか)。 京都地方労働運動史</p> <p>7・一 京都市電乗務員、物価騰貴を理由に賃上げを要求。20日、京都市会、市下級吏員と電鉄乗務員の増給案を可決。 日出 7・11、21</p> <p>8・9 市内の煙管工、賃上げを要求してスト。21日、煙管同業組合側値上げを承諾し解決。 日出 8・23</p> <p>8・13 逢坂山トンネルに従業の坑夫200余人、元請負に前貸金支給を拒絶された親方(下請業者)の懇請によりスト。 日出 8・22、23</p> <p>8・20 市内の石工200余人、約定の賃上げ額全額支給を要求してスト。24日、双方の妥協により解決。 日出 8・23~25</p> <p>9・一 市内の畳職工、賃上げを要求して団体交渉。 日出 9・26</p> <p>9・一 紀伊郡の小作農民、立縄使用に反対し地主側に対し示威運動。 日出 9・18</p> <p>10・30 友愛会京都支部第2分会(京都織物)発会式、鈴木文治・松岡駒吉大阪連合会主務を迎えて開催。 京都地方労働運動史、労働及産業 大7・10</p> <p>10・30 京大弁論部、鈴木文治を迎えて学内で講演会開催。鈴木、「戦後に於ける労働問題」と題し講演。 日出 10・31</p> <p>12・9 友愛会舞鶴支部(5月余部支部(京都支部)は舞鶴支部と改称)、鈴木文治を迎えて講演会開催。 京都地方労働運動史</p> <p>12・25 府、産業組合法施行細則を定める。 府令59号</p> <p>12・一 中郡各村の小作農民1千余人、小作人大会を開き、郡当局者・地主に対し奨励米の増額を要求。 日出 12・27</p>	<p>▷ 工場法施行(大5・9・1)により、職工の権利意識発生し、治療費の請求・就業時間の確立等を要求する事態が生じ、非適用工場の職工にも大きな影響を与える。 日出 2・4</p>
社 会 福 祉	
	<p>2・11 白川学園・協同夜学校などの慈善救済団、紀元節に際し内務省から表彰される(他に平安養育院・酬恩夜学校・天主教女子教育院など)。 日出 2・13</p> <p>3・15 市会、京都市慈恵基金管理規程改正を議決。 市会史</p> <p>3・19 府、軍人家族援護基金を設置。 告示127号</p> <p>3・一 帝国軍人後援会支部経営の軍人幼児保育所廃止。のち同会は専ら軍人遺族ならびに傷痍軍人の救護にあたる。 府社会事業便覧</p> <p>4・一 中央慈善協会京都支部などは二重救助の防止、救済事業講習会(内務省管轄)の引受けなどを行なうことになる。 日出 4・16</p> <p>5・19 与謝郡三河内村中坪で大火、全焼40戸、半焼11戸。府、罹災救助にあたる。府統計書 大7</p> <p>7・23 第5回全国盲啞教育大会を京都で開催。 救済研究 5:8</p> <p>9・7 免囚保護団体紀伊郡至道会結成。 府合同委員制度、日出 9・8</p> <p>9・29 暴風雨。紀伊・久世・乙訓・宇治・相楽・綴喜の各郡における被害甚大。死者11、住家流失29、同全潰13、同半潰25、浸水6,059、田畑被害5,180町歩、農作物被害64万6千余円。10月府に対し罹災救恤金650円下賜される。 救済研究 5:10、府統計書 大7</p> <p>10・一 政府、京都市に対して肺結核療養所の設置を命ずる。 市政史上</p> <p>11・2 日赤京都支部、結核予防撲滅のため巡回診療所を開設。天部部落(社務所)を最初に、以後西陣(真教寺)・一貫町(専求寺)・柳原町(学校)などの各方面に開設。 日出 11・3、同支部沿革誌</p> <p>11・3 京都仏教護国団創立。のち養老院・法律相談所等を運営。(2) 社会時報 10:5</p> <p>12・2 軍事救護法(大7・1・1施行)に関連し、府は軍事救護心得・軍事救護法細則を制定。 府令58号</p>

参 考	日 本
<p>(1) この事件を契機に、京都大学評議員会は大学生が政談演説その他の政治運動に参加することを禁止した。理由は、政治運動への参加が学生の本分に背き学業を懈怠させるおそれがあるからという。 日出 3・18</p> <p>(2) 設立の趣旨は「仏教の本旨に基き世界の文化に貢献し、国民の精神を振作統一し、尊皇護国、濟世利民の目的を以て有志僧侶相謀り」というものであった。現在の老人ホーム同和園の前身京都養老院やその他法律相談なども経営した。大西良慶らが尽力。</p>	<p>1・14 池貝鉄工所争議(～17日)。</p> <p>1・20 築地に寺内内閣排斥政治記者大会開催。</p> <p>1・21 憲政会大会寺内内閣反対を宣言、政友会大会厳正中立を決議(1・25議会解散)。</p> <p>2・10 警視庁、雇人口入営業規則・芸娼妓口入営業規則を廃止し、職業営業取締規則を制定。各府県でも同種のものを制定。</p> <p>2・一 河上肇『貧乏物語』刊行。</p> <p>2・一 東京砲兵工廠争議。</p> <p>3・8 東京製鋼深川工場争議。</p> <p>3・12 ロシア2月革命。</p> <p>3・14 室蘭日本製鋼所争議(～20日)。</p> <p>4・6 アメリカ対独宣戦布告。</p> <p>4・6 友愛会第5周年大会、改組決定(～8日)。</p> <p>4・10 日本工業クラブ創立。</p> <p>4・15 欧文工組合信友会発会。</p> <p>4・20 総選挙、政友会第一党。</p> <p>4・20 総選挙に堺利彦立候補、25票で落選。</p> <p>4・一 内務省、京都・横浜・名古屋に結核療養所設置を命令。</p> <p>5・7 在京社会主義者約30人メーデー小集会開催、ロシア革命に対する決議文作成。</p> <p>5・12 岡山県で、濟世顧問設置規程公布(方面委員制度のはじめ。大8・10大阪府、方面委員規程公布)。</p> <p>5・15 友愛会、『社会改良』発刊。</p> <p>6・17 三菱長崎造船所1万2,000人の争議(～29日)。</p> <p>6・30 保健衛生調査会、精神病の全国一斉調査実施(患者64,941人)。</p> <p>7・20 警視庁、不正榾を使用していた東京および府下の米穀商を一斉捜査。</p> <p>7・28 東京富士ガス紡績争議(～8・2)。</p> <p>8・11 大日本実業組合連合会結成。</p> <p>8・18 国立感化院令公布。</p> <p>8・30 物価調整令公布。</p> <p>8・一 内務省救護課新設。</p> <p>9・12 金輸出禁止。</p> <p>10・2 期米暴騰。</p> <p>11・7 ロシア10月革命。</p> <p>11・14 鶴見浅野造船所争議、暴動化(～15日)。</p> <p>12・一 大杉栄・伊藤野枝ら、月刊『文明批評』発刊。</p>
<p>↗ この年</p> <p>▷ 大沢善助、少年免囚保護施設大式塾内に靴下製造所を設け職工に免囚少年を使用。 大沢善助翁</p> <p>▷ 何鹿郡中上林村に助産婦をおく。のち全地区に制度を徹底。乳幼児死亡率の低下に貢献(昭42・6まで続く)。 京都 昭42・6・11</p> <p>▷ 府結核予防協会設立。(この予防協会活動が低調であったため、昭6京都市医師会が再興の働きかけを行なう)。 京都医事衛生誌</p> <p>▷ 府下の米作は天候不順・暴風雨のため収穫は減収、米価高騰。 日出 2・3</p>	<p>この年</p> <p>▷ 争議件数398、参加人員57,309人、小作争議件数85。</p> <p>▷ 貿易収支、未曾有の黒字となる(内地出超額5億6,719万余円)。</p> <p>▷ 全国の不就学児童109,897人。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・2～5 京都市電の現業員約280人、年末賞与を不満としてスト。 労働及産業 大7・2</p> <p>1・15 友愛会西陣支部、会員18人をもって結成。 京都地方労働運動史</p> <p>1・20 西陣の燃糸工200余人によって西陣織工同盟会結成。同盟会、業者団体西陣燃糸同業組合と共に、製品の販売先西陣隆織会に賃上げを要求。30日、同盟会員、隆織会長宅を襲撃し、ストに突入。 労働及産業 大7・3、大阪朝日 1・31</p> <p>2・4 西陣職工同盟会、警察の勧告により解散。 日出 2・6</p> <p>6・22 マルクス講演会、同志社大学経済科講堂で開催。河上博士「マルクスの資本論」、滝本博士「マルクスの価値論」を講演。 日出 6・22</p> <p>7・16 京都市内の箔屋職人125人、集会を開き賃上げ要求を決議。18日賃上げ交渉委員、集会不参加の職人を暴行脅迫し、逮捕さる。 日出 7・21</p> <p>8・7 京都市電の従業員代表20人、賃上げ等について協議し請願書を提出。 京都地方労働運動史</p> <p>8・10 米騒動勃発。京都市東七条部落民などを中心に下京区一帯の米屋を襲撃。<sup>(1)</sup> 日出 8・12</p> <p>8・11 京都全市にわたり2万余の民衆蜂起し、米屋・巡査派出所を襲撃。全市の警官だけでは足らず軍隊出動。綴喜郡八幡町・乙訓郡久世村でも民衆が米屋を襲撃。 米騒動の研究 1、日出 8・12、13</p> <p>8・13 日本機械精工(株)の職工約40人、賃上げを要求してスト。会社側、これに対し20人余を解雇。 日出 8・17</p> <p>8・13 加佐郡余部町で海軍工廠職工約3千人を中心に米屋に襲撃。50人の海軍衛兵・憲兵出動。 日出 8・14、23</p> <p>8・14 京都裁判所延丁、賃上げ嘆願書を提出。 京都地方労働運動史</p> <p>8・14 相楽郡上粕村の村民約150人、米屋におしかけ値下げを承諾させる。米騒動の研究 1</p> <p>8・15 相楽郡笠置村の一部民衆約200人、米屋を襲撃。 同上</p> <p>8・16 相楽郡中和東村の民衆数10名、米屋を襲撃。 日出 10・6</p> <p>8・18 乙訓郡大枝村の青年会員50～60人、資産家を襲撃。 米騒動の研究 1</p> <p>8・19 京都市内の石工、賃上げを要求してスト。 日出 8・21</p> <p>8・21 加佐郡由良村の日雇人夫数十人、村役場の貧民救済対策を不満として村長宅に押しかける。 日出 8・23</p>	<p>1・一 積善社から白米五合券6,000枚施与。また吉田伝次郎(下京区大和と大馬路四下ル)、亡父および亡妻の供養のため市内貧窮者へ白米施米券(2升)1,000枚施与を申出る。 日出 1・27</p> <p>3・23 加佐郡河守町で大火。民家65戸、神社寺院・銀行・劇場各1全焼。民家2半焼。府、罹災者の救助にあたる。 府統計書</p> <p>3・一 療病院精神科病室の改築のため、精神病研究に渡米する野田教授(府立専門学校)にその調査を依頼。 京都医事衛生誌 288号</p> <p>4・23 木内知事、時局に鑑み、「物資需給の關係に妥調を来し、物価昂騰が府民の日常の生計に及び特に中産者以下の生計とみに逼迫を蒙る」を恐れ吏員の増俸を図る。 府統計書</p> <p>4・一 上下京両区長に委任の防疫事務を市衛生課の事務とし、聖護院蓮華町に市防疫事務所を設置。 市学区大観</p> <p>5・一 船井郡上和知村字塩谷で大火。家屋21戸および山林を焼失。府、罹災者を救助。 府統計書</p> <p>6・一 七条警察署、人事相談所を開設。 府公同委員制度</p> <p>7・16 府慈善協会設立。これにより、中央慈善協会から独立(大11・10・22府社会事業協会と改称)。 日出 7・17、府会時報 3・3</p> <p>7・24 本派本願寺の大日本仏教慈善財団、平安中学校で社会救済事業者連合会を開催。出席者200余名。生江孝之(内務省囑託)「保育事業について」、その他「免囚保護」、「救済要義」などが説かれる(～26日)。 日出 7・21、府庁文書 大8</p> <p>8・9 伏見署部内深草村、米価暴騰の折から、部内各駐在巡査に、部内人民の動向、とくに各階級職業別ならびに細民貧民などの状況調査を達す。 日出 8・10</p> <p>8・上 京都市内の白米商多数が廃業。 日出 8月以降</p> <p>8・上 農商務省、府に朝鮮米1万袋の配分を決定。 日出 8・11</p> <p>8・11 京都市、関係者を集め外米移入、販売方法を協議。また緊急臨時市参事会を招集し対策を決定。<sup>(2)</sup> 市政史上</p> <p>8・11 府、新京極の東西屋に米の安売りを依頼して市内へ触れ廻る(1升20銭前後で1千石を特に貧民にゆきわたるように宣伝)。 日出 8・12</p> <p>8・14 内貴基三郎ら京都市内有力者130余名、府庁にて貧民救済策を懇談し臨時救済団を組織。寄附金645,594円、中産者以下を救済すべく米価割引券を配布。極貧者には施米券を施与(たとえば、この月に西陣署が割当てた数上京269戸、900余人、下京89戸、370余人、そのうち極貧者493人(165戸)。川端署では108戸、297人)。 府庁文書、府統計書、日出</p>

参 考	日 本																																																		
<p>(1) 米騒動の前後</p> <p>5・29 京都市堀川署、榊目不足により米穀商人を検束。 日出 5・22</p> <p>5・一 府警察部、外米廉売のため買占の商人の取締りを各警察署に訓示。 日出 5・22</p> <p>5・一 外米の売出し、店頭に人山ができ売れ行き盛況。 日出 5・31、6・3</p> <p>8・10 米騒動勃発(本文)。</p> <p>8・11 貧民救済資金寄付募集開始。京都市参事会、市の直営による外米の販売、市内20カ所に販売所設置、切符制度による販売方法等を決定。 日出 8・12</p> <p>8・13 京都市五条署、市内新京極の各劇場・活動写真・寄席の興行人・活動弁士等を召集し、米騒動について風刺し、またはこれを利用して過激な言語をもって人心を刺激しないようにと諭旨。 日出 8・15</p> <p>8・14 京都米穀商組合、白米の廉価販売を決議。 日出 8・15</p> <p>8・14 伏見署、米騒動の影響により盆踊りを禁止。 日出 8・16</p> <p>8・一 府下鐘紡・奥村電気・日清紡・京都ガス・京都織物会社等の各工場、賃上げ・米穀日用品の廉価支給を実施。 日出 8・14</p> <p>米騒動による被起訴者数は「米騒動の研究」1・5巻によると326人(京都市113、乙訓郡13、綴喜郡35、加佐郡47、相楽郡10、乙訓郡68、久世郡35)。</p> <p>(2) 物価・賃値値上比較(市中)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>物 価</th> <th>大7・10</th> <th>大6・10</th> </tr> <tr> <th>品 種</th> <th>単 位</th> <th>単 位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>米(上)</td> <td>1石</td> <td>45.00</td> <td>24.50</td> </tr> <tr> <td>清 酒</td> <td>1石</td> <td>125.00</td> <td>75.00</td> </tr> <tr> <td>醬 油</td> <td>1石</td> <td>37.00</td> <td>25.00</td> </tr> <tr> <td>賃 銭</td> <td></td> <td>大7・10</td> <td>大6・10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>最高</td> <td>最高</td> </tr> <tr> <td>機織職(日給)(男)賄付</td> <td></td> <td>1.10</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>(女) "</td> <td></td> <td>65</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>陶器ロクロ職(日給)</td> <td></td> <td>1.30</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>大工職(日給)</td> <td></td> <td>2.20</td> <td>2.00</td> </tr> <tr> <td>日雇人夫</td> <td></td> <td>1.60</td> <td>1.10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>日出 11・29</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	物 価	大7・10	大6・10	品 種	単 位	単 位	米(上)	1石	45.00	24.50	清 酒	1石	125.00	75.00	醬 油	1石	37.00	25.00	賃 銭		大7・10	大6・10			最高	最高	機織職(日給)(男)賄付		1.10	1.00	(女) "		65	60	陶器ロクロ職(日給)		1.30	1.00	大工職(日給)		2.20	2.00	日雇人夫		1.60	1.10			日出 11・29		<p>1・26 農商務相、津市の岡半右衛門の米価買占めに戒告(暴利取締令による最初のもの)。</p> <p>1・一 社会政策実行団、芝区烏森町に平民食堂を開設(簡易食堂のはじめ)。</p> <p>1・一 警視庁、東京府下の貧民調査を実施。</p> <p>1・一 活版工組合信友会結成、3・一機関紙『信友』発刊。</p> <p>1・一 吉野作造ら普選研究会を組織。</p> <p>2・2 米価高騰。</p> <p>2・11 憲法発布30年祝賀国民大会、警官と衝突。</p> <p>2・22 浦賀船渠5,300人の争議(～24日)。</p> <p>3・20 衆議院本会議選挙法改正案否決。</p> <p>4・15 大阪市、初の公設市場を谷町・境川・天王寺に開設。</p> <p>4・17 軍需工場動員法公布。</p> <p>4・25 外米管理令公布。</p> <p>4・一 大杉栄・和田久太郎ら、月刊『労働新聞』発刊、連続発禁、4号で廃刊。</p> <p>6・25 救済事業調査会官制公布。</p> <p>7・23 富山県魚津町に、27日岩瀬町に米の移出中止嘆願運動。(米騒動のはじまり)。</p> <p>7・29 米価(期米・正米とも)天井知らずの勢いで暴騰を続け、小売価格とも1円で2升4合(2等米)を記録。</p> <p>7・31 米価大高騰、各地取引所立会停止。</p> <p>7・一 大杉栄・和田久太郎ら北風会結成、大杉派結集。</p> <p>8・2 政府、シベリア出兵宣言。</p> <p>8・3 富山県西水橋町に米の移出中止嘆願運動これより月余にわたって各地に米騒動勃発、騒動参加人員615,000人。9月末までの被検挙者6,325人。</p> <p>8・12 神戸三菱造船所争議、暴動化。</p> <p>8・14 米騒動の新聞記事禁止。</p> <p>8・16 緊急勅令により穀類収用令公布施行。</p> <p>8・22 友愛会神戸連合会『新神戸』発刊。</p> <p>8・28 東京府、米価暴騰に対処し、外鮮米を指定米商に委託し廉売。</p> <p>8・一 米価騰貴人民困窮につき、救恤金300万円下賜。</p> <p>9・21 寺内内閣総辞職。9・29原政友会内閣成立。</p> <p>11・9 ドイツ革命。</p> <p>11・11 第一次大戦終結、11月以後、休戦による経済反動。</p> <p>11・21 傭人扶助令公布、(官業雇傭人の業務上の災害補償成立)。</p>
物 価	大7・10	大6・10																																																	
品 種	単 位	単 位																																																	
米(上)	1石	45.00	24.50																																																
清 酒	1石	125.00	75.00																																																
醬 油	1石	37.00	25.00																																																
賃 銭		大7・10	大6・10																																																
		最高	最高																																																
機織職(日給)(男)賄付		1.10	1.00																																																
(女) "		65	60																																																
陶器ロクロ職(日給)		1.30	1.00																																																
大工職(日給)		2.20	2.00																																																
日雇人夫		1.60	1.10																																																
		日出 11・29																																																	

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>8・21 乙訓郡大原野村の青年会員約60人、米屋に廉売談判。 日出 8・23</p> <p>9・1 久世郡久津川村の農民約50人、米屋を襲撃。 日出 9・3</p> <p>10・1 西陣織物模範工場の職工、賃上げを要求してスト。 京都地方労働運動史</p> <p>10・2 友愛会京都支部、労働問題講演会開催。参加者約500人、高山義三・佐藤丑次郎京大教授・鈴木会長等講演。 日出 10・3</p> <p>10・15 船井郡團部町で、祭礼の神輿担ぎ数十人、米屋を襲撃。 大阪毎日 10・17</p> <p>10・20 松風工業会社の職工20余人の連名にて賃上げの嘆願書を提出。スト突入の様相を呈し会社側若干の賃上げを認めたが、主謀者5人を解雇。 日出 10・21</p> <p>11・1 乙訓郡向日町郵便局傭員5人、臨時手当を要求してスト。 京都地方労働運動史、大阪毎日 11・8</p> <p>11・一 京都市内の部落内で、井戸掘人夫賃上げ要求で争議。 京都地方労働運動史、大阪毎日 11・11</p> <p>11・一 河上肇指導の下に京大法科生を中心として労学会結成。榎田民蔵・高山義三・小林輝次・水谷長三郎等参加。 水谷長三郎伝</p> <p>12・1 友愛会京都支部、労資の対立を強調する河上肇の発言から紛糾し鈴木会長入洛。4日、臨時有志懇親会を開き事態を収拾。 京都地方労働運動史</p>	<p>8・14 市米穀商組合、米価騰貴の救済策として白米小売価格を協定（1升につき1等米45銭、2等米44銭、3等米43銭）。知事、これに対し不都合として取消を命令。 日出 8・16</p> <p>8・17 市、物価調節委員会を設置。 市政史</p> <p>8・17 市会、社会対策としての公設市場設置に関する意見書を提出。 市会史、市政史上</p> <p>8・17 京都取引所仲買団、窮民1万人に内地精白米を1人当り1升29銭で売却を決定。 日出 8・16</p> <p>8・19 市、時局救済策に関する協議会開催。 市政史上</p> <p>8・20 両丹地方水害（綾部231mm）。 日出 8・23</p> <p>8・27 京都婦人慈善会（古門前大和大路東入林下町）、救済金募集にたずさわり、200円を臨時救済団に寄附。さらに、貧病者に牛乳を施与。延人員17,520人を救助、牛乳30石4斗余。 府庁文書 大8</p> <p>8・一 米価暴騰に対し、内帑金8万円が府に下賜。そのうち市は42,500円の配当を受ける。 市政史上</p> <p>8・一 京都市共同組合、米騒動に際し寄附金を募集、救済事業に尽力。 同上</p> <p>8・一 米価をはじめとする物価騰貴のため住民の多くが生活難におちいる。4月1升27銭の米は8月50銭に上昇。 日出 8・10、市政史上</p> <p>8・一 中立売署で施米。極貧者252人。 日出 8・29</p> <p>8・一 府工場課、物価騰貴の折から労資の対立の深まるを憂い、職工・細民の生活状態を調査することになる。 日出 8・7、8</p> <p>8・一 松原署、施米券交付にあたり、窮民調査を行ない、扶養義務者が病気のため働けない者を選び済生会に申告。 日出 8・25</p> <p>9・14 山城・丹波地方・竹野・中・熊野・紀伊の各郡、暴風雨に見舞われ未曾有の惨状。臨時救済団および日赤京都支部が救護にあたる。 日出、府統計書</p> <p>9・25 上京区川端丸太町北入に京都市設公設市場川端市場を開設。この月下京区新町七条下ル東本願寺工作場に七条市場、上京区中立売七本松東入ルに北野市場（いずれも公設市場）を開設。多数の職工が利用。 京都市公設市場の躍進の40年、府社会事業便覧</p> <p>9・一 府、内務省に対し、町村費で低価販売または施米を受けつつある者は公民権を喪失するや否やの伺いを出す。内務省、公民権を喪失せずと回答。 日出 9・7</p>
<p>この年</p> <p>▷ 米は2倍に値上り、賃金は微増。<sup>(2)</sup> 日出 8・10、11・29</p>	

参 考	日 本
<p>(3)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市の直営を以て販し均霑主義たること。</li> <li>2. 販売所は上京区十ヶ所、下京区十ヶ所、計二十ヶ所設置すること。</li> <li>3. 販売方法は切符制度とし、切符は購買請求券と現物引換券に別つこと。</li> <li>4. 販売は公同組合及米穀商組合の援助を求むること。</li> <li>5. 売価は運賃支払を見込み可成安価に販売のこと、設備其他の費用は市負担のこと。</li> <li>6. 券は一升、三升、五升の三種とすること。</li> <li>7. 窮民多き地域に可成多量配布のこと。</li> </ol> <p>斯くて第一回廻送外米一千石の購入、一升二十銭による販売、販売場所、手続等を決定し急速に施行された。 市政史</p> <p>10・一 市内三条大橋東3丁目下ルに長光・巽・教業3カ町、貧民救済実行委員会を設立。 日出 大8・3・27</p> <p>10・一 この月7～20日にかけて上・下京区で恩賜米を販米。 日出 10・19</p> <p>10・一 府臨時救済団、米価暴騰にかんがみ極貧者に施米券3万枚を発行。 同上</p> <p>12・5 京都市はじめて市営住宅を設置。ただし、旧村編入に際してその村役場を市営住宅に充当。 市政史上</p> <p>12・9 青木庄蔵・高橋重蔵ら、三条青年会館で京都禁酒会の発会式を挙行。 警察と社会の表裏感</p> <p>12・16 この日より20日まで久世郡淀町で、町費1戸以下の負担者700人に対し恩賜金、外米（1人1升7合）を施米。 日出 12・17</p> <p>12・28 京都市、職制を改正。勸業課に救済係、衛生課に保健係、防疫係をおく。 市政史上</p> <p>この年</p> <p>▷ 世界各地に流行のスペイン・インフルエンザ10・12京都市にはじめて発生。大8・4まで市内にまんえん。患者総数375,084、（年末人口の27.4%）死亡者6,917人におよぶ。 府統計書 大7</p>	<p>11・24 吉野作造、浪人会と立会演説会開催。</p> <p>12・23 福田徳三・吉野作造ら黎明会を組織。</p> <p>12・一 東大生ら新入会結成。</p> <p>この年</p> <p>▷ 争議件数417、参加人員66,457人、</p> <p>▷ 小作争議件数256。</p> <p>▷ 1歳未満乳児の死亡率増大18.9%（338,910人）最高は大阪・富山。</p> <p>▷ 米騒動の余波で、11市1町に公設市場33設立。</p> <p>▷ 警視庁、社会不安に備え、警察官を大增員、警官数前年の5割増8,851人となる。</p> <p>▷ 活動節、ノッキ節など流行。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>2・11 同志社大学学生有志、普選即時実施の講演会開催。政・経科の学生七百人参加。 大阪毎日 2・15</p> <p>2・11 京都市日彰学区民有志、憲法発布30周年祝賀会を開き、普選実施の決議文を採択して市選出の3代議士に送付。 大阪毎日 2・12</p> <p>2・15 友愛会主催普選期成労働者大会、尾崎行雄を迎え、京都駅より岡崎公会堂までデモ、公会堂で演説会を開催。公会堂には、労働者・学生・市民約3千人参加し普選要求の宣言・決議を採択。 大阪毎日 2・16、日出 2・14~16</p> <p>2・21 金箔職人の職工団、問屋・下請業者に対し労働時間短縮・工賃上げを要求。6・21、金箔職人約百人友愛会に加入し箔友支部結成。7・23賃上げ承認され争議解決。 大阪毎日 3・22、日出 7・24、京都地方労働運動史</p> <p>2・25 相楽郡木津町水牛釘工場の職工80人、賃上げを要求。3・1、警察の介入により妥結。 日出 2・28、3・1</p> <p>2・27 山鹿泰治・横井仙之助ほか数名のアナキスト、秘密印刷物配付により検挙、10・21、大阪控訴院で二審判決（山鹿泰治禁固2年、深尾己之助同2月、上田蟻善懲役4月）。 日出 3・1、日本労働年鑑 1</p> <p>3・15 友愛会京都連合会、6・2まで労働者居住地区で労働者啓発講演会を11回にわたり開催。 京都地方労働運動史</p> <p>3・19 純正国民党代議士6人、佐々木照山等船井郡園部町で普選期成の演説会開催。 日出 3・20</p> <p>3・20 綴喜郡田辺町郡公会堂で、城南小作農民約1千人普選期成大会開催。 日出 3・1</p> <p>3・1 友愛会京都連合会、治警法17条撤廃の請願書を数百人の署名をして友愛会本部に送付。 日出 3・9</p> <p>4・1 友愛会京都連合会結成。11日第1回連合代議員大会を開催し、高山義三を初代会長に選出。 京都地方労働運動史</p> <p>4・19 労学会、東大新人会を迎えて京都市公会堂で演説会開催。 大阪朝日 4・20</p> <p>4・20 京都市電現業員、賃上げ嘆願書提出。主謀者買収され問題消滅。 日本労働年鑑 1</p> <p>4・22 旋盤部々長の暴力に憤激し、奥村電気商会の職工2百人怠業。 大阪毎日 4・24</p> <p>4・1 労働運動の幹部養成を目的としたボルガ倶楽部結成。委員は、高山義三・三木輝三・井上米次郎・東忠統、堀内康一。12月、警察より解散命令を受け少年職工読書倶楽部と改称。 日本労働年鑑 1</p>	<p>1・1 市、勸業課救済係長を共同宿泊所・貸長屋・児童相談所・職業紹介所・方面委員設置検討のため、大阪・神戸に出張させ、救済事業の調査にあたらせる。 日出 1・19</p> <p>2・4 市、衛生課防疫係出張所を上京区聖護院蓮華蔵町に開設。 市告示16号</p> <p>2・6 積善社、明23組織以来、毎年米30石を細民に施米。 毎日 2・5</p> <p>3・1 内務省、民力涵養の訓令を発す。府、勤儉奨励・消費節約などの生活改善を奨励。 社会時報 2:3</p> <p>4・1 日赤京都支部、今熊野正宗寺に巡回病院を開設。 府公同委員制度</p> <p>5・28 京都市内で全国感化院長会を開催（～30日）。 淇陽学校50年史</p> <p>6・1 初の京都市職業紹介所開設（寺町四条下ル大雲院内）。同所に附帯事業として副業講習所・無料宿泊所設置。11月市営無料法律相談所設置。<sup>(2)</sup> 市政史上</p> <p>8・5 府、米価暴騰に際し、生活問題として節米奨励の告諭を発し米価調節を図る。告諭1号</p> <p>8・20 コレラ予防のための注意を告諭。 告諭2号</p> <p>9・12 吉村伊助（中郡峰山町）、人材養成・社会救済の目的で10万円を寄附し吉村財団を設立。（大9・2・10法人として認可）。 峰山郷土史</p> <p>10・1 平安徳義会、一般労働者の生業能率向上をめざし保育園設置（上京区岡崎最勝寺町）。3～6歳児対象。 日出 9・15、府庁文書 大15</p> <p>10・18 天田郡菟原村に共済団を結成。罹災者・貧困者の救助・村民の慰安、敬老会、功労者の優遇・出生記念貯金の奨励。 菟原村史</p> <p>10・1 市、大9に職業紹介所の増設、簡易食堂・託児所・無料浴場の新設を計画。 日出 10・5</p> <p>11・1～12・1 京都市営新町頭公設市場（上京区新町東）・壬生公設市場（下京区壬生坊城町）・正面公設市場（下京区正面通川端東）および伏見町営伏見町公設市場（紀伊郡伏見町字板橋2丁目）開設。 市政史上、日出、府社会事業便覧</p> <p>12・1 市、三条託児所開設（三条大橋東入ル、長光町協同夜学校の一部を使用し、三井家など篤志家の寄附を基礎とする）。 市告示492号ほか</p> <p>この年</p> <p>▷ 府工場衛生会発会（産業労働者の健康保持を目的に発会したが、昭16に産業報国会に統合）。 京都医事衛生誌569号</p>

参 考	日 本
<p>(1) 第一次大戦後における思想・労働問題に対処するため、府当局の積極的施策・資本側の結束強まる。まず府当局は1月に労働需給調査会を設立し、3月には仏教・基督教家を招待して思想問題懇談会を開催している。同じく3月に、貯金・簡易保険加入を奨励するため映画会を府下の各工場で催し、6月には、京都市営の職業紹介所が事務を開始。他方、資本側の動向をみると、島津製作所が3月に製作所各部の意思疎通を目的として工友会を結成、8月に職工百人以上を使用する大工場の代表者によって労働問題の解決研究を目的として京都府工業研究会が結成されている。さらに一層大がかりなものは府工場課の奨励によって各警察署管内を単位とし5人以上の職工を使用している者を会員として工業会が結成された。5月ころより結成されはじめ、周山・久美浜・新舞鶴の3警察署を除いて23警察管下に設立され、10・25に各単位の工業会が連合して京都府工業連合会を発足させた。もっともこれらの工業会は職工の慰安会を開催する程度をでなかったともいわれている。</p> <p>(2) 京都市の職業紹介所は、一般の職業紹介のみならず「…進ンデハ小学校ノ卒業生又除隊兵士ノタメニモ職業ノ紹介ヲナサウ、尚又進ンデ適当ナル方法ヲ以テ市民ノ為ニ内職ノ奨励紹介モ試ミヨウトシテ居ルノデアル。是レ我国職業紹介所ニ於テ未ダ嘗テ試ミナカツタ点デアリ、我が紹介所ノ他ニ誇ルベキ点デアル。」と当時の理事者が市会に説明しているように幅広いものであった。</p>	<p>1・20 河上肇『社会問題研究』を創刊。</p> <p>1・1 貿易収支入超に転ずる（5年ぶり）。</p> <p>2・11 早大に民人同盟会結成。</p> <p>2・16 友愛会神戸支部、普選期成市民大会開催。</p> <p>2・23 帝国公道会、築地本願寺で同情融和大会開催。</p> <p>2・25 普選法案衆議院に上提、委員会で否決。</p> <p>2・1 新人会、『デモクラシー』創刊。</p> <p>3・1 3・1運動、万歳事件おこる。</p> <p>3・2 コミンテルン創立大会（～7日）。</p> <p>3・27 結核予防法・トラホーム予防法・精神病院法各公布。</p> <p>3・1 荒畑寒村ら『日本労働者新聞』創刊。</p> <p>4・13 友愛会関西労働同盟会創立。</p> <p>4・15 政治に関する犯罪処置の件公布。</p> <p>4・1 堺利彦、山川均ら『社会主義』創刊。</p> <p>5・18 大阪鉄工組合（右派）結成。</p> <p>5・20 新人セルロイド工組合（左派）結成。</p> <p>6・22 山川均・荒畑寒村、第1回労働組合研究会開催（月2回、約1年継続）。</p> <p>6・23 白米大暴騰、7月も続騰。</p> <p>6・28 ベルサイユ講和条約調印。</p> <p>6・28 東京俸給生活者同盟会（サラリーメンスユニオン）発会。</p> <p>6・1 賀川豊彦・西尾末広、大阪に消費組合共益社設立、大9・11に事業開始。</p> <p>7・6 憲政会関東大会内閣弾劾決議。</p> <p>7・11 鉄道院、8時間勤務制採用を発表。</p> <p>7・31 東京一六新聞社製版工ゼネスト（～8・1）。</p> <p>7・1 大阪市、初の公立託児所を設立。</p> <p>8・27 東京砲兵工廠2万7千人の大争議（～9・1）。</p> <p>9・18 神戸川崎造船所1万6千人の怠業、はじめて8時間労働制を獲得（～29日）。</p> <p>9・19 このころ児童・生徒・学生の近視者増加。 文部省、予防法を訓令。</p> <p>10・29 大日本国粋会結成。</p> <p>11・1 東京市電争議（～12・15）。</p> <p>11・10 釜石鉾山争議（～12・5）。</p> <p>11・1 内務省救護課を社会課と改称。</p> <p>11・1 第1回国際労働会場において、公設無料職業紹介所制度の確立・妊産婦保護・幼年労働者保護などについて決議。</p> <p>12・5 東京府、日暮里元金杉に初の公設質屋を開設。</p>



社 会 運 動	社 会 運 動
<p>5・26 友愛会京都連合会、京都市電現業員の賃上げ闘争を援助して、壬生元祇園社で労働問題演説会を開催。演説会后、多数の現業員が友愛会に加入し友愛会壬生支部生まれる。5・30、壬生支部、京都連合会に要求事項の実現を一任し、6・20の京都市会で要求ほぼ承認。 日本労働年鑑 1</p> <p>7・16 京都市梅小路駅の仲仕人夫410人、運送業組合に賃上げを要求。21日、円満解決。 同上</p> <p>7・30 綴喜郡八幡町津田電線工場の職工、労働時間短縮・賃上げを要求。 同上</p> <p>8・4 友愛会鈴木会長歓迎デモ行なわれ、そのあと岡崎公会堂で国際労働会議代表経過報告演説会開催。 日出 8・5</p> <p>8・4 京都市の石工の組織する共和組、賃上げを要求。9日、賃上げ認められ解決。 日本労働年鑑 1</p> <p>8・5 京都市内煙管職工、松原警察署長の手を経て賃上げ要求。6日、賃上げ認められ解決。 同上</p> <p>8・8 奥村電気商会では7・25の賃金体系改正実施に伴い賃上げ、友愛会の承認、共済会の自主管理、衛生設備の改善等を要求し友愛会援助の下に争議が発生していたが、この日職工約300人ストに突入。11日、奥電職工約1千人中友愛会に属する約650人、友愛会承認問題でスト。12日、警察部長の調停案を受諾し争議解決。以後、争議解決方法をめぐって友愛会紛糾し、壬生・西陣その他支部の脱退続出。 日本労働年鑑 1、日出 8・12、13</p> <p>8・13 紀伊郡伏見町の金箔業者30余人、問屋に賃上げ要求。 日出 8・21</p> <p>8・23 京都市松浦伸金工場の職工14人、賃上げ要求しスト。 大阪毎日 8・26</p> <p>8・一 久世郡宇治町宇治火薬製造所の職工約1千人、賃上げを請願。 大阪毎日 8・30</p> <p>9・11 友愛会西陣支部解散し、織友会として新発足、会長辻井民之助。 日本労働年鑑 1</p> <p>9・25 友愛会京都連合会、国際労働会議労働代表選出問題で演説会開催。参加者約1千人。 日出 9・26</p> <p>9・25 京都市内、京都・都ホテルその他の外人通訳13人、案内通訳料値上げを申請中であつたが、府保安課より値上げ認可。 日本労働年鑑 1</p> <p>9・27 京都駅前の車夫約200人、七条警察署の取締に抗議してスト。 日出 9・29</p> <p>10・10 京都電灯嵐山電鉄部の現業員、賃上げ・靴の支給等の請願書提出。 日本労働年鑑 1</p>	<p>10・11 京都市役所運輸課の事務員、賃上げを要求。翌日、壬生・三哲車庫の市電従業員も要求案をまとめはじめ、21日嘆願書提出。23日、部分的に要求認められ争議一応解決。 日本労働年鑑 1</p> <p>10・25 堺利彦・生田長江、京大・同志社で講演。翌日、三条青年会館での社会主義講演会に出席。 大阪毎日 10・27、京都地方労働運動史</p> <p>10・28 中沢丑之助・俣野長蔵中心となり南桑田郡小作人大会開催、同郡18カ村約800人の小作農参加。まもなく丹波小作人同盟に発展。 京都地方労働運動史</p> <p>11・5 京都市内の石工約400人の組織する共和組、賃上げを要求。16日よりスト突入の宣言をしたが、20日中立売・川端両警察署長の仲介により解決。 大阪毎日 11・21、22</p> <p>11・12 京都梅小路駅の積卸人夫80人、賃上げを要求してスト。賃上げ認められ、スト4時間半で解決。 大阪毎日 11・20</p> <p>11・23 京都市内の印刷・活版・石版・木版等印刷関係の労働者の組織する印友会の発会式、幹事長森田盛次。 日本労働年鑑 1</p>

参 考					日 本
○ 恤救規則による済貧恤救人員および金額 (京都) 国費および地方費					<p>12・15 関西18労働団体、普選期成関西労働連盟結成。</p> <p>22・22 協議会設立。</p> <p>12・一 平塚雷鳥の主唱で新婦人協会創立、機関誌『女性同盟』創刊。</p> <p>この年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 争議件数497、参加人員63,137人、小作争議件数326。</li> <li>▷ 未成年者禁油法案衆議院を通過、貴族院で否決。</li> <li>▷ この年度から大蔵省は、社会事業施設の急に応じ低利資金を融通、全国的に施設が続出。</li> <li>▷ 流行性感冒が大流行。</li> <li>▷ 大9・3まで戦後ブーム続く。</li> <li>▷ デモクラシー節、平和節など流行。</li> </ul>
年次	国 費		地 方 費		
	人員	金 額	人 員	金 額	
大 2	人	円	人	円	
3	29	899	(2) 14	(32) 203	
4	26	636	(2) 11	(16) 255	
5	21	359	(1) 12	(12) 95	
6	16	318	(1) 16	(12) 252	
7	13	324	(1) 22	(12) 261	
8	10	467	17	797	
9	8	525	11	502	
10	7	559	(1) 14	(12) 624	
11	6	259	(1) 19	(12) 347	
12	6	288	(1) 30	(12) 687	
昭 1	6	202	(1) 28	(12) 678	
2	2	150	(1) 27	(12) 763	
3	2	148	—	(12) 1,188	
4	26	1,415	78	2,568	
5	15	1,580	92	2,988	
6	21	1,618	78	2,264	
7	26	1,381	(1) 91	2,931	
8	38	1,739	(3) 103	(19) 2,122	
9	33	969	175	(15) 3,425	
( ) は国費をもって救助する者に地方費から補給したものの再掲である。					

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・7 紀伊郡伏見町金鶏正宗酒造場の蔵男、賃上げ要求を拒絶され帰郷。京都地方労働運動史</p> <p>1・11 立憲国民党京都支部総会開催。出席者約50人。宣言、税制整理・国民参政権の拡大、労資協調による労働問題の解決・国民教育の改善に関する決議を採択。 日出 1・12</p> <p>1・12 伏見伸銅会社(紀伊郡)の職工約50人、職制殴打による職工12人の解雇に反対し抗議スト。15日、解雇撤回・賃上げ要求の撤回の条件で妥結。 日出 1・11、15</p> <p>1・15 普通選挙期成関西労働同盟主催で、普通選挙促進労働者大会開催される。演説、宣言、決議採択後市中デモ。 日出 1・16</p> <p>1・16 立憲政友会京都支部総会開催。出席者約1,500人。宣言、世界平和への貢献・国防の充実・教育交通の整備・社会政策の実行に関する決議、国費による木津川改修、大都市計画の促進、京都監獄の移転に関する決議を採択。 日出 1・17</p> <p>1・28 京都市内の金箔職工、戦後不況による解雇に反対して争議。金沢方面に転職の便宜を計ることによって解決。 日本労働年鑑 2</p> <p>1・30 愛宕郡松ヶ崎東洋ラミー会社の社員、職工、退職手当金の全額支給を要求してスト。 日出 2・1、2</p> <p>2・5 京都市内の洋服職工約70人、労友会を結成。 日出 2・8</p> <p>2・10 京都市内の扇子職工約2千人、請負賃率の値上げを要求。15日よりスト。 日本労働年鑑 2</p> <p>2・17 京都市日彰小学校で開かれた京都市小学校々々幹事会、小学校教員に被選挙権を与えるよう議案に請願または建議することを決議。 同上</p> <p>3・4 京都市内日本電池会社の職工約40人、業務手当の増額・退社時間の変更等を要求してスト。 大阪毎日 3・6、7</p> <p>3・12 京都禁酒会(大7・12・9 結成)主催禁酒宣伝講演会(予定)。講演、青木庄蔵(禁酒会々長)「禁酒は愛国の至情」、山田正三(京大教授)「少年保護問題に就て」。 日出 3・11</p> <p>4・5 友愛会京都連合会・織友会・印友会母体となって京都普通選挙期成労働同盟結成。5・2、三条青年会館で発会式挙行政し、内閣弾劾普通選挙促進の宣言・決議採択。 日出 5・4</p> <p>4・一 友愛会京都連合会鴨東支部吉祥院支部(ともに奥村電気商会の工場に組織)、経営者側の攻勢、組合幹部の解雇(奥村甚之助、辻井民之助)等により瓦解。 京都地方労働運動史</p> <p>5・15 京都市内の提灯製造職工、三割賃下げ通告に反対しスト。22日賃金1割減で妥結。 大阪毎日 5・16、23</p> <p>5・15 朝鮮人京大生ほか約30人、京大基督教青年会館に集まって朝鮮人労働共済組合を結成。会長、李順鐸(京大経済学部学生)、副会長、裏纏星(労働者)。 日出 5・18</p> <p>5・21~21~24 西陣織友会、組合事務所・小学校等で失業問題講演会を開催。 京都地方労働運動史</p>	<p>1・15 内務省、精神病患者保護に関する講習会をこの日から2週間開催。京都から岩倉・船岡病院院長ら3名が出席。 日出 1・15</p> <p>1・25 日赤京都支部、三条通大橋東南裏元天部部落にトラホーム患者が多いため夜間出張治療を開始。 同支部沿革誌</p> <p>2・一 葛野郡桂村字上野で、流行性感冒患者が続発し、郡長の依頼により日赤京都支部救護員を派遣。115名を救護。 同上</p> <p>2・一 府工場課、各警察署部内に工業会を組織。評議員会を開いて工場職工の結核・トラホーム・伝染病予防を図り工場能率の増進を目的とする工場医会を組織。知事の認可をうる。 日出 2・11</p> <p>2・一 市立宇多野結核療養所(葛野郡花園村宇多野)竣工。(3・19開所式)。 府庁文書 大9</p> <p>3・12 平安養育院、事業の発展を図るため、当施設を知恩院の所管とする。 社会時報 10:5</p> <p>3・一 山本宣治、性の研究・産児制限運動を始める。 大正文化</p> <p>4・1 伏見慈善会、同町字板橋において、労働者救済・労働能率の増進・家庭改善の目的で伏見幼稚園を開設。 府公同委員制度、社会事業便覧</p> <p>4・一 市弁護士会、各区役所・支所で無料法律相談を開始。 市民しんぶん45号</p> <p>4・一 市内に天然痘流行。 市会史</p> <p>5・1 市立職業紹介所、西陣の失業者増加に伴い上京区大宮東入ル西陣小学校内に職業紹介所西陣臨時出張所開設(10月閉鎖)。 市政史 上、日出 4・24</p> <p>5・1 この日から日赤京都支部、京都駅内の車夫250余名におよぶトラホーム患者の救済にあたる。これまでは東亜慈善会が救済。赤十字出張所は駅前巡査派出所内に設置。 京都医事衛生誌 315</p> <p>5・17 府、救済団理事會開催。公同委員の設置および幼児託児所1カ所設置を決め、府参事会で予算措置をはかる。 日出 5・19</p> <p>5・18 竜谷大学学生清水虎雄ら、三条大橋東に融和事業を目的とする螢雪会を設置。 本願寺派社会事業便覧</p> <p>5・一 府工場課、工場衛生・伝染病予防の徹底をはかり映画を作成。 日出 5・29</p> <p>5・一 府、西陣方面に救済事業施行の必要を認め、恩賜財団済生会の診療所(五辻千本東入釈迦堂)を設置し貧民患者を救済。貧に窮する妊産婦には産婆組合にその施療を委託。 京都医事衛生誌 315</p>

参 考	日 本
<p>〔思想・労働問題〕</p> <p>このころ思想・労働問題対策の動きとして、1月には大日本国粋会京都支部が設立されて労資の和解を説き、本派本願寺では地方布教家、住職にこの問題について小冊子配付を計画、また府工場課は工場における結核・伝染病予防のための工場医会を組織している。3月には、大正6年に労働者の慰安と善導を目的として結成された自慶会が商業会議所の所管となり先に成立した工業会と提携、5月職業紹介所西陣出張所開設、9月府に社会課新設となる。</p> <p>〔不景気・失業〕</p> <p>戦後恐慌による大幅操短・失業者の発生。すなわち、西陣織物界では操業短縮により約1千人の職工が失業、同じく丹後機業地においても休機続出、伏見町の友禅業者は休業1ヶ月の後一時金を支給して職工約5百人を全員解雇。さらに清水焼関係でも問屋の休業通告により窯元は職工を解雇している。11月には、府下の製糸家が綾部に集まり78日間の休業断行を決定(なお、その間、府下約5千人の職工には食費、手当3割を支給予定という)。府工場課による府下工場法適用工場を対象とする調査によれば、5月中の職工移動は、27業種・356工場で5,245人の職工が解雇され、2,066人が新しく雇用されているが、解雇職工のうち2,346人は帰農しており、他種工業に転職した者は643人、同種工業に転職した者472人、未就業者317人等々となっている。また京都市社会課の8月末現在における不就学児童の調査をみると、上京区35小学校で251人が不就学であるが、そのうち176人が産業界の不況が理由となっており、下京区では38小学校、323人のうち222人について同じ結果が出ている。 日出 4・2、9、13、6・19、9・4、11・21</p>	<p>1・12 アメリカ、シベリア撤兵声明。</p> <p>1・13 東大森戸辰男助教執筆禍事件。</p> <p>1・31 各種41団体合同、全国普通選挙期成連合結成。</p> <p>1・一 東京附近一帯に流行性感冒猖獗(患者20万、死者2,000人)。</p> <p>2・6 八幡製鉄所2万3,000名の大争議(~10日)。</p> <p>2・6 普通選挙期成全国労働大連盟結成。</p> <p>2・11 東京で普通選挙要求大デモ。</p> <p>2・26 普通選挙案討議中に議会解散。</p> <p>2・一 代用精神病院指定。</p> <p>3・15 恐慌勃発、諸株現物暴落(戦後恐慌)。</p> <p>3・28 平塚らいてう、市川房枝ら上野精養軒で新婦人協会を発会。</p> <p>3・一 現業員の共済組合に対する政府給与金に関する件公布。</p> <p>4・25 京都市電スト(~29日)。この月財界恐慌、銀行取付67行。</p> <p>5・2 東京上野で日本最初のメーデー。</p> <p>5・10 総選挙、政友会圧勝。</p> <p>5・16 労働組合同盟会設立協議会。</p> <p>5・25 政府、財界救済案を決定。</p> <p>5・28 大原社会問題研究所、日本労働年鑑刊行開始、(5・15日本社会事業年鑑)。</p> <p>5・一 早大暁民会結成。</p> <p>6・10 初の時の記念日。</p> <p>6・16 東京府、神田に中央職業紹介所開設(この年全国に44職業紹介所新設)。</p> <p>7・14 富士ガス紡押上工場争議(~22日)。</p> <p>7・19 コミンテルン第2回世界大会(~8・6)。</p> <p>8・24 内務省社会局設置。農商務省に労働保険課新設。</p> <p>8・一 健康保険に関する調査立案を作成。</p> <p>9・一 『新社会評論』『社会主義』と改題、社会主義同盟の機関誌となる。</p> <p>9・26 東京15新聞社争議(~10・15)。</p> <p>10・1 第1回国勢調査実施(内地人口5,596万3,053人、外地人口2,102万5,326人)。</p> <p>10・2 警視庁特別高等課に労働係新設。</p> <p>10・20 全日本鉱夫総連合会結成。</p> <p>10・一 大杉栄、極東社会主義者会議に出席。</p> <p>11・4 尾崎・犬養ら普通選挙同盟会結成。海軍拡張、8・8計画樹立。</p> <p>11・5 友愛会東京連合会、東京労働講習所を設立(学校形成の労働者教育のはじめ)。</p> <p>11・5 ムシ歯デー初実施。</p> <p>11・20 関西労働組合同盟会結成。</p>

社会運動	社会福祉
<p>5・23 京都市内小学校78校の首席訓導の組織している庚申倶楽部、総会で京都市教員組合の設立を決議。10・24 発会式挙行。会員資格は、京都市小学教員、幼稚園保母、目的は会員の互助救済。 京都地方労働運動史</p> <p>5・30 六日倶楽部、北京大学遊日学生団を京大学生集会所に迎え大歓迎懇談会開催。 大阪毎日 5・31</p> <p>6・24 六日倶楽部、創立1周年記念講演会開催。 京都地方労働運動史</p> <p>7・1 印友会、全市印刷工慰安演芸会開催。六日倶楽部、京都市下京区の西光寺で第2回生活改造講演会開催。吉崎民之輔・柏房次郎・東忠統・小林輝次・水谷長三郎講演。 同上</p> <p>7・4 日本労働新聞社京都支局主催、西陣で失業問題演説会開催。荒畑寒村・小田美奇穂・麻生久・奥村甚之助等演説。 日本労働年鑑 2</p> <p>7・4 非政友各団体の発起により、原内閣弾劾府民大会約1万人を集めて岡崎公園で開催。午前中、友愛会・織友会・印友会・六日倶楽部等、自動車で市民にピラをまき会場付近でデモ。 日出 7・5</p> <p>8・27 下京区七条町の町民約30人によって友愛会 京都連合会七条支部 結成。 京都地方労働運動史</p> <p>9・7 中郡峰山町の住民約2千人、三丹電気(株)の電灯料値上げに反対、峰山座で演説会開催。閉会后、約1千人の一同、取締役・町長宅に瓦礫を投げ19人逮捕。 日出 9・9</p> <p>9・19 L・L会 (Labor and Liberty の略) 主催・日本労働新聞後援で、労働問題講演会三条青年会館で開催。荒畑寒村・堺利彦、麻生久等講演、臨監の「中止」「解散」命令により会場大混乱。 日出 9・20</p> <p>9・25 車夫連盟結成の宣言書発表。26日、京極受染亭で発会記念演説会開催。主宰者春山(住吉)種吉(立命大学生)。大阪のL・L会、京都友愛会の幹部激励演説。数十人の正・私服臨席し度々中止命令を出す。12月ころ、自然消滅。 京都地方労働運動史</p> <p>10・19 上京区井村襪糸工場の朝鮮人職工8人、寄宿舎賄の改善・賃上げ等を要求してスト。 日出 10・23</p> <p>11・10 婦人矯風会京都支部主催歓迎講演会で、矢島樞子「四海兄弟」の題下で公娼廃止を主張、同志社公会堂に6百人来会。 日出 11・12</p> <p>11・14 印友会創立1周年記念講演会。印友会、車夫連盟・友愛会の幹部演説、数十人の巡査警戒体制、約80人の国粋会員演説会に陣取る。 京都地方労働運動史</p> <p>11・30 京都赤旗事件起る。高山義三の退官歓迎デモの途中、旗の文字(「祝出獄高山義三君」)をめぐる警官隊との間に乱闘事件発生。荒畑寒村・鍋山貞親・奥村甚之助等検挙。12・1、7人起訴(大正10・6・6判決。懲役6月一荒畑勝三、懲役4月一大西昌・三野啓逸・金咲道明・奥村甚之助・高地伝次郎・懲役2月鍋山貞親)。 大阪毎日 大10・1・31、6・7</p>	<p>5・一 上下京区連合同理事会、同委員の設置は同組合がこれにあたり、府がこれに補助を与えることを決定。 日出 5・27</p> <p>5・一 朝鮮人の困窮者保護のために労働共済会(上京区今出川御前通東入ル鳥居町)を設置。大11.11京都朝鮮人協同会と改称。 府同委員制度、社会事業便覧</p> <p>6・18 京都市医師会、救護部を設置。天災地変その他必要に応じて、救護活動に医師を派遣。 京都医事衛生誌 315</p> <p>6・18 海野幸徳、日出新聞で「方面委員制度」を論じ、エルペーフエルド制を紹介するかたわらそのあり方を説く。 日出 6・18、19</p> <p>6・24 臨時救済団、米騒動の救済会残額37万円を基礎に財団「共済会」を結成し申請。7・7内務部長により認可。(共済会では託児所・密集部落改善・衛生施設・簡易食堂・無料診療所の設置などを計画)。 日出、市学区大編</p> <p>6・一 府社会係、海野幸徳を囑託にむかえ、社会係の充実につとめる。(社会事業調査・組織講演・窮民救済・売春婦救済・家庭内問題の救済などの事業をめざす。さらに、東京・横浜について婦人社会係を設け婦人の採用を決定)。 日出 6・25</p> <p>7・1 京都市第1トラホーム治療所を下京区東七条川端町に開設(その後崇仁隣保館内に移転)。</p> <p>7・7 京都市、社会課を新設し、同課内に調査係・経済係をおく。 市政史上</p> <p>7・19 海野幸徳、市公会堂で方面事業講演会を開催。 社会時報 10:8</p> <p>7・一 本派本願寺、社会事業研究所女子部開設。16日から京都高等女学校で講習会開始、聴講者200余名、以後毎年実施。日出 7・18、本願寺史</p> <p>7・一 京都市社会課、西陣機業地の失業調査を実施。失業者5,000余名(1学区400名、12学区)。生活困難から育児不能の者100余名にのぼる。市託児所2カ所、授産所1カ所、公益質屋の設置を計画。 日出 7・30</p> <p>7・一 府下にコレラ大流行。府衛生課、全国初の女子防疫吏員3名採用。 日出 7・23</p> <p>8・一 市、上水道水質検査所(下京区今熊野日吉町)開催。のち衛生試験所となる。 公報</p> <p>8・17 府、同委員制度を創設。第1回同委員総会を京都市公会堂で開催。馬淵知事、社会事業施設および調査の必要を論じ、その職務を同委員、篤志家、学識家に依頼する(すでに5・17府参事会は隣保相扶の精神に基く同委員制度実施に伴う予算を可決)。 社会時報、日出、府同委員制度</p>

社会福祉	日本
<p>8・一 府医師会、衛生検査所を廃止。 医師会50年史</p> <p>8・一 市社会課、京都社会事業研究会を組織。事務所を市社会課内におく。 日出 8・8</p> <p>9・14 府、内務部に庶務課・社会課・都市計画課などをおく。 府令16号</p> <p>9・18 府庁で第1回同常務委員会開催。調査結果のカード化、人員の配置、軍事救護における調査、極貧・貧窮の論議を行なう。このとき、全市を12大区に区分。 府同委員制度、日出</p> <p>9・一 府慈善協会、西陣託児所(五辻通七本松下ル釈迦堂内)を開設。大11・4府直営となる。 府社会事業便覧、我らの郷土</p> <p>11・10 婦人矯風会京都支部、矢島樞子を招き「四海兄弟」を論じ公娼廃止を唱導。日出 11・12</p> <p>11・一 京都市、養正託児所(上京区田中西河原町)・崇仁託児所(下京区東七条上ノ町)を開設。保育料不要。細民密集地の教育、風俗、衛生などの矯正に尽力。 市政史、社会時報</p> <p>11・一 府社会課、10年度社会事業および地方改良予算として17,000円を計上。助産婦の養成・授産所の新設・養老院の新設・地方講演を計画。 日出 11・14</p> <p>12・一 何鹿郡志賀郷村矯風慈善団体尚義会設立。 志賀郷村史</p> <p>この年</p> <p>▷ 京都市、新町頭・田中大久保・御前通、紀伊郡伏見町・新町・菊屋町に市公営住宅建設。 府社会事業便覧、市政史上、市政概要</p> <p>▷ 戦後恐慌はじまり、西陣方面の小学生を中心に不就学児激増。また託児所設立要求活発化。京都市社会課の不就学児童調査によれば、その数約580名、経済的原因による者その7割。 日出 8・13、9・4、10・8</p> <p>▷ 天田郡雲原村に高齢者敬愛の目的をもって公誠敬老会結成。 公報 昭4</p>	<p>12・9 日本社会主義同盟創立大会。</p> <p>12・一 内務省社会局長、地方長官に対し部落改善事項調査につき照会。</p> <p>この年</p> <p>▷ 争議件数282、参加人員3万6,371人、小作争議件数408。</p> <p>▷ 逓信省、船員保険制度要綱を立案。</p> <p>▷ 国際労働総会において、失業に関する条約案採択(このために職業紹介法成立が促進される)。</p> <p>▷ 東京、三重、愛知の慈善協会、救済協会は各社会事業協会と改称。この前後、社会事業の名称が使われる。</p> <p>▷ 戦後の税制整理が行なわれる。失業労働者数190,363人。</p>

社会運動	社会福祉
<p>1・16 辻井民之助・佐々木隆太郎・国領伍一郎等を中心とする西陣織物労働組合、西陣京極受楽亭で創立記念労働問題講演会開催。(西陣織物労働組合結成の契機は、従来の織友会が織物同業組合の介入によって御用化し、辻井らを追い出したためという)。京都地方労働運動史</p>	<p>1・21 内務省、府に対し流行性感冒の予防事項を達す。訓令2号</p>
<p>1・30 東洋ラミー織布会社で、財界不況による経営難で鐘紡への身売りや人員整理が噂されていたところ、社員約10人重役弾劾の決議をリスト。職工約150人これに同調してスト。その後解決をみず、5月下旬の株主総会で解散決議。日出 2・1、京都地方労働運動史</p>	<p>2・11 府社会課、社会事業奨励のため機関紙『社会』を発刊(第1号)。海野幸徳などが執筆。各公同委員・府会議員・社会事業団体などに無料頒布。日出 2・12、府公同委員制度</p>
<p>2・12 第1次大本教弾圧。不敬罪・新聞紙法違反の理由で家宅捜索をおこない、幹部を一せいで検挙。<sup>(1)</sup> 日出 5・11、大本教事件</p>	<p>2・一 共済会評議会、東三条裏・鷹野町に共同浴場建設を計画。日出 2・27</p>
<p>2・17 京都市小学校長会、女教員の産前産後休暇確立について建議を決議。日出 2・18</p>	<p>2・一 府社会課、済生会の救療事業を引き継ぎ、千本頭釈迦堂内の西陣託児所内に無料診療所を開設、西陣診療所規程を制定。日出 2・4、8</p>
<p>2・19 暁明会主催軍備制限演説会、三条青年会館および岡崎市公会堂で開催。演題および弁士は、尾崎行雄「軍備制限論」・大朝高原操「国防と国民」・大毎高市甚五郎「民論を起せ」等。同上</p>	<p>3・31 京都府郡部社会事業貸付資金公債規則を制定。府令28号</p>
<p>5・1 印友会の活動家若干名、大阪での第1回メーデー参加。京都地方労働運動史</p>	<p>3・一 川越病院、府代用精神病院に指定される。府統計書 大9</p>
<p>5・一 井上電機製作所で友愛会総同盟の会員解雇される。京都連合会の奥村甚之助、会社に抗議し100日分の解雇手当獲得。付近の工場の労働者約50人、これを聞いて総同盟に続々入会。同上</p>	<p>4・1 日赤京都支部、妊産婦保護所を開所。同社々史稿</p>
<p>6・25 友愛会総同盟京都連合会、大阪藤永田造船所、住友製鋼所の争議犠牲者10数名を迎え、争議支援の街頭デモ・演説会を開催。宣言・決議を採択し、会場でカンパを集める。住友製鋼所の佐々木栄吉、松本佐一郎のほか、国領伍一郎等演説。日出 6・26</p>	<p>4・9 職業紹介所法公布により府職業課を新設。社会時報</p>
<p>7・4 京都市内の染物職人約百人、業者団体である染物同業組合の2割賃下げに反対し争議。6日、1割賃下げで妥結。日出 7・7</p>	<p>4・23 京都市医師会、内務省囑託牧野虎次を招き、平安教会で「一医師と社会事業」を講演。京都医事衛生誌 326</p>
<p>7・8 京都市内の染物職人の賃下げ反対運動に刺激され、伏見方面の30余工場の職工、約40人の各工場職工代表者を選出し4項目の要求を決議。9日、要求の大半を貫徹。日出 7・10</p>	<p>4・25 府社会課囑託海野幸徳、京都市医師会の依頼により細民救療に関する講演を開く。同上</p>
<p>7・9 印友会を中心とした京都青年労働団、阪神地方の労働団体代表者を招いて、労働争議批判演説会を三条青年会館で開催。国粋会員の乱暴で会場混乱し解散を命じられる。大阪毎日 7・10</p>	<p>4・25 京都市社会的施設事業資金積立に関する規程を制定。市告示135号</p>
<p>11・1 日本労働同盟会、葛野郡嵯峨村で小作問題演説会開催。京都地方労働運動史</p>	<p>4・一 府、東本願寺工作場跡(新町通七条下ル)に職業紹介所を建設予定。七条簡易食堂の建設決定。日出 4・28</p>
<p>11・11 総同盟京都連合会、警察の厳重な警戒のなかで暁民共産党のピラ数百枚を京都市内に散布。日出 11・14</p>	<p>4・一 京都子供愛護連盟設立。市社会事業概説 大13</p>
	<p>5・一 京都市、楽只託児所(上京区鷹野町)を開設、トラホーム第4診療所を併設。市政要覧</p>
	<p>6・1 京都市壬生職業紹介所開設(下京区壬生朱雀町)。市告示266号</p>
	<p>6・一 京都市、トラホーム第2、第3診療所を三条養正託児所に開設。市学区大観</p>
	<p>7・1 府、結核予防法施行細則を定める。府令69号</p>
	<p>7・10 山城地方水害(〜13日)。府統計書 大10</p>
	<p>7・26 府、トラホーム予防法施行細則を定める。府令76号</p>
	<p>7・一 京都市、下京区千本通三条に共同宿泊所を設置。(宿泊の資なく、働く場所が明白である者を対象)。日本社会事業年鑑</p>
	<p>7・一 愛国婦人会京都支部、児童健康相談所を設置。6歳以下の児童の無料診断と養護の相談にじ応る。(これまで軍人遺族・廃兵・貧困の軍人家族救護を主としていた)。府社会事業便覧ほか</p>

参 考	日 本
<p>(1) 大10・10・5 第一審判決では、出口王仁三郎は不敬罪・新聞紙法違反として懲役5年を言渡され、大13・7・21の控訴審の判決もこれを支持した。しかし、昭2・5・17に大審院は、大正天皇御大葬大赦により免訴の判決を言渡し、大本教事件は一応解決した。大本教事件</p>	<p>1・13 社会事業調査会官制公布。</p>
<p>(2) 大正10年度における府下の米作実収高は、約76万5千6百石で前年度の約97万4千8百石にくらべ2割1分5厘の減収、また平年の約92万4千石にくらべ1割7分1厘の減収となっており、実に明治35年以来の凶作であったという。原因は天候不順・一部の地域での水害であるとされている。日出 大11・2・2</p>	<p>1・21 東京に社会主義労働団体連合大会開催。 1・一 棚橋小虎「労働組合に還れ」を発表。 2・2 文部省の企画で、社会教育調査委員会、第1回成人向一般向映画を選定発表。</p>
<p>(3) 2・3 下京第2方面、立誠校で学区委員会を開催。公設市場設置促進運動・先斗町遊廓不就業児童調査の件・特殊教育機関の設置と児童の収容・新京極方面学生の風紀・高瀬川風致衛生上の取締などに関して検討、討議を行なう。</p>	<p>2・3 衆議院本会議、普選法案を否決。 2・一 宮内省から社会事業団体225団体に奨励助成金下賜。以後紀元節ごとに賜金あり。</p>
<p>3・28 元下京第3方面、壬生校で学区委員会を開催。貧困者生活状態を報告・救助方法を依頼・保育上の相談指導・貧窮学童救済についての報告を行なう。さらに貧民調査の件を討議。</p>	<p>3・16 足尾銅山大争議(〜4・18)。 3・20 足尾事件報告演説会(東京)、友愛会幹部と直接行動派対立、これより知識階級排斥運動活発化。</p>
<p>9・27 元下京第3方面、細民の現状・物価状態および極貧苦に対する処置の報告・北小路の衛生・風紀の改善・共同浴場・託児所設置の急務を説く。府公同委員制度</p>	<p>4・4 米穀法公布。 4・8 借地法・借家法公布、(5・15東京など5市施行)。</p>
	<p>4・9 職業紹介所法公布(大11・7施行)。 4・12 住宅組合法公布。</p>
	<p>4・一 社会事業功労者、はじめて観桜会に招待される。</p>
	<p>4・一 中央慈善協会を中央社会事業協会と改称。</p>
	<p>4・一 堺利彦・山川均・高津正道らコミニスト・グループ結成、共産党結成を決議。</p>
	<p>5・7 日本海員組合結成。 5・16 田中陸相、シベリア撤兵を言明。 5・28 日本社会主義同盟に解散命令。</p>
	<p>6・22 コミンテルン第3回大会、田口運蔵・吉原太郎出席(〜7・12)。</p>
	<p>6・一 大阪市立市民館開館(最初の公立隣保事業施設)。</p>
	<p>6・一 部落改善奨励に関する件通ちよう。 7・3 プロフィンテルン創立大会(〜19日)。</p>
	<p>7・7 天王寺公会堂で大阪失業者大会。 7・7 棚橋小虎、東京連合会主事辞任。東京鉄工組合、連合会より脱退。</p>
	<p>7・7 神戸三菱造船所1万3,000名の怠業(〜8・9)。</p>
	<p>7・8 神戸川崎造船所1万5,000名の争議(〜8・9)。</p>
	<p>8・26 日ソ大連会議第1回会議開催。 8・一 東京市の自殺者、1月〜8月だけで677件、原因は生活難が最高。</p>
	<p>9・26 近畿地方などで暴風雨洪水、被害甚大。下賜金あり。</p>
	<p>9・一 日本女子大学社会事業部新設。 10・1 友愛会10周年大会、日本労働総同盟と改称(〜3日)。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>11・18 日本労農同盟会、船井郡八木町で小作問題演説会開催。約800人参加し非常に盛況。演題および弁士は、国領伍一郎「労働運動と小作運動」、佐々木隆太郎「貧乏と小作人」、辻井民之助「生の闘争」、住吉春山「今年の凶作は如何したらよいか」。</p> <p>日出 11・21</p> <p>11・上 久世郡宇治町の小作農民百数十人で組織する農事実行組合、組合員全員の一致をもって小作料4割値下げを地主に要求。町長、調停にあたり2割位の減額で妥結する模様。</p> <p>日出 11・12</p> <p>11・25 織友会、京都市上京区浄雲寺で第1回西陣賃業者大会開催。宣言、失業者保護対策の確立要求を中心とした決議採択。</p> <p>京都地方労働運動史</p> <p>12・上 綴喜郡有智郷村の小作農民130人、天候不順による凶作を理由に小作料軽減を要求して稲刈りを中止。大11・1になっても解決せず、小作農民の子弟は出稼ぎに行く。</p> <p>日出 12・17、大11・1・11</p> <p>12・上 紀伊郡竹田村の小作農民、本年6、7、9月の水害による米作減収を理由として、小作料3割減免を地主に要求。18日、地主側の1割減免の提案を拒絶。</p> <p>日出 12・20</p> <p>12・一 紀伊郡下鳥羽村で小作争議。その他、南桑田郡千代川村、宮前村、船井郡富本村でも、小作農民、小作料米軽減を要求。</p> <p>日出 12・27</p> <p>この年</p> <p>▷ 大正10年中の小作料減免要求253件。<sup>(2)</sup></p> <p>日出 大11・4・21</p> <p>▷ 春 アナーキズム系の団体自由人連盟の同志社支部結成。会員は、対馬忠行・小柳津恒・岡田有対・長岡博明ら十数人。京都地方労働運動史</p> <p>▷ 春 森英吉が中心となって、葛野郡嵯峨村に上嵯峨小作労働組合結成。大11・5小作農民約200人を糾合して嵯峨村小作人組合と改称。</p> <p>京都地方労働運動史、日出 大11・9・9</p> <p>▷ 夏 森英吉、総同盟京都連合会の援助の下に「全国的農民組合及び労働組合の確立、無産階級者の生活安定及向上を計る」ことを目的として、日本労農同盟会設立。会長辻井民之助・主事森英吉、幹事国領伍一郎、佐々木隆太郎・顧問住吉春山。</p> <p>京都地方労働運動史、日出 11・21</p>	<p>7・一 地方改善事業団体同盟一心会設立。</p> <p>市学区大観</p> <p>8・1 吃音者救済のため浅井春栄ら京都吃音矯正会(下京区東堀川通三条下ル)設置。大11・1同会后援会設立。府庁文書 大15、府社会事業便覧</p> <p>8・1 府、紀伊郡伏見町・竹田村・深草町・堀内村に公同委員制を拡張実施。</p> <p>府公同委員制度、告示351号</p> <p>8・8 宮津町営公設市場設置。与謝郡誌</p> <p>9・12 専売局託児所を松原大宮西に開設。(工場従業員の児童を昼間保育する目的で京都工場内の一部に開設)。</p> <p>市学区大観、京都社会福祉事業名鑑 昭26</p> <p>9・25 府下大水害。紀伊・天田・加佐郡の被害甚大(死者15、流失家屋210戸、浸水15,000戸など)。</p> <p>府統計書 大10</p> <p>9・一 京都共済会、西陣職業練習所(五辻通七本町西陣託児所内)。三条浴場(東三条長光町)を開設。</p> <p>市学区大観、府社会事業便覧</p> <p>10・一 京都市家事見習所を養正、楽只託児所内に開設。11月に崇仁、三条託児所内にも開設。</p> <p>市政便覧、市政史 上</p> <p>10・一 京都婦人慈善教会、貧困患者の巡回診療を実施。(延人員約750余名の治療にあたる)。</p> <p>府社会事業便覧</p> <p>11・25 府、部落改善奨励規定を定める。</p> <p>府令100号</p> <p>12・2 府、職業紹介法施行細則制定。</p> <p>府令101号</p> <p>12・一 京都仏教護国団、下京区針小路堀川西福寺内に老人ホーム・京都養老院(現在同和園)を設置。大11に御室尊寿寺に移転。</p> <p>社会時報、府社会事業便覧</p> <p>12・一 京都市、壬生朱雀町に壬生簡易食堂を設置。</p> <p>府社会事業便覧</p> <p>この年</p> <p>▷ 軍事救護状況、戸数730、人数983。</p> <p>▷ 方面委員、各学区において、細民の現状・衛生・風紀の改善・貧窮学童救済・物価状態・貧民救助の問題などを討議。<sup>(3)</sup></p> <p>▷ 小林輝次、賀川豊彦の影響を受けて七条大橋西詰下ルの一角にセツルメントを開設(約1年後、小林の入営のため閉鎖)。</p> <p>京都地方学生社会動運史</p> <p>▷ 何鹿郡志賀郷村に尚善会設立(善行美德を奨励し博愛慈善の思想を作興するため、戦病死者の遺族および廃兵の慰藉・生計困難な現役兵家族の扶助・高齢者の待遇・貧民救助・罹災者救助)。</p> <p>府公報 昭4</p>

参 考				日 本
○ 罹災救助基金法による救助(京都)				10・4 諸株・現物、一斉に崩落、中間景気の瓦解。
年度	総 額	年度	総 額	10・一 小牧近江ら『種蒔く人』発刊。
明33	円 424	8	円 183	11・4 原首相暗殺(11・5原内閣総辞職)。
34	7,701	9	496	11・12 ワシントン軍縮会議開会。
35	1,301	10	34,784	11・12 高木・尾崎ら全国普選断行同盟組織。
36	42,645	11	4,258	11・13 高橋政友会内閣成立。
37	12,425	12	12,356	12・1 曉民共産党事件検挙。
38	16,298	13	182	12・10 日英同盟廃棄決定。
40	97,826	14	23,149	12・10 労働保険調査会官制公布。
41	597	昭1	617,930	12・13 総同盟関東労働同盟会結成。
42	2,725	2	209,795	12・15 海軍制限に関する日英米海軍協定成立。
43	1,281	5	13,098	12・26 大杉栄ら月刊『労働運動』創刊。
44	774	7	4,010	12・一 部落改善事業奨励金を1府25県に交付。
大1	95	10	47,616	この年
3	1,530	11	11,273	▷ 争議件数246、参加人員5万8,225人、小作争議数1,680。
5	12,512	13	16,809	▷ 宗教学校に社会事業科もしくは講座を設置する傾向あり。
6	41,070	15	1,007	▷ 借家争議続発。東京・大阪などに借家人同盟結成。
7	9,485	16	5,762	▷ この年以降、内務省衛生局、全国84カ村について農村衛生状態の实地調査実施。
資料 府統計書				
明13・6制定の備荒儲蓄法にかわつて、明32・3には罹災救助基金法が制定され、それが昭22・10の災害救助法までつづく。				



社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・一 憲政会・国民党・織友会・水平社・仏教護国団、京都普選即行同盟会結成。 京都地方労働運動史</p> <p>2・1 京都普選即行同盟会、三条青年会館で第1回内閣弾劾、普選即行演説会開催。片岡直温ら演説。以後連日市内で演説会開催（例えば4日には新京極中座で約1千人を集め、5日には千本三条国技館で約2千人集め演説会市中デモを行う）。 日出 2・2、6</p> <p>2・11 京都普選即行同盟会、岡崎運動場で第2回演説会開催。西陣織友会沖島哲二郎・仏教護国団大西良慶・普選即行会鈴木紋吉・国民党京都支部渡辺昭・片岡直温ら演説。終了後、莚旗を先頭に市内をデモ、参加者約1万人。 日出 2・12</p> <p>2・20 京都市立中等学校教員約170人によって組織される丁又会（大9・3結成）、第2回総会で労働条件改善要求の宣言・決議を可決。 日出 2・23</p> <p>2・一 伏見の友仙職工、賃上げを要求。 日出 2・27</p> <p>3・2～8 日本労農同盟会、葛野郡嵯峨村公会堂で嵯峨農民学校を開催。 日本労働年鑑 大13</p> <p>3・3 全国水平社創立大会、2千人を集めて岡崎公会堂で開催、綱領・宣言・決議を採択。中央執行委員長南梅吉、中央執行委員駒井喜作・阪本清一郎・米田富・平野小剣・桜田規久三を選出。<sup>(1)</sup> 部落の歴史と解放運動</p> <p>3・上 西陣織物の不況による賃下げに対し、西陣の職工、織友会を中心に総会を開き賃下げ反対の決議を可決。ただし休機による過剰生産防止には反対せず。3月下旬、失業対策としての積立金制度の確立を西陣織物同業組合に要求。 日出 3・7、22</p> <p>3・一 共和組、使用者の団体である聖徳会に対し賃上げを要求して争議。 日出 3・9</p> <p>3・一 辻井民之助ら総同盟京都連合会の指導者、ロシア飢饉救済運動にのり出す。 京都地方労働運動史</p> <p>4・2 京都府水平社、府下より代表1千余人を集めて創立大会開催、同時に田中水平社発足（支部としては全国はじめて）。 月刊水平</p> <p>5・1 第1回メーデー演説会、約300人を集めて三条青年会館で開催。総同盟京都連合会、2万余のピラを京都市内に撒布して宣伝。 京都地方労働運動史</p> <p>5・19 府下友仙53工場、1千9百人が賃下げに反対し争議。 同上</p>	<p>1・一 本願寺社会課(大日本仏教慈善財団内)、貧困・失業者または本山参拝者などに対し救助保護指示の目的で本願寺人事相談所を開設。 府社会事業便覧</p> <p>2・一 大谷派本願寺、社会部を新設。 同上</p> <p>3・一 府社会課、2年を費し貧民分布地図を完成。市内貧民の数、全市民の約30%。 京都医事衛生誌 336</p> <p>3・1 日赤京都支部、京都市医師会と合同して歯科救療所を開始（昭5まで継続）。 同支部沿革誌</p> <p>3・3 府、戦傷者および14歳未満の者の行商に対する慈善行商取締規則公布。 府令14号</p> <p>3・22 京都市会、同和地区公設浴場建設の起債を議決。 市会史</p> <p>3・一 京都市職業紹介所を新町七条南に新築移転（3・22市、京都市職業紹介所規程を定める）。 市政要覧、市告示95号、市会史</p> <p>4・1 失明防止・盲人救済を提唱し、東本願寺派末寺中の有志、京都仏眼協会を設立。診療所を下京区富小路四条下ル徳正寺内におく。 社会時報 6:12</p> <p>4・5 京都市職工扶助規程を定める。 市告示128号</p> <p>4・7 東山方面委員会、日赤京都支部の巡回診療所を正林寺に開所。 社会時報 8:6</p> <p>4・一 本派本願寺社会部設置。 市学区大観</p> <p>5・一 財団法人伏見幼稚園開設。 同上</p> <p>5・一 下京区間之町通五条下ル養蓮寺内に会員組織の俱一会設立。助葬・遺族慰安・行旅病人救護を実施。 社会時報 10:5</p> <p>5・一 府社会課、京都市内の身寄りのない老人のため、仏教護国団経営の京都養老院へ収容方を委託、(定員20。1日食費35銭、事務雑費35銭の割で支給)。 社会 4:6</p> <p>6・1 平安徳義会、壬生寺境内に第2保育園を開設、保育料1人1ヵ月1円。60名収容。 徳義 394、府庁文書 大15</p> <p>6・一 京都市、無料法律相談所を新町七条の職業紹介所内に移す。 府公同委員制度</p> <p>6・一 下京区第5方面公同委員の援助により有志が下京区西七条貧救会設立。府公同委員制度</p> <p>6・一 京都市、成徳小学校にはじめて精神薄弱児のための特別学級を設置。市政史 上、市会史</p> <p>7・一 京都市官職業紹介所（下京区新町通七条）に簡易食堂を併設。 府社会事業便覧</p>

参 考	日 本
<p>(1) 当日、水平社が発表した綱領・宣言・決議綱領</p> <p>一、特殊部落民は部落民自身の行動によって、絶対の解放を期す。</p> <p>一、吾々特殊部落民は絶対に経済の自由と職業の自由を社会に要求し、以て獲得を期す。</p> <p>一、吾等は人間性の原理に覚醒し人類最高の完成に向って突進す。</p> <p>宣 言</p> <p>全国に散在する吾が特殊部落民よ団結せよ。長い間虐げられて来た兄弟よ。過去半世紀間に、種々なる方法と、多くの人々によってなされた吾等のための運動が何等の有難い効果を齎らさなかった事實は、夫等のすべてが吾々によって、又他の人々によって毎に人間を冒瀆されていた罰であったのだ。そしてこれ等の人間を勤るかの如き運動は、かへって多くの兄弟を墮落させた事を想へば、此際、吾々の中より、人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集団運動を起せるは、寧ろ必然である。</p> <p>兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり、実行者であった。陋劣なる階級政策の犠牲者であり、男らしき産業的殉教者であったのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しい人間の皮を剥ぎとられ、ケモノの心臓を裂く代価として、暖い人間の心臓を引っ裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢の内にも、なほ誇り得る人間の血は、涸れずにあった。さうだ、そして吾々は、この血をうけて人間が神にかはらうとする時代にあふたのだ。犠牲がその烙印を投げ返す時が来たのだ。殉教者が、その荆冠を祝福される時が来たのだ。</p> <p>吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行為によって、祖先を辱しめ、人間を冒瀆してはならぬ。さうして人間の世の冷たさが、何んなに冷いか、人間を勤る事が何んであるかを知っている吾々は、心から人生の熱と光を願求礼讃するものである。</p> <p>水平社は、かくして生れた。人の世に熱あれ人間に光あれ。</p> <p>決 議</p> <p>一、吾々に対しエタ及び特殊部落民等の言行によって侮辱の意志を表示したる時は徹底的糾弾を為す。</p> <p>一、全国水平社京都本部に於て我等団結の統一を図る為め、月刊雑誌『水平』を発行す。</p> <p>一、部落民の絶対多数を門信徒とする東西両本願寺が、此際、我々の運動に対して包蔵する赤裸々な意見を聴取し、其の回答により機宜の行動をとること。</p> <p>『労働運動』1922年4月 &lt;4号&gt;</p>	<p>1・22 モスクワで極東民族大会開会。</p> <p>1・一 堺利彦・山川均ら『前衛』創刊。</p> <p>1・一 『土地と自由』創刊、のち日本農民組合機関紙となる。</p> <p>2・6 ワシントン条約調印。</p> <p>2・9 東京に官業労働全国大会開催。</p> <p>2・23 官業労働総同盟系により日本農民総同盟結成。</p> <p>2・23 野党3派、衆議院に統一普選法案上程27日否決。</p> <p>3・10 サンガー夫人来日。内務省、産児制限の公開講演の禁止を条件に上陸許可。</p> <p>3・24 過激社会運動取締法案貴族院通過、25日衆議院審議未了。</p> <p>3・21 大阪・名古屋・八幡などで官業労働者、軍縮に伴う失業救済の大示威。</p> <p>3・30 未成年者飲酒禁止法公布。</p> <p>4・9 日本農民組合創立大会。</p> <p>4・12 借地借家調停法公布（施行10・1）。</p> <p>4・17 株式一斉に崩落、戦後第2次恐慌勃発。</p> <p>4・20 治警法第5条中女子の政談集会参加禁止を削除。</p> <p>4・20 少年法・矯正院法各公布(施行大12・1)。</p> <p>4・22 健康保険法公布（大15・7・1に一部施行）。</p> <p>4・29 反総同盟系組合、関西労働組合同盟会結成。</p> <p>4・一 社会事業専任理事官を1道3府6県におく。</p> <p>5・10 奈良県水平社創立大会。</p> <p>5・15 新婦人協会、初の政談演説会を開催。</p> <p>6・1 賀川豊彦、ベストセラー「死線を越えて」の印税を基金に大阪北区安治川教会に大阪労働学校開設。</p> <p>6・4 機械労働組合連合会発会。</p> <p>6・6 高橋内閣、改造に失敗し総辞職。6・12加藤友三郎内閣成立。</p> <p>6・22 対露非干渉同志会結成。</p> <p>7・15 日本共産党結成。</p> <p>7・16 東京芝公園に憲政擁護民衆大会開催。</p> <p>8・一 山川均、『前衛』に「無産階級運動の方向転換」発表。</p> <p>9・18 文部省、女教員・保母にはじめて産前産後の有給休養を認めるよう訓令。</p> <p>9・30 大阪に日本労働組合総連合結成大会、解散を命ぜられ決裂。</p> <p>10・14 監獄を刑務所と改称。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>5・一 西川金次郎ら、アナーキズム系の京都印刷工組合を結成。会長に日出新聞社植字工の藤本岩夫を選出。 京都地方労働運動史</p> <p>6・3 総同盟京都連合会のもとに、日新電機・井上電機の労働者を中心とした京都電機工組合結成。組合員約50人。 同上</p> <p>6・10 染物職人243人、都華友工会結成。高村幸一、西島貞一らが中心となって活動。 同上</p> <p>6・11 陶磁器製造部従業員組合発会式(陶磁器開業納入金制度の全廃、賃下げ反対の運動を契機に結成され、この日京都市公会堂で発会式挙行、組合員約6百人、結成後、ただちに賃下げ反対の運動に取り組み、7月末ころ妥結した模様)。 日出 6・11、13、7・25</p> <p>7・一 日本共産党の結成に伴い、京都に細胞つくられる。この時の党员は、辻井民之助・谷口善太郎・国領伍一郎・国領己三郎・佐々木隆太郎・半谷玉三。 京都地方労働運動史</p> <p>8・1 紀伊郡竹田村の友仙工、賃上げを要求して争議。 日出 7・26</p> <p>8・20 日本労農同盟会、亀岡町亀岡座で南桑田郡小作人大会開催。 日本労働年鑑 大13</p> <p>8・28 解雇手当の支給・請負の常備制度への改正等を要求して交渉中であった沢田合金製作所(下京区、職工64人)の職工、27日の集会で3人が検束されたのに憤激し、革命歌を高唱しサボタージュ。職工12人堀川署に検挙。職工36人、総同盟京都連合会を争議団本部としてストに突入。 日出 8・28、京都地方労働運動史</p> <p>8・29 京都市東九条三三倶楽部で、争議団の演説会開催し、約500人参加。集会は解散させられ辻井・奥村・半谷らの弁士6人検挙。9・1、第2回演説会。9・2、第3回演説会を岡崎公会堂に約1千人を集めて開催。中止命令の乱発により警官隊と衝突し、会衆は検束者の釈放を要求して川端署に押しかける。 日出 9・3</p> <p>9・3 沢田合金製作所、工場閉鎖を宣言。7日、三条青年会館での演説会開催中、国粋会員殴り込み、警官隊これを黙認。11日解雇手当の支給を条件に沢田争議は解決したが、総同盟対国粋会・警察の対立と新たな斗争へと転化。17日自由法曹団、入浴し国粋会の暴力・府警察の無責任を抗議。19日、官憲暴行糾弾演説会、会場使用拒否にあい中止。以後、この問題は自然冷却。 大阪毎日 9・9、18、日出 9・4、20</p> <p>9・24 京都日本借家人総同盟、三条青年会館で創立を演説会開催。 日本労働年鑑 4</p> <p>9・27 京都市内京極から四条通へ、「革命は</p>	<p>来れり」との不穏文書撒布される。門鷲久馬・内藤正司、容疑者として取調。 日出 9・29</p> <p>10・5 紀伊郡伏見町の尾崎友禅工場で、職工60人が賃下げに反対リスト。 大阪毎日 10・8</p> <p>10・15 日本借家人総同盟、家賃値下げ問題演説会を三条青年会館で開催。弁士は弁護士佐々木善四郎、高野すみ子ら。 日出 10・15</p> <p>11・7 ロシア革命を記念し、『前衛』を京都市内壬生車庫・七条駅裏・四条大宮附近の大工場に撒布、奥村・辻井・国領仁三郎・田辺亘・川崎定吉・大津幸次郎、検挙。 日出 11・11</p> <p>11・中 葛野郡花園村の小作農民、小作料の軽減を要求。22日、市農会調停開始。 日出 11・22</p> <p>11・26 日出新聞社印刷工、京都印刷工組合の指導により賃下げに反対してストに突入。30日、スト破り、争議団と共同歩調をとり新聞休刊。12・2、争議団側の勝利で解決。 日本労働年鑑 4</p> <p>11・下 綴喜郡田辺・草内・三山木・普賢寺・都々城の各村の小作団体、小作料の軽減を要求。都々城村では、真宗本派善照寺住職の調停で解決。 日出 12・4</p> <p>12・一 織友会を中心に京都普選同志会結成される。憲政会、資金を提供。会長酒井与作、副会長西沢静一、顧問末広重雄。 日出 大9・1・14、京都地方労働運動史</p>
社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>8・2 南部吉右衛門、西陣企業従業者の多い同地域勤労家庭婦人と幼児の福祉増進のため、上京区下長者町通七本町西入ルに乳幼児保育施設和楽園を設立。 社会時報 10:5、府庁文書 大15</p> <p>8・6 6カ寺の有志により託児施設摩訶園開設(上京区出雲路俵町西光寺内、労働能率増進・弊習改善・児童衛生向上のため)。 社会事業概要、府庁文書 大15</p> <p>8・18 府、済生会救療規定を定める。 告示343号</p> <p>8・一 京都共済会、鷹野公設浴場を設置。 市学区大観</p> <p>10・22 府慈善協会、府社会事業協会と改称。 府公同委員制度、府庁文書 大15</p> <p>11・19 東福寺社会局、精神病者・不良少年少女の感化教育などをめざし東福寺三聖医院を開設。 社会事業概要</p> <p>11・一 府共済会、東寺託児所を開設(下京区大宮通八条下ル西入九条町東寺宝菩提院境内)。 社会時報 11:1、日出 11・27</p>	

社 会 福 祉	日 本
<p>12・8 友染業芝村久次郎(紀伊郡伏見町字肥後)の出資により、伏見社会奉仕館を設置。人事相談・職業相談・窮民救助を行なう。 府社会事業便覧</p> <p>この年</p> <p>▷ 京都婦人慈善教会は前年につづき下京各所で3カ月ずつ巡回病院を開設、細民に施薬施療し、牛乳を分配。(1日70~80名の患者が殺到)。 日出 大12・6・26</p> <p>▷ 市、従来の各託児所の主任書記を廃止。社会課の直轄となり、託児事業に関する事務を統一。 市政史 上</p> <p>▷ 各学区方面委員、下層階級の戸籍の取扱い・貧民救済・消費節約・不就学児童調査研究などを討議また社会課囑託を招き討論。</p>	<p>10・20 普選調査会設置。</p> <p>11・5 コミンテルン第4回大会、日本共産党を同日本支部として承認(~12・5)。</p> <p>12・20 機械技工組合分裂。</p> <p>12・一 大杉栄、国際アナーキスト大会出席のため日本脱出。</p> <p>この年</p> <p>▷ 争議件数250、参加人員4万1,000人、小作争議件数1,578。</p> <p>▷ 全国各地銀行取付29行。</p> <p>▷ 県市に社会課を新設するところ多し。</p> <p>▷ ペストで死者67人(最後の流行)。</p> <p>▷ 禁酒運動がさかん。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
1・1 日本共産党、京都ではじめての細胞会議開催。 京都地方労働運動史	2・1 富岡百鍊、京都市に施米料として1000円寄附。 市公報
1・15 十月会(労働運動家・社会主義者・同志社大生らにより結成された思想団体)、リープクネヒト、ローザルクセンブルグの追悼演説会を市内各所において開催。総同盟京都支部も事務所(七条川端)で演説会を開き、両者の伝記を掲載した「前衛」の号外を配布。 日出 1・16	2・11 キリスト教婦人により隣保社会教育事業として京都キリスト教女子青年会設立(室町出水)。 京都社会福祉事業名鑑
1・15~16 水平社東七条支部、創立大会開催。 日出 1・15	4・1 葛野郡医師会、救療部を開始。 京都医事衛生誌 397
1・一 久世郡富野荘村、北桑田郡周山村、相楽郡祝園村(日本農民組合関係)で小作争議。 日本労働年鑑 5	4・11 京都市会、市内5カ所(東三条・養正・楽只・西三条・鹿ヶ谷)に託児所建設案可決。予算20万4千円、収容児童820名。 日出 4・14
1・一 綴喜郡有智郷村に、府下ではじめて日本農民組合の支部結成。 京都地方労働運動史	4・18 浄土真宗立教開宗700年を記念して、慈善会財団、社会事業大会を顕道会館(油小路花屋町上ル)で開催(～19日)。三上孝基・小河滋次郎の講演があり、各寺院住職に社会事業知識の普及・各地方寺院の着手すべき事業・専門社会事業家の養成などを検討。 本願寺史、中外日報 4・19、日出
1・一 綴喜郡多賀村の小作争議、村長の調停により妥結(大11・10から小作料の減額を要求して争議中)。 日出 1・21	4・一 何鹿郡山家村、敬老団体老松会を結成。 山家村誌
2・3 普選同志会、市公会堂で演説会開催。約1,500参加。同志会々員、八木信一・今井嘉幸・末広重雄ら演説。2・18市公会堂で普選即行市民大会を開催し20人の東上委員を選出。 日出 2・4、19	4・一 鐘紡京都託児所開設(左京区高野竹屋町)。 市社会事業要覧
2・11 過激社会運動取締法案・労働組合法案・小作争議調停法案反対全京都無産者大会、労農諸団体の共催で市公会堂で開催。約2千人参加。演説会とデモを行い、公務執行妨害等により13人検挙。3・13と5・21に判決(2名有罪、1名無罪)。 日出 2・12	5・1 府、貧困の妊産婦を無料助産することを京都市産婆組合へ委託。助産婦紹介券を発行し各共同主事に交付。費用は府の負担。 京都医事衛生誌 350
2・15 在京都の新聞通信記者、普選即行の決議を可決し首相・内相・貴衆両院議長らに抗議電報を打つ。 日出 2・17	5・一 府社会課、職業紹介所を西陣釈迦堂境内の府立託児所に附設(収容人員20)。 日出 4・20
2・23 関西学生連盟、加藤勤十・水谷長三郎・佐野学らを招いて三悪法反対演説会開催。 京都地方労働運動史	5・一 京都婦人慈善会、知恩院下にミシン裁縫女学校を経営(貧困の女子45人余を収容、無料指導)。 日出 5・27
2・28 日本機械精工の職工36人、技師長の辞職を要求してスト。 同上	5・一 愛宕郡岩倉村の渡辺家、精神病患者家族看護を始める。 京都医事衛生誌 439
3・2~3 全国水平社第2回大会、約3千人を集めて市公会堂で開催。大会は、政府の侮辱的改善に対する反対・農民組合・全国婦人水平社の結成等を決議。閉会時、警官と衝突し大乱闘。 部落の歴史と解放運動	5・一 府、公同委員制度の内容充実のため各方面区域の組合せ変更ならびに駐在事務所の移転を実施。 方面委員制度20年史
3・20~26 日本労農同盟、農民学校を嵯峨村公会堂で開催。 青年運動 大12・3	5・一 北桑田郡山国村に社会課新設(町村としては全国初の設置)。 日出 5・21
4・3 煙草専売局京都工場の労働者、京都煙草労働組合を結成し、三条青年会館で発会式および演説会開催。組合代表者、宇野紅城・小林清一・柴田某・中川義久。7・20、官業労働総同盟関西同盟に加入。10月、解雇反対斗争。 京都地方労働運動史、日出 4・4	6・15 府、地方改善奨励規程を定める(府部落改善奨励規程大10府令100号廃止)。(2) 府令66号
	6・22 山城地方水害。 府統計書 大12
	6・一 府社会課、市内における救療機関統一の方針をうちだす。 日赤京都支部沿革誌
	6・一 済生会、小松谷診療所(東山馬町)・東寺診療所(大宮八条下ル)を開設。 済生会50年誌、京都社会福祉事業名鑑
	6・一 下京区安寧学区公同委員牛尾淀次郎、300円を投じて救貧会を組織。主として緊急救護にあたる。 社会時報 1:6

参 考	日 本
(1) 奥村電気争議会計報告 第1回会計報告	1・1 東京・大阪に少年審判所設置(7・1東京に多摩矯正院開設)。
収入の部	1・27 婦人参政権獲得同盟成立。
926円93 寄付金総額	1・一 政府、反労農3法案の議会不提出決定。
1,417円65 争議団員離出金額	2・11 東京・野田・京阪に三悪法反対デモ。
120円00 演説会収入	2・20 神戸で日農第2回大会、普選問題をめぐり東西激論(～22日)。
116円61 行商隊其他より返金	2・24 野党統一普選法案上程、3・1否決。
合計 2,581円19銭	3・8 東京で初の国際婦人デー集会。
支出の部	3・13 野田醤油2,000人の争議(～4・12)。
465円19 交通費	3・18 奈良県磯城郡都村で全国水平社と国粋会員大乱闘。
538円58 食事費	3・30 中央卸売市場法公布(11・1施行)。
246円04 慰安費	3・30 工場法改正公布・工業労働者最低年齢法公布。
82円74 会場費	3・一 山本懸蔵ら「レフト」創立協議会。
334円84 救済費	4・3 『社会主義研究』『前衛』『無産階級』合併して『赤旗』創刊(7月『階級戦』と改題、9月廃刊)。
216円65 事務費	4・24 実業同志会結成。
46円30 通信費	4・一 職業紹介事務を協同会より、廃兵院事務を陸軍省よりそれぞれ内務省の所管に移す。
528円65 差入・保釈金・記録代	4・一 中央職業紹介事務局および東京・大阪地方職業紹介事務局設置。
68円20 宣伝費	4・一 第1回大谷派全国社会事業大会開催。
100円00 東京蒲田争議へ寄付	5・12 早大軍事研究団事件。
149円03 雑費	5・14 岡山県藤田農場小作争議。
合計 2,776円02銭	5・一 印刷工組合連合会結成。
差引 195円03銭の不足	5・一 社会局3部制となり健康保険部設置。
第2回会計報告	6・5 第1次共産党事件。
収入の部	6・30 官業労働関西労働同盟会結成。
103円41 (米酒)残品売上金	6・一 内務省社会局地方改善費補助申請に關し通ちょうを發し、且つ差別観念の除去方法に一層重点をおくよう指示。
219円76 寄付金	8・1 土木事業従業員共済組合設立。
66円43 行商隊純益金	8・23 加藤友三郎首相死去。8・26加藤内閣総辞職。
合計 339円60銭	8・28 盲学校及聾啞学校令を小学校令から分離させ独立の規程として公布。
支出の部	8・一 中央社会事業協会、融和促進事業部(地方改善部)を特設。
43円40 印刷費	9・1 関東大震災、以後震災恐慌。震災地に内帛金1,000万円下賜。
19円20 第1回公判記録写代	9・2 第2次山本内閣成立、普選実施声明・戒厳令發布。
76円10 岡甚外4軒に謝礼	9・4 電戸事件。
41円30 争議中の雑費未払分	9・7 治安維持に関する緊急勅令公布。
76円36 残務整理諸雑費	
合計 256円35銭	
第1回報告分金 195円03銭不足	
合計差引金 111円78銭不足	
右不足額を総同盟京都連合会立替す。 京都地方労働運動史	
(2) 地方改善奨励規程(抄)	
第一条 地方ノ改善發達ヲ目的トスル事業ニ対シ知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ毎年度予算ノ範圍内ニ於テ奨励金ヲ交付ス	
第二条 前条ニ依リ奨励金ヲ交付スヘキ事業ノ種類左ノ如シ	
一 住宅ノ改良又ハ居住地域ノ拡張整理道路ノ改良其ノ他地区ノ整備ヲ目的トスル事業	
二 託児所及慰安、娯楽機關ノ設置就学奨励人材ノ養成貯金組合ノ設置其ノ他風紀ノ改善、生活状態ノ改善及教化ノ普及ヲ目的トスル事業	
三 実業教育ノ奨励産業組合公設質屋及授産場ノ設置小作農及自作農ノ保護奨励其ノ他産業状態ノ改善ヲ目的トスル事業	
四 飲料水及下水設備ノ改良共同浴場診療所ノ設置助産事業其ノ他衛生施設ノ完備ヲ目的トスル事業	
五 出稼及移住ノ奨励ヲ目的トスル事業	
六 其ノ他必要ト認ムル事業 (以下略)	

社 会 運 動
4・8 大阪・京都のアナーキスト約60人、嵐山でデモ。福島佐太郎・対馬忠行・八木信一ら20数人検挙。 日出 4・9
4・29 東七条水平社主催差別撤廃大演説会(会場高倉会館)、開会の浪花節の文句をめぐって会場混乱し解散させられる。5・18、再度演説会を開催。浅川憲次ら演説。 日出 4・30、5・19
4・一 綴喜郡田辺町与戸で小作争議。 日本労働年鑑 5
5・1 デモ行進不許可により、メーデー祝福労働問題大演説会、市公会堂で開催。約2千人参加。各弁士、デモ不許可を徹底的に攻撃。閉会后、深夜非合法デモ敢行。 日出 5・2、3
5・5 陶磁器工組合、賃上げを要求して事業主団体商工組合と交渉。10日、組合の要求どおり解決。10・11、賃下げに対する対応等について協議。 日出 5・11、12、10・13
5・上 市内の瓦工々作同盟、賃上げを要求してスト。13日、妥結。 日出 5・13、15
5・13 市内の金箔職工、下請業者と共同して賃上げを要求リスト。 京都地方労働運動史
5・17 全日本無産者青年連盟、無産青年大会・演説会を三条青年会館で開催。警察の干渉激しく、演説・決議文の朗読悉く中止。15人検束。 日出 5・18
6・24 関西労働組合同盟(アナーキズム系)、総同盟撲滅演説会開催。総同盟員と大乱闘となり、13人検挙。 日出 6・25
6・一 綴喜郡普賢寺田村打田で小作争議。 日本労働年鑑 5
7・4 総同盟京連、反総同盟および官憲糾弾演説会を市公会堂で開催。閉会后、水平社員約50人、水平歌高唱を制止され警官と大乱闘。8人検束。 日出 7・5、6
7・11 奥村電気商会、減給反対・解雇手当の支給・共済会の民主化を要求して職工スト。会社側、争議団の中心とみられる100人に解雇通知発送。13日、争議団は生活苦から自殺した職工の母の葬儀デモ敢行、約2千人参加。15日、奥村電気糾弾大演説会、三条青年会館で開催。16日、争議団、会社の事務室・医局に投石。警官、抜剣して争議団を襲撃し95人検挙。24日、府警察部長、調停案提出。27日、調停決裂報告演説会開催。8・5、争議団分裂。6日、争議団の強硬派、不穏言動により約100人検挙。9日、強硬派も切り崩され調停案の線にそって妥結。 <sup>(1)</sup> 日出 7・13~15、17、18、26、28、8・7、10

7・16 京都捺染工組合発会式。約3百人参加、総同盟加入決議。組合長に西島選出。10・13、第1回総会を三条青年会館で開催。組合長に桂信三選出。 京都地方労働運動史、日出 7・17
8・13 東七条水平社員約200人、頌徳青年団事務所を襲撃。警官150人出動。 日出 8・14
8・22 南敬助らの発起で水平社青年党、田中夜学校で発会式。党员約70人。 日出 8・24
9・2 日本労農同盟主催無産青年デー大演説会、三条青年会館で開催。約3百人参加。閉会后直ちに解散させられデモに移る。約10人検束。 日出 9・3
9・2 京都電機工組合第3・4・5・6支部(奥村電気商会内)発会式。閉会后、第1支部(日新電気内)を加え総会開催(第2支部(井上電気内)は消滅)。 日出 9・3、京都地方労働運動史
10・18 森英吉中心となり、日本農民組合葛野郡連合会、嵯峨町公会堂で発会式。 日出 10・17
10・一 官製青年団の撃破と無産青年の教育を目的として、桂信三・国領己三郎中心となり日本文化青年同盟を結成。 日本労働年鑑 5
10・一 綴喜郡青谷村・天田郡上夜久野村・天田郡雀部村・福知山町で小作争議。 同上
11・25 総同盟京都連合会・煙草労働組合、亀戸事件批判労働者大会開催。 日出 11・26、27
11・一 久世郡寺田・富野荘・佐山村で小作争議(日本農民組合関係)、久世郡御牧村・南桑田郡保津村・紀伊郡竹田村で小作争議。 日本労働年鑑 5
12・4 京都捺染工組合第3支部、京都市東九条の児島友禪工場に対し、賃上げ・休業手当解雇手当制定を要求。5日からスト。9日、労働組合の団体交渉権・賃上げを承認して解決。 日出 12・7
12・一 相楽郡相楽村・乙訓郡向日町・綴喜郡美豆村・南桑田郡東別院村で小作争議。 日本労働年鑑 5

社 会 福 祉
6・一 府、社会事業貸付金公債10万円を起債。 府統計書 大12
7・16 済生会、田中診療所(田中飛鳥井町)開設。当初は民家を借用して診療開始。 同会50年誌
7・一 免囚保護団体何鹿郡慈恵会結成。 綾部町史
8・1 京都共済会、公益質屋を上京区今小路通御前通西入ルに開設。のち西陣公益質屋と改称。 社会 4:6

社 会 福 祉
8・3 府、保健衛生事業奨励規程を定める。 府令82号
8・28 若林前知事・池松知事の協力のもとに融和団体府親和会を設立。調査・講演会・懇談会・授産講習会などの事業を行なう。以後府下に続々と親和会設置。 社会時報 7:4ほか
8・一 崇仁公設浴場(東七条上ノ町、崇仁青年団経営)・養正公設浴場(田中馬場町、大正会経営)開設。 府公同委員制度
9・2 京都市、関東大震災に際し義捐救済方法を討議。3日緊急市会開催(9・3日赤京都支部、救護班を派遣。9・8市医師会、東本願寺婦人法話会場に救護所を設け救護に従事。9・9府、非常徴発令を発し救護にそなえる。9・15市救護部、東京出張所を設け東京市の物資配給・連絡などの調整をはかる。この月、被災者の入浴にそなえ検疫所・保護所の設置を検討。市、救護方法につき神戸・大阪の両市と打合せ。京大生有志、全国学生に救護を呼びかけ、全国学生連盟を組織し、義捐金を募集)。 日出 9・3~
9・14 両丹地方水害。 府統計書 大12
9・一 西陣革新青年団、西陣の危急に際し、西陣織物組合の無策を憤慨し、西陣救済の檄をとばす。 日出 9・25
10・22 日赤京都支部、壬生診療所を朱雀尋常小学校内に開設。 同支部沿革誌
10・一 労働者の幼児のため私立友愛幼稚園を出雲路下ノ町に開設。 社会事業概要
10・一 加佐郡新舞鶴町職業紹介所設置。 社会事業施設要覧 昭11
11・15 震災事務局、罹災避難民調査を開始。市各学区を1調査区として、公同幹事・公同組長・上下京区吏員・社会課員ら調査に従事。 日出 11・2
11・一 窮民救助のため、田中馬場町に桜井広済会を結成。 社会事業概要
11・一 京都市職業紹介所、軍縮による大量失業者の救済にあたる。(ちなみに海軍工廠整理職工約900名)。 市政史上
11・一 日赤京都支部、堀川頭診療所を開設。 同支部沿革誌
12・1 府下に大阪少年審判所囑託の保護司を置く(同所の管轄は大阪・京都・兵庫)。 京都保護監察所調べ
この年
▷ 融和事業の一環として育英奨励事業を開始。中等学校程度以上の者に対する奨学のため大12以降、国庫補助を受ける。 社会時報 5:8
▷ 市医師会、府の補助金・篤志家の寄金を基金として救済事業を開始。府社会課、無料施療券と実費の半額を患者が負担する診療券を公同主事を通じて頒布。 日出 6・2

日 本
9・16 甘粕事件。
11・6 日本郵船、航海手当半減反対争議(〜10日)。
11・14 総同盟議会議行動利用を声明、松岡主事辞任、加藤勤十後任。
11・25 岸和田・和泉・寺田3紡績会社争議(〜12・11)。
12・14 震災の救護活動の中から東京帝大セツルメント組織される。
12・18 政治問題研究会第1回会合。
12・27 難波大助撰政官に発砲(虎の門事件)、第2次内閣総辞職。
この年
▷ 争議件数647、参加人員6万8,814人、小作争議件数1,917。
▷ 経済界不況、工場の閉鎖続出。
▷ 地方改善事業の奨励がさかん。各地で講習会など開催。
▷ 水平社運動各地で展開。



社会運動	社会福祉
<p>1・7 東洋紡向島工場(紀伊郡)へ転動した女工、工場長と感情的対立を起し、サボタージュのち退社。工場長の退社等で22日解決。 日出 1・11、24</p> <p>1・14 電機工組合日新電機支部、年功加俸制の改善を要求。17日、会社要求を受入れる。 京都地方労働運動史</p> <p>1・15 三谷伸銅所(疎水秋月橋)の職工約百人、組合員の解雇撤回、歩増しの本俸繰入れ等を要求してスト。25日争議団の惨敗をもって終る。 朝日 1・24、日出 1・20~26</p> <p>1・一 紀伊郡竹田村山手友禅工場の職工約50人、賃上げを要求。 日出 1・14</p> <p>1・一 南桑田郡篠村柏原で小作争議。 日本労働年鑑 6</p> <p>2・一 綴喜郡美豆村に日農支部結成。 京都地方労働運動史</p> <p>2・一 久世郡佐山村、相楽郡祝園村、久世郡寺田村(日農関係)で小作争議。 日本労働年鑑 6</p> <p>3・3 京都染物労働組合第2支部、京都絹毛会社(京都市西九条)に解雇手当の制定・賃上げ・帰郷旅費の支給等を要求してスト。8日、組合の敗北で終わる。 日出 3・7~10、京都地方労働運動史</p> <p>3・4 堺利彦・赤尾敏・藤田陽二・佐々木隆太郎ら、第3回水平社大会に出席したところを檢束される。なお、この大会に有馬頼寧傍聴。 朝日 3・4</p> <p>3・12 京都労働学校創立記念演説会、約1千人参加し岡崎公会堂で開催。河野密・山本宣治・鈴木文治・井上良治・水谷長三郎講演。<sup>(1)</sup> 日出 3・13</p> <p>3・16 反総同盟派、三条青年会館で演説会開催。逸見吉造の演説、総同盟員に弥次りたおされる。 日出 3・18</p> <p>3・19 松風工業会社(京都市東福寺)で組合支部長を解雇したところから争議勃発(本年3・9合同労働組合本町支部として発足)。21日、解雇反対・賃上げ・解雇手当の増額等を要求。25日、ストに突入。27日会社にデモをかけ5人檢束。30日、総同盟の応援の下にデモ・糾弾演説会開催。4・1煙草労働組合主催で糾弾演説会。11日松原署長調停開始。12日、争議団員77人解雇、見舞金1,600円支給で組合惨敗の下に終わる。 日出 3・25、26、29、31、4・2、10~12</p> <p>3・21 舞鶴工廠に共立会創立。会員4,176人。会長島田良蔵、海軍労働組合連盟に加入。 日出 3・24</p> <p>4・1 京都労働学校開校式。5日から三条青年会館で開校、学生73人。<sup>(1)</sup> 京都地方労働運動史</p> <p>5・1 京都ではじめて公然たるメーデーデモ敢行(京都駅から円山公園)。参加団体は、合同労働組合、染物労働組合、電機工組合(総同盟)、煙草労働組合、陶磁器工組合、労働学校生徒、南桑小作人組合、印刷工組合。スローガンは、8時間労働制の確立・失業防止の徹底・労農ロシアの承認・最低賃金法の制定・市電割引の即時断行。 日出 5・2</p>	<p>1・21 府、市内顕道会館で中央社会事業協会主催の地方改善事業講習会開催(~25日)。 社会 4:5</p> <p>1・一 何鹿麿兵会結成。 志賀郷村誌</p> <p>3・1 愛宕郡、内務省および府の補助のもとに洛北里子保護会を設け、洛北地区の里子250名の保護政策を検討。患者は無料治療。<sup>(3)</sup> 日出 4・24、府庁文書 大15</p> <p>3・13 浄土宗、開宗750年記念の社会事業大会開催(知恩院・華頂高女講堂)、社会事業研究生養成・社会事業従事者の待遇・運営などを検討(~15日)。 日出 3・13</p> <p>3・22 府、方面委員規程・方面常務委員会規程・方面委員会規程を定める(4・1施行)。公同委員を公同組合と区別するため方面委員と改称。<sup>(4)</sup> 告示201~203号</p> <p>3・31 府、社会課囑託大谷瑩昭・海野幸徳を経費緊縮のため退職させる。海野、去るにあたり4・4付け『日出新聞』に「府下の社会改良事業」の記事を寄せ社会事業の教化を説く。 日出 4・1、4</p> <p>3・一 京都市会、刑務所用地(上京区丸太町日暮西入ル)の払下げを受け、低利資金42,000円をもって職業紹介所建設を決める。市政史上</p> <p>3・一 市、養正託児所・家事見習所を左京区田中馬場町に開設。 京都社会福祉事業名鑑</p> <p>4・10 済生会、方面委員会などの協力により内科診療所を開設(下京区八条夷馬場町)。のち下京区壬生川通前田町方面会館内の大内診療所となる。また三十三間堂西門脇に本町診療所開設。 同会50年誌、日出</p> <p>4・一 社会事業後援会小川共助会結成(小川小学校内)。 方面委員制度20年史</p> <p>4・一 京都市、わが国初の簡易宿泊所を新町七条下ルに開設(昭10・3・31廃止)。 市政委員、市公報 昭10・3・31</p> <p>5・一 日赤京都支部、舞鶴・宮津・福知山など郡部診療所を開設。 同支部沿革誌</p> <p>5・一 京都市、錦林託児所(鹿ヶ谷高岸町)・壬生託児所を新設。さらに第5・7トラホーム治療所をそれぞれ併設。 市政概要、市政史上</p> <p>5・一 本願寺、京都方面少年保護通告受理所(下京区油小路正面角)を設置。 本願寺派社会事業便覧</p> <p>6・1 何鹿郡物部村満福寺住職篠畑俊道、農繁期託児所を開設。(府下の農繁期託児所のはじめ)。同郡東八田村雲源寺・禅徳寺・施福寺・門徳寺も託児所を開設。 社会時報 1:4ほか</p>

参考	日 本
<p>(1) 京都労働学校開校当初の規約及び講師 京都労働学校規約 (一)本校は京都学校と称し、事務所を当分京都市七条大橋西詰下る日本労働総同盟京都連合会内に置き、校舎を三条柳馬場角基督教青年会館内に置く。(二)本校は労働者の幸福増進を目的とする労働運動に必要な知識を研磨するを以て目的とす。(三)本校の修業期間は満3カ月とす。但し1週間火木土の3カ日午後7時半より2時間とす。(四)本校の授業料は1カ月1円とし入学金は50銭とす。但し毎月3日迄に其月の分を前納すること。(五)本校は当事者及講師、学生中より委員を選出し委員会を組織し、一切の事務を管理せしめ、委員会は1名の常任主事を選出し一切の事務を処理せしむ。(六)本校の趣旨に反したる行為をなしたる者は即時退校を命ずる事あるべし。 第1期(大13・4・1—6・30)講義科目・講師 経済学 法学士 水谷長三郎・社会思想史 法学士 波多野鼎・社会学 法学士 林要・哲学 文学士 土田杏村・法律 弁護士 小田美奇穂・性教育 理学士 山本宣治・社会思想 法学士 住谷悦治 京都地方労働運動史</p> <p>(2) 府工場課で調査したる大正13年中工場法適用の工場に於て法規に違反したのは全部576件だが其内訳は左の通りである。 一、扶助規則を職工に周知せしめざるもの 170件 一、就業時間、休憩、休日の掲示を怠ったもの 120件 一、職工名簿の調製又は備付を怠りしもの 106件 一、職工名簿の記載を為さざるもの 40件 一、扶助規則の届出を怠りしもの 31件 一、職工賃金を毎月一回以上支給せざるもの 30件 一、無認可職工貯金管理 17件 一、15歳未満の男子又は女子をして12時間以上就業せしめたるもの 17件 一、無認可学齡学童使用 16件 一、幼年工を使用したもの 11件 一、負傷疾病月報の報告を怠りたるもの 1件 一、輸出絹織物の業務を廃止し其届出を怠りたるもの 1件 一、工場法適用の届出を怠りたるもの 1件 合計576件 日出 大14・3・30</p>	<p>1・7 清浦内閣成立。 1・10 政友・憲政・革新の3派、清浦内閣反対を決議(第2次護憲運動開始)。 1・20 特権内閣打倒の護憲3派同盟結成。 1・一 皇太子ご成婚につき内帑金100万円下賜(これを資に2月に慶福会を組織)。 2・5 護憲全国記者大会、上野精養軒で開催。(このころ、護憲大衆運動活発)。 2・10 総同盟全国大会、方向転換宣言(~12日)。 2・一 共産党森ガ崎会議、解党を決議。 2・一 中央職業紹介委員会組織。 3・1 産業労働調査所設立。 3・11 このころ東京の震災地跡バラック街に腸チフス流行。 3・15 海軍労働組合連盟結成。 3・17 京都市、水道橋に婦人職業紹介所開設。 3・26 新潟県木崎村小作争議激化。 4・4 小作制度調査会自作農制定要綱発表。 4・9 日農、第1回農民デー挙行。 4・27 日本フェビアン協会第1回協議会(5・1機関誌『社会主義研究』発刊)。 4・一 社会事業調査会官制廃止。 5・1 『マルクス主義』創刊。 5・10 総選挙、護憲3派圧勝。 5・22 南海・阪神・京阪・阪急など関西交通機関争議続発(~7・14)。 6・10 東京帝大セツルメント、本所柳島に開設。 6・11 加藤護憲3派内閣成立。 6・28 政治研究会創立大会(9月機関誌『政治研究』発刊)。 7・22 小作調停法公布(12・1施行)。 7・22 借地借家臨時処理法公布(8・15東京・神奈川に施行)。 8・一 全国に嗜眠性脳炎流行。 9・21 機械技工組合など自由連合派5組合、関東労働組合連合会結成。 10・4 新設の小作官任命。 10・5 総同盟関東同盟大会、左翼4組合退場(関東同盟会内紛)。 10・一 新潟県下の農村で女子の出稼ぎ増加(このころ各地で女工募集引抜き激しく問題化)。 11・9 関西技工労働者組合など自由連合派6組合、関西労働組合自由連合会創立。 11・12 全国学生軍事教育反対同盟結成。</p>



社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>5・28 京都市の友仙職工約500人、賃下げ反対・手待日当制定大演説会を出町東北クラブで開催。閉会后、警官と衝突し染物労働組合員25人検束。 日出 5・30</p> <p>5・一 小野友仙工場・東山友仙工場(京都市)、赤坂友仙工場(葛野郡太秦村)で賃下げ反対の労働争議発生。 日本労働年鑑 6</p> <p>5・一 綴喜郡都々城村、南桑田郡大井村(日農関係)で小作争議。朝日 6・21、日本労働年鑑 6</p> <p>6・1 乙訓郡久世村大藪において大藪水平社創立大会を開催。200人参加。 同和通信 6・7</p> <p>6・7 産児制限講演会、三条青年会館で開催。山本宣治・野田律太・三田村四郎等講演。 日出 6・7</p> <p>6・21 印刷工組合(アナ系)の指導の下に争議中の正文舎(市内高倉)で、争議団・組合員工場にうちこわしをかけ、6人検挙。 日出 6・22、23</p> <p>6・26 合同労組西陣支部、休機反対演説会を西陣教会で開催。7・5にも同所で開催。 京都地方労働運動史</p> <p>6・一 南桑田郡亀岡町(南桑連合会関係)、綴喜郡都々城村で小作争議。 日本労働年鑑 6</p> <p>7・1 京都市電従業員、賃上げ・8時間労働制・京都交通労働組合承認等を要求して嘆願書提出。5・6、交通労組の発会式。市当局要求拒絶(7・8)により争議状態となったが、12日争議団側闘争を打ち切る。21日8人解雇。 日出 7・6、9、12、25</p> <p>7・7 合同労働組合千本支部(京都ガス会社内)発会式。6・23には、中央支部が結成。 京都地方労働運動史</p> <p>7・20 陶磁器工組合、震災後の不況を理由とする賃下げに反対リスト。8・12、国粋会の仲裁により妥結。 日出 7・26、8・13</p> <p>8・10 福知山水平社創立大会、福知山公会堂で開催。 愛国新聞 8・21</p> <p>8・22 市内の瓦工、賃下げ通告に対し今年中延期の嘆願書提出。 日出 8・24</p> <p>8・一 尾崎友仙工場で争議。日本労働年鑑 6</p> <p>9・一 洛西友仙染物同業組合で争議。同上</p> <p>9・一 大杉栄殺害の復讐として暗殺を計画したため新谷与一郎、八木信一らアナキート4人逮捕。 京都地方労働運動史</p> <p>10・2 染物労働組合、市内西院の古荘工場に対し賃上げ、解雇手当の制定等を要求。8日、組合の勝利をもって解決し、職工全員組合加入。なお、磯部友仙工場・北河友仙工場に対しても同一の要求を提出しほぼ要求を貫徹。 同上</p> <p>10・11 織友会解散京都合同労組西陣支部加盟演説会、西陣教会で開催。旧織友会幹部は共助会結成。 日出 10・20、京都地方労働運動史</p> <p>10・一 天田郡庵我村、天田郡福知山町で小作争議。 日本労働年鑑 6</p> <p>11・9 京都印刷工組合、関西労働組合自由連合会に加盟。 京都地方労働運動史</p>	<p>6・3 京都共済会、上京区新町・室町間今出川上ルおよび下京区七条土手町上ルに児童健康相談所を開設。 我らの郷土、社会 4:5</p> <p>6・一 市医師会、府社会課と提携して方面委員と共に、月収70円以下の赤貧患者に治療券を発行。 日出 6・30</p> <p>7・一 府社会課、細民生業資金貸付け実施を決定。 日出 7・26</p> <p>8・4 本願寺、融和事業のためルンビニ学園(下京区東七条郷之町大島屋旅館内)を設置。財源は本願寺・府補助金・有志寄付金。 本願寺派社会事業便覧</p> <p>8・中 船井郡三ノ宮村、旱害による被害農民救済策として府に胡麻停車場線路の改修着手を陳情。 日出 8・22</p> <p>8・一 京都市、錦林託児所に家事見習所を併設。 市政要覧</p> <p>9・一 府社会課、簡易宿泊所に副業ミシン裁縫講習所開設。 市政史上</p> <p>10・17 京都仏教護国団、和敬学園を上京区烏丸寺ノ内上ル慈雲庵に開設。(府下における少年保護事業のはじめ)。社会時報、京都社会福祉事業名鑑</p> <p>10・一 山下義晃(天田郡長田願来寺住職、悲田会)、津田明蔵創設の京都救済院(養護・養老施設)を継承、同寺に移転。真言宗(高野山の後援をえて養老・不具廢疾者を収容)。社会時報 10:5</p> <p>11・1 京都市託児所使用条例公布。 市条例152号</p> <p>11・3 勤儉奨励府地方委員会設立。各市郡に支部設置。 社会 4:6</p> <p>11・10 大阪府の呼びかけで第1回近府県方面委員代表者懇談会を大阪市で開催、京都から方面常務委員大國弘吉・河内長右衛門ら出席。 同上</p> <p>12・9 京都共済会、六原公益質屋(下京区大和大路通五条上ル)開設。 同上</p> <p>12・一 上京第9学区方面委員有志、京極救済会結成。 社会 5:1、方面委員制度20年史</p> <p>この年</p> <p>▷ 府社会課、洛北における里子の調査実施(昭8同志社大学社会事業科の学生が担当して第2回調査実施)。 社会時報 3:6</p> <p>▷ 婦人の協力を呼びかけるため婦人文化講習会など各地で開催。 社会 4:6</p> <p>11・一 染物労働組合第4支部・第6支部、京都市山の内の足立工場・紀伊郡伏見の山手工場で賃上げを要求、組合の要求貫徹。 京都地方労働運動史</p> <p>11・一 天田郡雀部村、相楽郡相楽村(日農関係)で小作争議。相楽村では赤化防止団が争議に介入し農民を威嚇。日本労働年鑑 6、日出 10・19</p> <p>12・23 日本農民組合京都府連合会、嵯峨町公会堂で発会式。約2千人参加。会長森英吉。 日出 12・25</p> <p>12・一 葛野郡桂村、葛野郡花園村、乙訓郡向日町、乙訓郡淀村、久世郡御牧村、久世郡寺田村(日農関係)で小作争議。 日本労働年鑑 6</p> <p>この年</p> <p>▷ 13年中の工場法規違反府下で576件。<sup>(2)</sup> 日出 大14・3・30</p>

参 考	日 本
<p>(3) 洛北里子保護会の事業として</p> <p>1、里子ノ健康増進ヲ図ルタメ、医師及保姆ヲ置キ、里子及里親ノ健康状態ヲ診断シ又ハ里子ノ發育状況ヲ視察シ以テ適當ナル治療又ハ指導ヲ為スコト</p> <p>2、里子依託ノ改善及便宜ヲ図ル為メ紹介ヲ為スコト</p> <p>3、一般育児法ノ改善ヲ図ル為時々ニ関シ特別ノ知識・経験アル者ヲ聘シ講演又ハ指導ヲ為サシムルコト</p> <p>保護会の事務所は愛宕郡役所内におき、その出張所を岩倉村・修学院村・上賀茂村・大原村・八瀬村・松ヶ崎村・静市野村の各役場におく。</p> <p>(4) 京都府方面委員規程(抄)</p> <p>第一条 京都市及府下必要ノ町村ニ方面委員ヲ置ク</p> <p>第二条 方面委員ハ社会的施設ニ資スベキ各般ノ調査ヲナスト共ニ社会ノ福利増進ニ努ムルヲ以テ目的トス</p> <p>第三条 方面委員ノ担当区域ハ京都市内ニ在リテハ其ノ所属スル学区ニ依ル町村ニ在リテハ別ニ之ヲ定ム</p> <p>前項ノ規程ハ急速ヲ要スル場合ニ於テ必要ナル処分ヲ為スコトヲ妨ゲズ</p> <p>第四条 方面委員ハ市内ニ在リテハ各学区ニ於ケル聯合共同組合正副幹事聯合衛生組合幹事小学校長学務委員並篤志家中ヨリ町村ニ在リテハ公共ノ職ニ在ル者並篤志家中ヨリ知事ノ嘱託ス方面委員ハ名誉職トシ其ノ任期ヲ二ケ年トス、但シ再嘱託ヲ妨ゲズ</p> <p>(以下略)</p>	<p>11・16 総同盟関東同盟会理事会、渡辺政之輔ら6名除名、内紛激化。</p> <p>11・27 日本交通労働総連盟創立協議会。</p> <p>12・13 婦人参政権獲得期成同盟会結成(のち婦選獲得同盟と改称)。</p> <p>12・21 関東鉄工組合など5組合、総同盟関東地方評議会第1回執行委員会。</p> <p>12・27 内務・司法両省治安維持法案発表。</p> <p>12・29 内務省、労働者募集取締令公布(施行大14・3・1)。</p> <p>この年</p> <p>▷ 争議件数933、参加人員94,047人、小作争議件数1,532。</p> <p>▷ 府県市社会課などで社会調査を行なう。</p> <p>▷ 地方改善事業講習会など改善運動引続きさかん。</p>

社 会 運 動	社 会 福 祉
<p>1・上 政治研究会、京都支部結成。 京都地方労働運動史</p> <p>1・23 京都合同労働組合製材工支部、大藪製材所市内(千本三条)に対し、組合幹部の解雇反対・賃上げ・解雇手当退職手当の創設を要求してスト。2・2、解雇を撤回し解決。 日出 1・25、大阪朝日 2・4</p> <p>1・24 古荘友仙工場(市内西院)の職工、染物労組の指導の下に賃上げを要求してスト。26日、大藪製材所の争議団と共闘してデモ。29日、国粋会の調停により妥結。 日出 1・25、30</p> <p>1・26 綴喜郡三山木村の小作争議、郡長の調停により解決。 日出 1・31</p> <p>1・27 鹿野製材所・中久保製材所(市千本四条)等の職工約百人、大藪製材所争議に対し同情スト敢行。 大阪朝日 1・29</p> <p>2・14 総同盟京連、煙草労組、陶磁器労組、鈴木文治を迎えて治安維持法反対演説会開催。約700人参加。24日にも演説会を開催。参加者1千2百人、決議文・警告文採択。散会后、デモを行ない検束者を出す。 大阪朝日 2・16、日出 2・25</p> <p>2・15 合同労組製材工支部、合同労組から独立し木材労働組合として新たに発足。 京都地方労働運動史</p> <p>2・16 加佐郡水平社、岡田下公会堂にて開催。 自由新聞 8・1</p> <p>2・一 京都精練株式会社で争議。60人参加。 日本労働年鑑 7</p> <p>3・19 綴喜郡八幡町橋本の津田電線八幡工場に合同労組橋本支部結成。 京都地方労働運動史</p> <p>3・下 京都市河原町三条の鮮明社印刷所で争議。印刷工組合関与。 同上</p> <p>4・9 日本農民組合京都府連大会、岡崎市公会堂で開催。1千5百人の農民、京都駅前から会場までデモ。 日出 4・10</p> <p>4・18 綴喜郡八幡町の津田電線八幡工場で、合同労組支部幹部7人の解雇反対・賃上げを要求してスト。5・8、国粋会の調停により解決。組合側敗北。 日出 4・25、5・9</p> <p>5・1 浜口友仙工場(市内東九条)で争議、28日、解雇手当制等を獲得して解決。総同盟京連関与。 日出 5・29、京都地方労働運動史</p> <p>5・5 本年1月以来係争中の乙訓郡向日町の小作争議解決。 日出 5・6</p> <p>5・17 労働総同盟革新同盟、除名問題について報告会を開催。 京都地方労働運動史</p> <p>6・3~8 田中、東山友禅工場(市内)で工賃の値下げに反対し争議勃発、染物労組の指導の下に値下げ取消・解雇手当の制定などを獲得。 同上</p>	<p>1・15 深草方面救療規程・深草方面委員事業資金規定を定める。 社会 5:1</p> <p>1・23 京都少年保護会、等覚寺(上京区千本通二条下ル東入主税町)に少年保護施設常盤学園を開設。 社会時報 10:5</p> <p>2・15 第1回工場労働統計結果(大13・10調査)を『日出新聞』に発表。工場および労働者の生活状態を調査(〜16日)。 日出 2・15</p> <p>2・24 大阪・京都・滋賀2府1県の第1回近畿方面連絡会を滋賀県で開催。京都から13名参加以後春秋2回ひらく。のち奈良参加。 方面委員制度20年史</p> <p>3・一 京都市、14年度京都市慈善基金利息中から1,000円を貧窮者救済費にあて、2,400円を慈善団体へ補助。 京都医事衛生誌</p> <p>4・11 中郡峰山町青年会、社会事業資金募集活動写真会を開催。 日出 4・16</p> <p>4・一 京都市立盲啞院を分離して盲学校とろう啞学校を設立、開校。 市会史、市政史、市告示222、277号</p> <p>4・一 大蔵省預金部、大13の各府県住宅・社会事業低利資金の申込みに関し、府に対して22万円を融通。 日出 4・18</p> <p>4・一 京都共済会、細民住宅建設計画を発表、当初、下京東七条に建設予定、のち東九条岩本町と決定。建設戸数50戸、費用は共済会、内務省がそれぞれ半額負担。 日出 4・3、6・13</p> <p>4・一 日赤京都支部の篤志看護婦人会、鞍馬口・東寺に児童健康相談所を開設。 同支部沿革誌</p> <p>4・一 司法保護施設吉水教園(上京区浄福寺通一条上ル浄福寺境内)を浄土宗祖法然上人立教750年を記念し浄土宗尼僧などの運動により創設。 社会時報 10:5</p> <p>5・6 京都市、壬生職業紹介所を廃止し、市中央職業紹介所を丸太町千本東に開設。京都市職業紹介所を京都市七条職業紹介所と改称。 市政要覧、市告示335号</p> <p>5・上 府、天田郡の旱害地に府罹災救助資金中から旱害救助資金を貸与。 日出 5・8</p> <p>5・一 京都市、中央簡易食堂を開設。 市政史 上</p> <p>5・一 少年保護を目的に日本少年保護協会京都支部を蛸薬師堀川東空也堂内に設立。 市社会事業要覧 昭14、市学区大観</p> <p>5・一 北但震災により、熊野郡久美浜町・兵庫県豊岡町の被害甚しく、日赤京都支部救護班を派遣。久美浜小学校に救護所を設置。 同支部沿革誌</p> <p>5・一 与謝郡岩屋村に敬老会を結成。 岩屋村誌</p>

参 考	日 本
<p>(1) 4・16総同盟第一次分裂により、左派は5・24日本労働組合評議会を結成。分裂時の両者の勢力は、総同盟・40組合19,460人、評議会・32組合10,778人とほぼ互角の状態であった。京都地方は、評議会の創立に積極的な立場をとる勢力が大半であったところから、総同盟京連の組織がそのまま評議会地評の組織に移行した。</p> <p>(2) 無産者教育協会活動としては、11・1から3日間、山口仏教会館(寺町丸太町)で無産者大学を開催し榎田民蔵・森戸辰男・徳田球一を講師に延200人集めたという。翌大15・2には労働学校を開設。7月から10月末日まで開かれているが、課目と講師は次のとおりである。</p> <p>第1期 経済学(各論)小林輝次・住谷悦治 社会進化論 林要、無産階級運動、志村義雄・谷口善太郎 法律学、水谷長三郎、小田美奇穂</p> <p>第2期 経済学(通論)小林輝次 生物進化論 山本宣治 法律学 高橋信司 労働組合論 京都地方労働運動史</p>	<p>1・16 労働争議調停法案発表。</p> <p>1・20 日ソ基本条約調印、国交回復。</p> <p>1・一 浴風会設立(老衰者・不具痾疾者保護を目的)。</p> <p>1・一 東京市自由労働者失業救済委員会設立。</p> <p>1・一 全国主要都市24カ所ならびに附近地域の失業調査を実施。</p> <p>1・一 上海で日本共産党再建組織方針決議、1月テーゼ作成。</p> <p>2・3 全国労働組合協議会設立打合せ会。</p> <p>2・11 東京で3憲法(治維法・争議調停法・組合法)反対示威運動。</p> <p>2・一 全国融和連盟創立大会開催。</p> <p>2・一 中央社会事業協会主催第1回社会事業講習会開催。</p> <p>3・29 普選法案、両院可決。</p> <p>3・一 不景気で大学の中途退学者、1年間に東大413人、京大310人など。</p> <p>4・12 左派25組合、総同盟革新同盟を組織(総同盟第1次分裂)。</p> <p>4・13 田中義一、政友会総裁に就任。</p> <p>4・22 治安維持法公布。</p> <p>5・5 普選法公布。</p> <p>5・14 革新倶楽部と中正会、政友会に合同。</p> <p>5・23 失業統計調査令公布(10・1内閣統計局、失業者105,595人と発表)。</p> <p>5・23 兵庫県北部但馬地方に大地震。</p> <p>5・24 神戸で日本労働組合評議会創立大会、機関紙『労働新聞』発刊(〜27日)。</p> <p>5・27 普通出版物取締規則公布。</p> <p>5・一 陸軍4個師団廃止。</p> <p>7・7 無産青年同盟準備会結成(8月水平社青年同盟と提携、全日本無産青年同盟創立)。</p> <p>7・16 学生社会科学連合会全国大会を京都帝大で開催。</p> <p>7・31 政友会、政友本党と提携、そのため加藤内閣総辞職。8・2第2次加藤憲政会単独内閣成立。</p> <p>8・10 無産政党組織準備委員会第1回協議会。</p> <p>8・18 内務省、労働組合法を発表。</p> <p>9・20 佐野学ら『無産者新聞』創刊。</p> <p>9・25 中央融和事業協会創立。</p> <p>9・一 大阪市労働共済会、日雇労働者を目標とした失業保険的の制度を設置。</p> <p>10・3 全日本鉦夫総連合会第1回全国委員会「日本鉦夫組合」と改称。</p> <p>11・14 富士紡川崎工場争議、総同盟・評議会抗争(〜29日)。</p>

社 会 運 動	社 会 運 動
<p>6・20 乙訓郡羽束師村の小作争議、国粋会の仲裁により解決。 日出 6・21</p>	<p>10・20 北川染工場（東山区）で、染物労働組合の指導のもとに賃上げ、解雇手当制定を要求してスト、賃上げ獲得。 京都地方労働運動史</p>
<p>6・20 京都地方評議会結成大会<sup>(1)</sup>、岡崎市公会堂で開催。約5百人参加。役員会長奥村甚之助・主事兼中央委員谷口善太郎・政治部長桂信三・争議部長古瀬寅之助・調査部長高村幸一・教育部長辻井民之助・財政部長牛島政吉・組織宣伝部長佐々木隆太郎・会計審査委員福田基三・頼野正一・森田五郎・鈴木弥平、加盟組合は電機工組合・染物労働組合・木材労働組合・合同労働組合。 日出 6・22、日本労働年鑑 7、京都地方労働運動史</p>	<p>11・1 評議会と学連協力して、京都無産者教育協会設立。<sup>(2)</sup> 責任者は岩田義道・泉隆・淡徳三郎・大浦梅夫・上村正夫。 同上</p>
<p>6・20～ 市内田中に1カ月間水平学校開設。講師住谷悦治・水谷長三郎・山本宣治・喜田貞吉・高橋信司・林要・西光万吉、約50人の活動家参加。 日本労働年鑑 7、京都地方労働運動史</p>	<p>11・4 干惣友仙工場で、染場労組の指導の下に賃下げ反対、解雇手当待日を要求してスト。11日、要求の大部分認められ解決。 同上</p>
<p>6・下 合同労組千本、伏見支部のある京都ガス会社内日本燃料会社、石田放光堂伏見工場で、解雇手当の制定、解雇者の復職等を要求して争議。陶磁器工組合関係では浅井工場で争議。 京都地方労働運動史</p>	<p>11・5 京都地方無産団体協議会、労働立法対策全労働者大会を三条青年会館で開催。 同上</p>
<p>8・4 河合染工場（西九条）で染物労組指導の下に鹹首者の復職・解雇手当の制定・労働時間短縮を要求してスト。9日、地評の応援を得て工場附近をデモ。18日、組合の惨敗をもって終る。 日出 8・5、19</p>	<p>11・10 西陣燃糸再整会社で、染物労組の指導の下に賃上げ解雇手当の制定・工場衛生寄宿舎食事の改善等を要求してスト、争議団員全員解雇され、指導者は検束される。13日、17日、地評主催の官憲暴圧糾弾演説会。18日、会社へのデモで5人検束。22日、争議団側惨敗。 同上</p>
<p>8・12 印刷工組合、失業問題対策について印刷同業組合と会見。 京都地方労働運動史</p>	<p>11・一 京都市五条の竹山染工場、洛西22工場でも賃下げ反対の争議勃発。 同上</p>
<p>8・16 樽工組合（8・15再建の発会式、総同盟加盟、支部長伊藤留吉）、伏見の製樽業者に対し組合幹部の復職・解雇手当制定を要求してスト。25日妥結。 日出 8・21、京都地方労働運動史</p>	<p>12・1 京都朝鮮労働者協会創立。 日本労働年鑑 7</p>
<p>9・上 京都市洛西の友仙工、賃上げ・失業防止等を要求して争議。 日出 9・5、6</p>	<p>12・1 京大社会科学研究会・同志社大社会科学研究会の事務所および会員の私宅家宅等捜査され、約30人検束。24日、京大法学部経済学部、意見書発表。 朝日 12・2、日出 12・5、25</p>
<p>9・18 京都地方無産団体協議会結成。構成団体は、日農京都府連・陶磁器工労組・煙草労組・府水平社・政治研究会・朝鮮労働同盟・向上会・労働学校・学生社会科学連合会。大15・1地評、正式加盟。 京都地方労働運動史</p>	<p>12・7 地評、農民労働党禁止批判演説会を岡崎市公会堂で開催。 京都地方労働運動史</p>
<p>9・19 失業問題 演説会、岡崎 市公会堂で開催。 日本労働年鑑 7</p>	<p>12・14 相楽郡木津町の小作争議、区長の仲裁により解決。 日出 12・16</p>
<p>9・27 市内石工共和組、業者団体聖徳会に対し賃上げを要求。11・3、ストに突入。10日、妥結。 日出 9・28、京都地方労働運動史</p>	
<p>10・5 評議会地評、レプセ（ロシア金属労働組合執行委員長）歓迎暴圧反対、官憲糾弾演説会を三条青年会館で開催。 京都地方労働運動史</p>	
<p>10・中 小作料の永久3割減をめぐる紛争中の相楽郡高麗村の小作争議、警察署長、村長の斡旋により5年間2割減で解決。 日出 10・24</p>	

社 会 福 祉	日 本
<p>6・1 寺院住職山本高源、南桑田郡千歳村国分託児所開設。また農繁期託児所毘沙門託児所を千歳村に開設。（収容人員45人）。社会時報 2:6</p>	<p>11・28 総同盟中央委員会、無産政党準備会から脱退決定、単一無産政党結成挫折（～29日）。</p>
<p>6・17 与謝郡医師会、救療部を開設。 京都医事衛生誌 376</p>	<p>11・一 6大都市失業者救済のため日雇労働失業者登録を開始（東京・大阪）。</p>
<p>6・25 大毎慈善団、上京区寺ノ内新町西入ル妙顕寺境内久本院に無料巡回病院を開院。 同上</p>	<p>11・一 第1回大谷派保育大会開催。</p>
<p>6・一 府社会課、京都共済会の事業として工費5万5千円で市内3カ所に社会館の建設を決定。第1社会館は下京区靱町通七条下ルに9月開設。 市社会事業要覧 昭14</p>	<p>12・1 農民労働党結党、即日禁止。</p>
<p>7・20 府教化団体連合会（府内務部社会課内）結成。 府庁文書 大15</p>	<p>12・1 学連事件第1次検挙。</p>
<p>7・21 日赤京都支部、綾部診療所を開設（綾部町神宮寺町）。 同支部沿革誌</p>	<p>12・4 別子銅山争議（～大15・2・16）。</p>
<p>7・28 中郡供済会、中郡内各町村寺院住職および幹事の出席を求め免囚保護および講習会・一般社会事業について協議会を開催。 日出 7・9</p>	<p>12・19 内務省、営利職業紹介事業取締規則公布（施行昭2・1）。</p>
<p>7・一 知恩院に社会課を創設。 市学区大観</p>	<p>この年 ▷ 争議件数816、参加人員8万9,117人、小作争議件数2,206。</p>
<p>8・一 内務省、6大都市失業者救済会議開催。 市会史</p>	<p>▷ 政府、財政緊縮方針を貫く。</p>
<p>9・5 京都市産婆会、附属事業として中京区西ノ京西町の事務所内に妊産婦無料相談所を開設。 社会時報 10:5</p>	<p>▷ 経済不況、6大都市土木事業を起して日雇労働者救済に努力。</p>
<p>9・17 府親和会主催地方改善講習会を田辺郡会相談所で開催（～19日）。 日出 9・22</p>	<p>▷ 細井和喜蔵『女工哀史』刊行。</p>
<p>9・28 宮津盲啞学校開校（校長日本聾口話普及会地方委員中村時次郎）。 ろう学校90年史</p>	
<p>10・1 脇田良吉、白川学園を愛宕郡鷹ヶ峰に移す。 同園発行つくも 17、社会時報 3:6</p>	
<p>10・一 労働者失業統計調査実施。 市会史</p>	
<p>10・一 社会事業従事者大会開催。このとき満場一致で府社会事業協会再興を可決、大15・1から活動開始。 社会時報 3:3</p>	
<p>11・21 京都市会、染色業界不振による約2,500人の失業者のために、河川浚池など失業救済事業費52,000円を大14年歳入歳出予算として議決。 市会史</p>	
<p>12・22 市医師会、幹事会において、無料診療に関する討議を行なう。社会事業対象の救療と一般治療との関連を論ず。 京都医事衛生誌 382</p>	
<p>12・28 京都市社会課の支援組織として京都市民共済会、発足。 市社会事業要覧昭13</p>	
<p>この年</p>	
<p>▷ この年から毎年京都市では、失業者の増加に対処して、冬期100日間、一般日雇労働者救済事業を行なう（12年中旬から実施）。 市告示549号、市学区大観</p>	

社 会 運 動	社 会 福 祉
1・8 久世郡御牧村で小作争議。 農民組合運動史	1・28 京都市社会課は学務課と協力し事業主・小学校・実業組合関係者を集め、小学校卒業生の職業指導を行なう(市初の試み)。日出 1・29
1・15 相楽郡高麗村小作争議解決。 日出 1・19	1・一 池田知事、第1回府下社会事業大会で「社会事業思想普及の方法如何」を諮問。府社会事業協会は委員選任と答申案を作成。 日出 1・17
1・15 京大・同大の社研会員検挙事件(大14・12・1)の発展として、東京・京都・大阪等の各検事局、社研関係の検挙開始。4月末まで38人を検挙し、河上肇・山本宣治宅も捜索を受ける。 <sup>(1)</sup> 日本労働年鑑 8	1・一 上京区第一方面、共助会を設立。 方面委員制度20年史
1・16 無産青年同盟京都地方準備会結成、中心的活動家は朝田善之助・沖田留吉・早川忠孝ら。 京都地方労働運動史	3・29 京都市の失業救済土木事業に従事した労働者数大14・12・17からこの日まで延約2万人におよぶ。 日出 3・30
1・16 南桑田郡河原林村小作争議、国粋会の介入により解決。 日出 1・19	3・上 下京社会事業後援会を錦林校および第一社会館内に設立。 方面委員制度20年史
1・25 紀伊郡下鳥羽村小作争議解決。 農民組合運動史	4・1 府少年教育相談所を室町通今出川に設立。児童鑑別を実施。 <sup>(7)</sup> 感化事業回顧30年
2・7 三悪法反対デモと演説会開催。地評・陶磁器・煙草・印刷などの組合員約2千人参加し京都駅前から円山にデモ。夜、三条青年会館で演説会。 <sup>(2)</sup> 日出 2・8	4・1 京都市中央職業紹介所の副業ミシン裁縫講習所を改め、中央授産所を開設。市政要覧
2・8 奥村電気商会(京都市吉祥院)で大12大争議の際の裏切職工を役付にしようとしたところ職工の排斥運動起こり、18日には約4百人ストに突入。奥村電気に支部をもつ国粋会仲裁に入り19日妥結。 日出 2・17~20	4・15 京都聾口話幼稚園を千本三条東入ル京都盲啞保護院内に設立。(日本最初の聾児幼稚園)。創立90年史
2・22 日農京都府連、滋賀連合会と合併して日農京滋連合会を結成、委員長阪本兵蔵・主事森英吉。 京都地方労働運動史	4・一 府下、官民合同(府・市および鐘紡・奥村・島津などの大工場・府下有数の諸会社・労働団体)の代表からなる失業救済委員会を組織。 日出 4・30
2・22 日新電機会社(上京区)で鋳物部廃止により4人解雇。25日職工側14項目の要求を出し26日ストに突入。28日争議の幹部8人解雇。3・1職工側会社にデモをかけ30人検束、4日地評の応援を得て西陣署官憲糾弾演説会開催。6日会社側切崩しにかけ8日機械破壊により8人検束、10日争議団87人辞職し争議完敗。 日出 2・26~3・16	4・一 天田郡雲原村の西原亀三、(財)西原里仁会を結成。 天田郡誌
2・23 山本捺染工場(市内綾小路千本)で賃下げ反対の争議、3月3日争議報告会。 日出 3・4	5・1 中小路守道、加佐郡八雲村三日市農繁期託児所を開設。 社会時報 5:6
3・7 加佐郡木材工組合、舞鶴町公会堂で創立総会。製材工約80人、傍聴者約200人参加、八時間労働制・最低賃金制・災害保険制要求等を決議。 京都地方労働運動史	5・3 上京区方面委員、養老院建設と異常児保護に関する調査委員会を設置することを決議。 府公同委員制度
3・9 奥村電気商会で先の争議以後2人解雇され、復職・退職手当制定等を要求してスト。12日争議団幹部11人13日金属工組合員54人解雇、31日争議団敗北し解散(なお、500人の従業員が残ったが、昭4・10・31経営不振によりて工場を閉鎖)。 日出 3・10~16、京都地方労働運動史	5・13 内務省、京都市社会課に知識階級専門の職業紹介所・当該委員会・知識階級失業者の再教育機関などの設置に関し通ちょう。 日出 5・18
	5・18 森山歙溪、上京区紫野大徳寺山内竜源院に(財)紫野施薬所を開設。(西陣・紫野地区の貧困者のための施療・施薬・施乳・委託施療券配布など)。 社会時報 10:5
	5・19 市民共済会・市社会課で理事会を開き、窮民救助・失業保護・罹災救護に関する事業細則を制定。 日出 5・20
	5・23 京都婦人連合会、婦人相談所を河原町四条上ル了徳寺内に開設。 日出 5・24
	5・26 京都市社会課、慈恵救済給与に関する内規を示し、市の救済方策を明らかにする。 日出 5・27
	5・一 福知山実業協会、世事相談所を設け職業・家事などの相談にあたる。 日出 5・13
	5・一 内務省、伏見町職業紹介所を認可(6・1事業開始、当分の間町役場内)。 日出 5・12

参 考	日 本
(1) これは初の治安維持法適用事件であるが、予審決定書によれば、「被告38名ハ執レモ日本帝国ノ国体及経済組織ト相容レザル『マルキシズム』『レーニズム』ノ社会革命思想ヲ抱懐シ学生及無産階級ニ対シ組織的ニ是等ノ革命思想ヲ普及シ之ヲ指導訓練シテ所謂無産大衆ヲ抱擁スル大団体ヲ創成シ組織的大衆ノ革命運動ニヨリ一切ノ権力ヲ無産階級ニ掌握セシメ日本帝国ノ根本組織ヲ変革シテ無産階級ノ政治的支配階級タル地位ヲ獲得シ其独裁政治ヲ施行スルト共ニ凡ユル生産機関ヲ社会ノ共有ニ帰セシメ以テ経済組織ノ大根柢タル私有財産制度ヲ破壊シ共産主義社会ヲ建設セント企テ其実行ニ関シ種々協議ヲ為シタル」ものとされている。この京都学連事件について当局者は次のような意見を發表している。「『被告学生の多くは高等学校、中学当時にかかる思想に感染せるもの、原因は健康上又は環境上に由来し深い根柢はない、大学だけでは研究の自由は許してあるが、1歩實際運動に踏み出す団体あれば、断然禁止する。』…(岡田文相) 『学生の信念が如何に真面目であらうと法がある以上裁かなければならない。由比正雪、大塩平八郎、近くは大逆事件、共産党事件にも類する大事件で、もう少し放っておけば大変なものになったらう。自分は一大決心を以て検挙した。』…(古賀検事正) 『吾党再三の忠告を無視して文相が充分取締らなかったからだ文相の責任だ。』…(政友会) 日本労働年鑑 8	1・13 上野公園で東京日日新聞社主催こども博覧会、7・1京都でも開く。 1・15 学連事件第2次検挙。 1・20 独立労働協会第1回協議会。 1・20 共同印刷3,000名の争議(〜3・18)。 1・28 加藤首相病死し内閣総辞職。1・30若槻憲政会内閣成立。 1・31 黒色連盟結成、無政府主義大同団結。 2・7 労働法反対全国一斉示威運動。 2・16 労働組合法案、衆議院に上程。 2・一 福本和夫「山川氏の方向転換論の転換より始めざるべからず」を『マルクス主義』に発表。 3・5 大阪で労働農民党結党。 3・10 日農第5回大会第1次分裂(脱退派4・11全日本農民組合同盟結成)(〜12日)。 4・9 労働争議調停法公布。 4・9 治安警察法改正第17条撤廃。 4・10 暴力行為等処罰に関する法律公布。 4・20 青年訓練所令公布(7・1施行)。 4・21 浜松日本楽器1,200名の争議(〜8・8)。 5・5 新潟県木崎村小作争議激化(〜6月)。 5・16 政治研究会、大衆教育同盟に改組。 5・21 自作農創設維持補助規則公布。 5・25 小作調査会設置。 5・29 文相、学生の社会科学研究的の絶対禁止を傳達。 5・一 内務省社会局救貧法案発表(救護法の前身)。 5・一 貴衆両院議員融和问题研究会を設置。 5・一 中央融和事業協会主催第1回融和事業従事員講習会。 6・30 健康保険法施行令公布(施行7・1)。 7・1 郡役所廃止、道府県に学務部設置、土木部、産業部、衛生部の設置可となる。 9・一 朴烈怪写真事件。 10・1 健康保険署設置(北海道4・各府県1カ所ずつ計50カ所)。 10・11 救世軍司令官ブース大将来日。 10・17 日本農民党結党。 10・19 議会解散請願運動全国協議会。 10・24 労働農民党分裂、総同盟系脱退。 10・一 婦人児童売買禁止国民委員会設立。 11・12 松本治一郎ら全国水平社幹部15人、福岡歩兵24連隊差別反対斗争に開連し検挙される。 11・一 健康保険反対争議頻発(12月現在、健康保険組合319設立認可)。
(2) 三悪法とは、労働組合法案・労働争議調停法案・暴力行為処罰法案。その他参加団体は、水平社、農民組合、朝鮮労働、無産政党期成同盟である。	
(3) 小作農民の小作料5割減要求に対し、5月末から地主側、小作地立入禁止を執行。この日日農京滋連合会、約1千人の組合員を動員して佐山村の立入禁止田に田植えを強行。30日地主側、警察の援護のもとに佐山村・美豆村で植付けを強行。組合側、美豆村へ700人佐山村へ800人を動員し警官隊と大乱闘(24人起訴)。調停裁判により10月末は小作人側の要求にそって解決。	
(4) 請願運動は直ちに具体化し始め、9・15には労働農近畿地方協議会が、10・19には議会解散請願運動が大坂で開かれた。請願運動は全国的に高揚しつつあったが、労働農本部は支部に対し全国協議会への参加を極力抑止していた。この運動の成功は、10・24の総同盟の労働農脱退へとつながっていく。	



社 会 運 動	社 会 福 祉
4・一 奥村友禅工場で賃下げ反対、手持日当制定を要求して争議、賃下げは阻止。 京都地方労働運動史	5・一 天田郡罹災救助資金として各村に郡役所の費用蓄積を奨励。 日出 5・8
5・1 舞鶴ではじめて共立会の主催でメーデー。 同上	6・1 平安養育院、附属事業で養育園を鞍馬口寺町東に開設。 市学区大観、府庁文書 大15
5・16 労働農民党京都滋賀支部創立大会、京都市公会堂で開催。2,962人が党員資格審査にパス。支部長森英吉・書記長面甚左衛門・会計中川義久・会計監査水谷・小田・山本。 同上	7・1 府社会課、学務部社会課となる。 庁達5号
5・一 印刷工組合、高木印刷所に対し休業手当を要求し交渉の結果獲得。 同上	7・10 大日本仏教慈善会財団の寄附金により、六条診療所を下京区油小路通七条上ルに設置。 本願寺史
6・5 清水染布工場(千本三条)で衛生設備・食事の改善を要求してスト、7月上旬争議惨敗。 同上	7・25 府社会事業協会、府立第1高女で社会事業夏期講習会を開催。社会問題・児童保護事業・隣保事業・融和事業を討議(～28日)。 日出 7・16
6・11 久世郡佐山村・御牧村、綴喜郡美豆村で大小争議(城南小争議)勃発。 <sup>(3)</sup> 日出 6・15、農民組合運動史	7・一 『日出新聞』、「社会測量」と題して社会課による各種社会状況調査の推移・職業婦人と商工徒弟問題調査を紹介。 日出 7・8～12
7・2 アナ系京都一般労組、印刷工組合本部で創立大会(昭2以後消滅)。京都地方労働運動史	8・1 府社会事業協会、東九条住宅を建設(下京区東九条山王町)。 京都社会福祉事業名鑑
7・5 共立会員9人、舞鶴町議選に立候補し8人当選。 同上	8・2 府、全市の不良住宅地域東七条・東三条教業町など4カ所を指定し調査方を通知。(調査項目は戸数・坪数世帯人員・空地・社会的施設・各地域の総坪数)。 日出 8・4
7・18 労働党京滋支部・無産団体協議会、土地立入禁止反対、耕作権確立労働者農民大会を三条青年会館で開催し750人参加。 同上	8・15 少年司法保護施設大照学園、下京区富小路五条下ルに開設。 <sup>(4)</sup> 京都社会福祉事業名鑑ほか
7・26 労働党立党声明演説会、嵯峨町公会堂で開催。小林輝次・面甚左衛門・森英吉ら演説し約600人参加。8月21・25日には、西陣キリスト教会・北野桜井屋で立党声明出張演説会開催。 同上	8・一 相楽郡大河原村童仙房に療養所設置噂に対し挙郡一致の反対運動の動き。 日出 8・20
7・一 染物労組の指導で永田・中西・市田・近藤の友禅工場で争議。8・6争議報告会。同上	8・一 この月から11月にかけて、40余回にわたり京都市内方面委員の各地区の活動が『京都日出新聞』によって詳細に紹介される。 日出
8・2 印刷工労組・一般労組、労働運動批判演説会を西陣キリスト教会で共催。 日出 8・4	8・一 伏見共立自治会、改進黨保館を開設(伏見竹田狩留盟町)。 市政史上
8・22 労働党京滋支部・無産団体協議会の連名で耕作権確立・団結権罷業権の確立・言論集会結社の自由・議会解散等をスローガンに全国的請願運動を提唱。 <sup>(4)</sup> 京都地方労働運動史	9・7 府、事業開始後3年以上を経過した社会事業団体に対する奨励助成に関して達す。 5社1269号
8・22 労働党京滋支部、四団体排除非難の質問書を中央委に提出。 <sup>(5)</sup> 同上	9・13 京都市社会課、公設七条簡易食堂・中央簡易食堂における客の調査を実施。調査項目は年令・職業・注文品・嗜好量・食事のカロリーなど。 日出 9・14
8・31 品川製作所京都分工場(金属工組合の支部)で賃上げ、手当の本給繰入れを要求して争議。9・3妥結。 同上	9・一 京都市社会課、2,051名の職業婦人を対象に状態調査を実施(調査項目は分布異動・年令・配偶者関係・就職理由・子供の有無・教育程度・住居状態・勤務状態・社会施設への希望)。 日出 9・22
8・一 辻井製材工場(木材労組第2支部)で解雇手当負債手当等をめぐって争議。 同上	10・7 京都市社会課、職業紹介所長会議を催し、知識階級者職業紹介・少年職業指導などを討議(～8日)。 日出 10・10
9・10 労働党京滋支部・無産団体協議会、西陣署想定問題に関する労働者国民大会を開催。 <sup>(6)</sup> 日出 9・11	10・13 府下方面委員第1回総会を市公会堂で開き事業報告などを行なう。 日出 10・13
	10・一 京都市、職工扶助規程を制定。 日出 10・6、18
	10・一 市内の結核患者推定数2万。そのうち、1万は不全治療、さらに1,000名は経済的に治療の道をもたず。 日出 10・3

参 考	日 本
(5) 四団体とは、評議会・無産青年同盟・政治研究会・水平社青年同盟であるが、総同盟側が中央執行委員会で入党を拒絶していた。	12・3 総同盟第2次分裂、12・4被除名派、日本労働組合同盟結成。
(6) 「西陣想定問題」とは西陣署長が署員の非常呼集訓練を行なった際に社会主義者を仮想敵とする想定を与えたもの。	12・4 山形県五色温泉で共産党再建大会。
(7) 府少年教育相談所の事業内容は精神薄弱児の研究・非行少年の鑑別を行なう。開設以来1年間の実績は4,000件にもおよぶ。5・11府は少年教育相談所規程を公布。 日出 昭2・5・19、告示285号	12・5 社会民衆党結党。
(8) 当初は少年保護施設であったが、昭15・4に細井照道が経営を引継ぐ。昭24・3少年法改正により解散し、児童福祉法による施設として再発足。昭26・9東山区林下町に移転。	12・9 日本労働党結党。
	12・13 統一運動全国同盟創立大会。
	12・25 大正天皇死去、昭和と改元。
	この年
	▷ 労働者の教育大いに起り労働学校・労働者講習など開設される。
	▷ 内鮮融和事業大いに促進される。
	▷ 文部省、少年職業指導施設に関し調査開始。
	▷ 争議件数1万2,060、参加人員12万7,267人、小作争議件数2,751。
社 会 運 動	社 会 福 祉
9・28 昨年11月の西陣燃糸再整会社争議の際に公務執行妨害で逮捕され服役中であった増原幸四郎の出獄歓迎で、染労組員約100人刑務所におしかけ12人検束。 日出 9・29	11・3 大倉恒吉(伏見材木町、酒造業)の寄附10万円を資に町立伏見病院設立、開院式挙行。(のち財団法人伏見病院)。 社会時報 10:5
9・下 日本製布工場(宇治郡向島村)で労働災害の補償をめぐる争議、10・16組合側の要求貫徹。 京都地方労働運動史	11・22 社会局、府の住宅その他社会事業に関する低利資金所用を認可。 日出 11・23
10・19 煙草労組、専売局京都工場幹部の醜状を糾弾する演説会を三条青年会館で開催。このため7人解雇。 日出 9・23、10・16、京都地方労働運動史	11・一 府、日雇労働者の失業救済の事業認可を内務省に申請。国庫より22,000円の補助を受ける。 日出 11・28、12・1
10・24 京都サラリーマン・ユニオン、三条青年会館で創立大会を開催。 日出 10・25	11・一 京都市、内務省から不良住宅改善補助費11万余円を受け、東七条・東三条地区の改善を検討。 日出 11・7
10・一 亀岡に労働党丹波支部結成。 京都地方労働運動史	12・1 上京第2連合方面委員会、映画俳優志願の家出少年のために持別人事相談所を設置(のち第3社会館内に移る)。 方面委員制度20年史
11・10 京都市洛西の友禅職工、嵯峨町公会堂で賃下げ反対の演説会開催。 日出 11・11	12・2 東京での全国児童保護事業会議に府から16名が出席。貧困母子・貧児・孤児などの児童扶助を協議(～4日)。 日出 12・1
11・24 印刷工組合・一般労組・黒色解放社など非政党政協議会を結成。京都地方労働運動史	12・一 府共済会、天皇崩御に際し、救恤者を調査し方面委員の貧困カードを基準として、伏見・深草・竹田の方面区域200世帯に救恤金を支給。 日出 12・28
11・一 無名芸術家協会発足。「無名芸術」発刊。 同上	12・一 伏見慈善会、1,500円をもとに困窮者に就業資金として1口15円以内を無利子で貸付。方面委員が協力。 日出 12・24
11・一 京都サラリーマン・ユニオン、京都市役所の人員整理計画に反対しビラ配付、人員整理中止さす。 同上	12・一 京都市の方面委員、上下京区併せて691名、本年1～10月の取扱件数約15,000。 日出
12・15 南桑田郡篠村小作争議発生。篠村史	
12・下 加佐郡木材工組合、能登製材所に健康保険料全額経営者負担を要求し争議に至らないで獲得。 京都地方労働運動史	